Photo essay

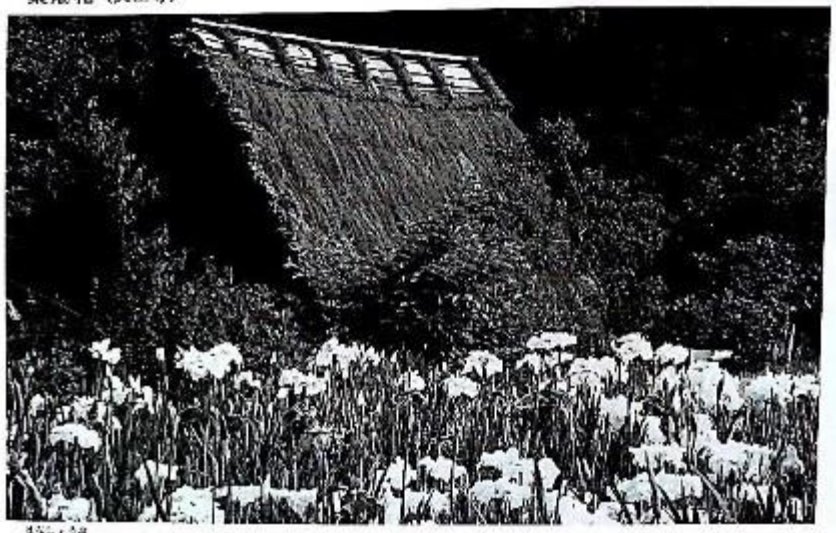
初夏

題字　中田関石
撮影　由井　収
文　松永恵一

石楠花（宝生寺）

雨上がりの朝は緑が輝いている
石段の上に柿葺きの屋根がのぞく
石楠花が咲き誇り辺りを染める
ほの白い花　紫より紅の勝つ花
青めく花　淡い紅色　淡雅な花
紫陽花がいちめんに咲いている
七変化とか移り気とかいわれる
紫　赤　うす紫　白　真っ青な花
藍色の大手鞠が露を帯びている
水面に濃い紫の影をうつして
花菖蒲がびっしりと咲いている
水から花へと葉が伸びてゆき
少しふらついて見える
自然に抱かれて安らっている
胸の中にも爽涼の風が吹き渡る

紫陽花（矢田寺）



花菖蒲（信貴山）

季節の実景

初夏

撮影　武市通治

たつなみ草

あじさい

野うるし

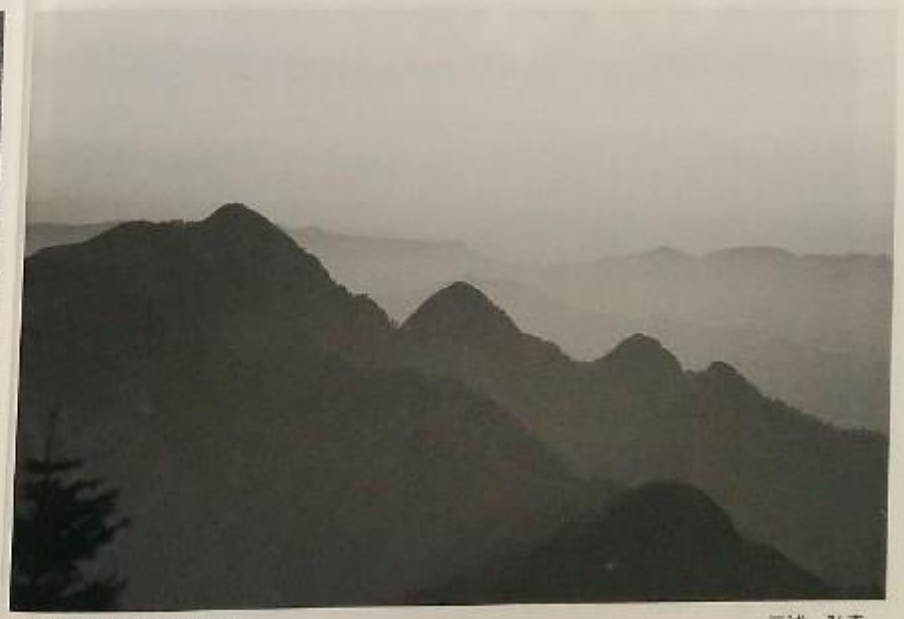
れんげ

野　藤

化粧柳新緑（北アルプス・明神付近にて）　吉沢　栄一

八重桜〈桜名・楊貴妃〉（御室山門付近）　森澤　元博

屏風岩残雪（北アルプス・横尾本谷橋下流にて）　吉沢　栄一



黎明の大喜賢岳（大峰）　三浦　弘幸

●目次

新ハイキング 別冊 関西の山
'97年5・6月 陽春 第34号

表紙:松田敏男「大峰のシャクナゲ」

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。(京都平安画廊、南アルプス山の小屋、東京ギャラリー吉祥、他)
京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
初夏……撮影 由井 収文 巻永 恵一
季節の実景(初夏)……武市 通治 4 2

紀行
随想(山のエッセイ)
ひとりきりの山旅……武藤 俊郎 10
四方山話(3)—亡き山友へ—……芝野 康明 11
地名に残る室町文化の花 仙翁花……綱本 逸雄 12
所定田から岩籠山……西井 賢治 14
三方岩岳からもうせん平……松田 敏男 18
迫載 日本霊山紀行32 守屋山……浅野 孝一 21
彦山・鎮三山と岡田山・黒尾山……多摩 雪雄 24
蕎麦粒山……鷲見 守康 27
藤科山……日野 節雄 30
京都一周トレイル㉜ 北山東部コースを歩く……秦 康夫 32

エリア別研究
近江側から登る鈴鹿の山々—伝説・伝承の紹介(3)
寺勝とお花の伝説・霊仙山の福寿草について……岩野 明 40
㊱㊲押立山(三千峰)
㊳山比古地蔵から巻石・向山
㊴㊵高取山ふれあい公園から八ツ尾山・高取山
㊶大君ヶ畑・山口神社から万野・大見所・茶野……42 44 46 49

●1等三角点峰(500台以上)548座完登の記録(第1回)
私の生い立ちと学友たち……坂井 久光 37
●ツツジ園のある大和葛城山……中村 敏文 52
●文学歴史探訪ハイク㉑
畝傍山を訪ねて……桜永 恵一 56

コースガイド
1 三角山……久保 秀延 60
2 高城山・高田山・高畑山……山形 義之 62
3 大和大野 郷山……曙佐次郎一 64
4 小仏峠越……柴田 昭彦 66

●野の花讃歌(21) 近場で花を訪ねて……市川正次朗 69
●地図読み山行20回……塚元 一彦 55
●迫載 台湾の山々・五岳三尖へ(6) 北大武山……山形 徽之 70

沿線ハイキングガイド……787674
サービスチェーン……569482
せせらぎ
新ハイ関西山行計画と報告……
バス時刻(大峰山系)……
編集後記・広告案内……

巻頭言

栗林一路著『登山家の古典散歩』(新潮選書)のカバー表紙に「古代の山は神の棲む家、不老不死の薬草を採る秘境。王朝時代の山は怨霊の眠る奥つ城、ものの怪が徘徊する冥界。武家時代の山は天然の要害、戦火に追われた民衆が逃げ込む憩れ家。芸能時代の山は、国流人が花鳥風月を楽しんだ興座敷。町人時代の山では、信仰と遊びと探検がいちどに花開いた。日本人は太古から自然とともに生きてきたのだから、これからもきっと山や自然を大切にしていくに違いない」と記されている。

日本人はこのように昔から山に親しんできた。今私たちが「登山道」と称して歩いている山道を幾人が通ったのだろう。いろいろな思いで、いろいろな身丈度で、それぞれに目的を持って歩いたに違いない。「仕事道」「信仰道」「修行道」「交通・通信道」など。

山を歩くとき、この道はどうして出来たのだろうか? どのような人がどんな思いで歩いたのだろうか? などと考えながら歩いてみませんか。きっと新しい発見があり、そしてもっと道を大切にしようと思うはずです。

新ハイキング関西(代表) 村田 智敏

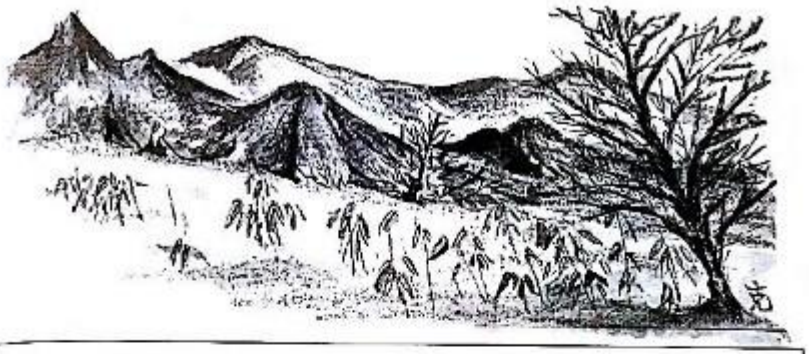
野の花点描 —大峰山系にて—

奥田 英一郎

ツクシシャクナゲ(一ノタワ付近)

オオヤマレンゲ(八経ヶ岳)

イワカゲツツジ(川迫川)



ひとりきりの山旅

武藤　俊郎

灰色の雲が幾重にも立ち込めている。もう明るくなってもいい頃なのに、空は相変わらず薄暗いまま沈黙を続けている。昨夜中降り続いた雨はすっかり上がっていたが、滴の残った濡木の枝をかき分けかき分け進んでいたので、いつの間にかずぶ濡れになってしまった。タオルを取り出しながらふり向くと、ものすごい勢いで雨雲が流れ始めていた。その向こうにはきのう登った塩見岳の荒々しい姿が見え隠れしている。

長い山旅だった。北沢峠から仙丈ヶ岳へ、そしてはるか塩見岳へと続く仙塩尾根をひとり歩き続けてきた。

つらい山旅だった。食料の詰まったザックはずっしりと重く肩にくい込む。もつれる足で歩数をかぞえながら必死に登った塩見岳の急登。

こんな思いをしても、ぼくは山が好きだ。一歩山に入れば、もう頼れるのは自分のみ。自分と対話しながら歩いていると、本当の自分が見えてくるような気がするのだ。

ぼくは何かに行き詰まったとき、そして寂しいときや悲しいとき、いつもひとりで山を歩く。そうすると山が語りかけてくれるのだ。あるときはやさしく、またあるときは厳しく。そしてぼくに生きる喜びと勇気を与えてくれる。

本谷山に到着し、ザックを下ろす。相変わらずあたりは灰色の雲に包まれていたが、わずかに地平線に沿って細長く青色の雪がのびていた。

すこしずつ雲は流れ去り、青い空がゆっくりと広がってゆく。そして、淡い光を受けた銀色の山が美しく輝きながら姿を現した。中央アルプスである。

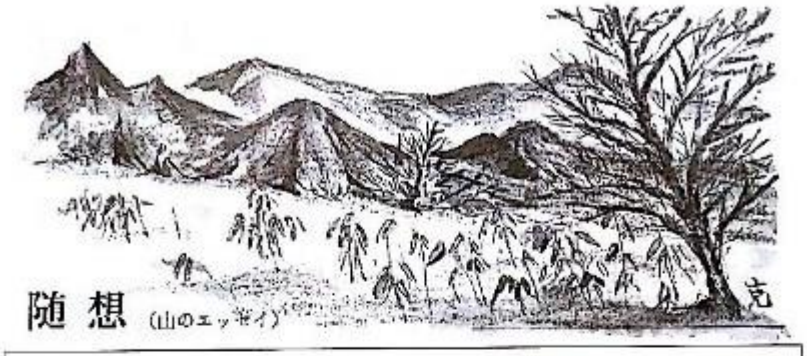
ぼくはじっと見つめていた。そう、きっとあの人はうれしいときも悲しいときも、あの山を仰いで過ごしてきたのだろう……。

ぼくの憧れのあの人は、中央アルプスのふもとの小さな町の出身だった。厳しい自然環境のなかで育ったからなのか、性格のしっかりした心のやさしい人だった。

「すぐ下を天竜川が流れていてね、雪で真っ白になった木曽駒や空木岳がよく見えるわ。そして日の出の時にはだいだい色に輝くのよ」。なつかしそうにふるさとの話をしてくれた。

最後にはいつもこうつぶやくのだった。「でも何もないところ。そう、そう、本当に何もないつまらないところ……」。

ぼくには手の届かない存在となってしまったあの人のことは、



随想（山のエッセイ）

忘れるんじゃなかったのか。そうだろ。

水筒の水を飲みほすと、ぼくは何もかも振り払うかのように勢いよく歩き始めた。シナノキンバイに飾られやまぶき色になった叔道を、ただひたすらくだり続けた。

すがすがしい朝の空気の中に、小鳥のさえずりがのびやかに響きわたる。やがて霧は晴れ、やわらかい日差しが明るく道を照らし始めた。

ぼくはこの道を進まなければならない。そして新しい風景を探しに行かなければならない。

ふと西の空を見上げると、もう中央アルプスは見えなかった。

ぼくの両アルプスの長い山旅もようやく終わろうとしていた。

四方山話（3）

—亡き山友へ—

芝野　康明

君はなぜそんなに急ぐのですか？　山の仲間を置き去りにして、大きなザックを背負った長身の君のスリムなシルエットがずんずん遠ざかって行く……。私たちはなすすべもなく、ただ茫然と見送らなければならないのですか？

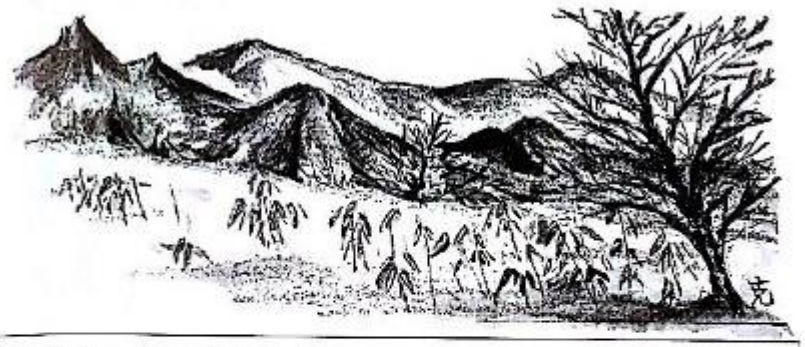
海外の山旅で、君と初めてめぐり会ってから十年近くになります。旅の2日目、川岸で昼食休憩のとき、君のザックから顔を出している細長いものは釣り竿だと分かりました。君は川へと急き、釣り糸を垂れましたね。収穫はゼロでしたが、その太公望ぶりには驚きました。

また同じテントの人が急病で動けなくなったときも、ただちに適切な処置を指示されました。

霧氷の金峰山・緑の六甲山・北アルプス・飯豊連峰等の山行で、君の颯々とした風貌、訥々と語るなかに出るギャグ、豊富な山の知識、人を温かく受け入れる心根、どこに入っていたのかと不審に思われるほど膨大な酒袋に魅了されていました。一昨年の忘年会では、ザックいっぱいのみかんをごちそうになりました。

昨年4月、岩湯山へ御案内いただき、紀見峠の国民宿舎で慰労の盃を交わしたのが、君との最後の宴となってしまいました。

そののち間もなく入院、秋に再度入院、加療も空しく不帰の山旅に出られました。淋しい単独行です。君は今どのあたりを歩いていますか？　私たちのために、木々の幹に赤いテープを付けておいてください。



こぶしを握って小指と親指を立てましょう。君は小指でまっすぐ行ってください。私たちは親指でいつも君のほうを見ています。

私たちは君を決して忘れません。

地名に残る室町文化の花

仙翁花

横本　逸雄

生け花をたしなむ方には周知の夏の花材に、仙翁花がある。ナデシコ科の多年草で、紅色の五弁花を咲かせる。古名は紅梅草ともいった。今ではあまり見かけず、近縁種が茶花に用いられている。

近縁種はいくつかあるが、その一つに節黒仙翁がある。葉の付け根の節が黒いからだが、逢坂草とも言い、由来は京都と滋賀の境の逢坂に多いからだという。栽培がやさしく各地の草地に多い。この花が咲くと夏も終わりに近づく。

中国原産で、漢名は剪秋羅、剪紅紗花。ヨーロッパではこの仲間を「マルタの十字架」、「エルサレムの十字架」というそうだ。花の赤色が、キリストが十字架で流した血を連想させるからだという。

仙翁花は日本には室町時代初期に渡来し、観賞用に栽培された。関白左大臣だった近衛道嗣（通忠、後深心院。1332～1387）の『後深心院関白記』に「永和四年（1378）八月三日、せにをうくゑ（仙翁花）は近ごろ来た花だ」とあり、自邸で催した歌会で公家たちと庭先に咲くこの珍重な花を題材に詠んでいる。当時は将軍足利義満に代表される北山文化が栄えた時代で、連歌、茶寄合、日明貿易を介しての唐物趣味などが盛んだった。

室町時代初期に始まった華道にも活用された。生け花の最初のまとまった文献、世阿弥の『仙伝抄』（1445）に「十二月の花の事」として「十月センノウゲ」をあげている。室町文化を象徴する花と言えよう。のち日本イエズス会によって1603年に刊行した『日葡辞書』（日本語・ポルトガル語辞書）は、布教のため当時の広範な日常語を収録したものだが、「センノウゲ、ある赤い花」とある。徳川家康が将軍に就いた年で、近世には各地で観賞用植物として普及していたことがわかる。

仙翁花の花名の由来は、室町中期の百科辞書『下学集』（1444）に「仙翁花　蛙峨の仙翁寺より始めてこの花を出す故に仙翁花という」とみえる。

蛙峨・化野念仏寺の愛宕街道を挟んだ北向かいの山で、夏の五山の送り火の一つ、「鳥居」

随想（山のエッセイ）

が点火される山を愛宕雑口という。別名が仙翁寺口だ。同寺の存在を疑う学者もいるが、平安中期から鎌倉中期の編年体記録『百錬抄』に「正元元年（1259）、大納言二品（二位）の為に仙翁寺に於いて（法華）八講を始行す。御幸あり」とある。『公卿補任』、『尊卑分脈』、『経俊卿記』にも「正嘉元年（1257）、大納言藤原隆親の逆修（生前に自分の死後の菩提を祈る）結願で、仙翁寺で八講を行い、上皇が行幸」などと出ている。正二位隆親は、『新勅撰和歌集』（藤原定家撰）、『玉葉和歌集』（藤原為兼撰）などにしばしば登場する中世歌人。当時疫病が大流行し、それを治めるために改元したり、諸寺に大寺社で鎮魂たちが祈願をしている。

同寺も上皇らがしばしば詣でるほどの格式の高い寺だったのだろう。仙翁寺とも記されるが、字音から仙翁寺を指すとみてよい。山上にあったという寺は鎌倉時代には廃絶したらしい。のち山麓に移ったのか、江戸時代の百科辞典『和漢三才図会』（1712）には唐草の項で「仙翁花は、僧宗鈍が中国から種を持ち帰るか。仙翁寺の旧地は大覚寺の西で村の名となる。愛宕山の一の鳥居の東の道ばたに小堂があって、仙翁寺という」とある。ただし、宗鈍は平安時代の東大寺の学僧で、687年入宋し唐招提寺開祖に鑑真を建立した高僧。仙翁花の初見は『愚管抄』なので、宗鈍の話は時代が合わない。

同寺の所在については江戸時代の地誌『雍州府志』（1686）も「仙翁寺　清涼寺の北にあり、今寺絶え村の名となる。元本尊弥陀は亦心が作るところ也。今民家あり、畑（畠）山霊社とよぶのは仙翁寺の鎮守、八幡宮也。この寺跡に仙翁花蕃茂す」とある。お宮は現存している八幡宮神社（蛙峨宮原本北松尾）だろう。当地でかつては咲き乱れたであろう仙翁花の花名は、今は蛙峨宮原本の「仙翁町」の地名として残っている。

なお、漢名の剪秋羅の剪は鋏で切る、羅はうすもの（網のように薄い紗）で、花弁の縁が薄ものをギザギザに切ったようだという意味である。だから、仙翁の仙は剪、翁は公が紅、羽が羽衣の羅（うすもの）をもじって合成し生字化した語でないかと思う（『和漢三才図会』は別名剪紅紗と記す）が、推測の域をでない。

明るい草原の逍遥と360度の大展望

新正田から岩篭山

酒井賢治

湖北

昨年4月下旬から5月下旬にかけての私の山行は、琵琶湖北部の山々に集中した。田河越から白谷狼ヶ馬場・乗鞍岳縦走、栗柄越から赤坂山・三国山縦走、金糞岳・横山岳などは残雪が多く、それぞれの稜線や山頂は冬山の名残りを感じる展望であった。

しかし、今回この山域で最後に登った岩篭山は、もう雪のかけらもなく新緑いっぱいのうららかな登山であった。

この山は野坂岳や西方ヶ岳とともに敦賀三山といわれていて、地元の人たちや一部の岳人にはよく登られているようだ。

私は今回初めて登ったが、清々と流れる美しい渓谷や滝、深々たるブナ林、明るく広がる草原や360度の大展望など、思っていた以上にすばらしく、この山域でもっとも印象に残った山であった。

岩篭山は高さや規模はあたりの山々に一歩ゆずるが、登山の趣向としては懐の深い、とても変化に富んだよい山である。

5月25日(土)5時半、自宅出発。近鉄電車で京都駅に出て、7時6分発JR湖西線に乗る。近江今津駅で福井行きに乗り換え、深坂トンネルを抜けて8時39分、扇状地に開かれた新正田の駅に着く。

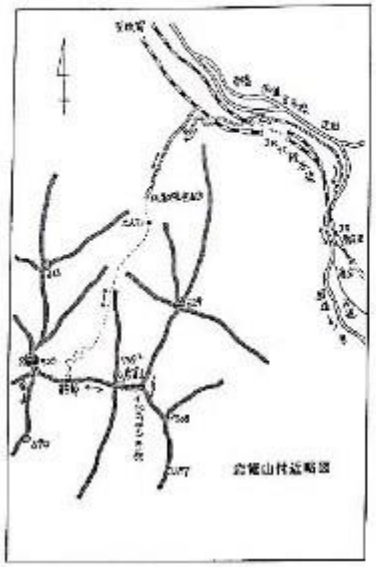
駅のすぐ両、国道161号線に沿った道分の里は、遠い昔、美濃の不破の関や伊勢の鈴鹿の関とともに、古代三関といわれた愛発の関跡と推定される所で、ここから滋賀県側の谷間まで深坂峠を越えて深坂古道が通じており、何となく古道らしい風情が残っている。

岩篭山から湖北の山々（手前が「インディアン平原」、遠くに夫に横山岳）

161号線を北へ進み、JRのガードをくぐって途中から左へ旧街道に入り正田の町を行く。街道に沿って昔の水路が残っている。街道沿いの民家の多くは塀や門扉が無い。豪雪地帯なので除雪を容易にするためなのだろう。

正田の町並みを抜け、街道が再び国道に合う所で左に入る道があり、「岩篭林道」の標識が立っている。ここが岩篭山への登山口だ。

林道を行くと、まずJR北陸線の下りのガードをくぐり、少しして今度は上りのガードをくぐる。上りはここからすぐ北でループ線になっているため、鉄道ファンには写真撮影など何かと話題になる所らしい。途中、遠望に岩篭山・夕暮山・インディアン平原の登山案内板があった。



登山道は谷下流の流れを渡り、右に迂回して市橋からの農道らしき道を合わせ、山裾に広がる段々畑の中の道をゆるやかに登って行く。左に瀬音を聞きながら林道を奥へ進むとやがて道は細い流れを伴った山道になる。右はクマザサの茂る雑木林が広がっている。

さらに行くと、谷の左岸上部につけられた道となり、やがて谷と山道が並行すると待望の谷歩きとなり、あたりも一面新緑の自然林となる。右岸、左岸と飛び石伝いに谷を渡る。

清らかな流れにテメ滝や小滝がかかり、規模は小さいがすばらしい渓谷だ。途中、左岸に露出する岩床で小休し、甘いものを食べ煙草を燻らせた。眺上には真っ青な空が広がっていた。

再び右岸に渡り奥に進んで行くと、谷幅は広くなり流れもゆるやかになった。所どころに築かれた石積みの堰堤を高巻くように登って行く。やがて左から小さな支谷が出合い、本流との間に小尾根が上がっているが、明瞭な踏み跡のついている本流をつめていった。

谷は再び狭くなり、露岩が混じる踏み跡を、再び右へと繰り返しながら辿って行く。苦むす露出や谷間に生える草木、水量は少なくなったものの清らかに流れる渓流……。前方を仰ぐと深い樹林におおわれた山肌が急傾斜で谷におり、新緑が春風に揺られていた。けっこう通行したわりに高度は上がっていないようだ。

単調な飛び石を繰り返して行くと、やがて源流のつめとなり踏み跡は谷から離れ、谷の左隊から急傾斜の山肌を登るようになった。

自然林の中のジグザグ道をぐんぐん登って高度を稼ぐ。新緑の樹間を通して湖北の山々が見えだした。15分程急登し、11時前、深いブナ林のクマザサ茂る稜線鞍部に着いた。

先日歩いた滝河越の北面や白谷狼ヶ馬場の北面など、高度700m前後で見られるすばらしいブナの原生林は、湖北ならでは

の景観である。静かな森でひと息ついた。

稜線鞍部には、おおむね東西に明瞭な道が走っていた。西方の、ブナ林の向こうに見える樹林におおわれた盛り上がりは、林道の案内板では夕暮山となっていたが、昭和四十八年版山渓アルパインガイド『近畿の山』では、宮の尾山と記されている。美しい山らしいが、時間があれば寄ることにして、まず岩篭山へ足を向けた。

ブナ林の中の道をクマザサをかき分けながら少しくだって山稜の南を巻くように東へ進む。途中左に横間を通して白い大きなガレが谷に落ちていた。ブナ林を抜けると、潅木と丈の低いササが敷きつめられた明るい道となって展望も次第に広がり、ドーム状の岩篭山の山頂が近くなる。

山頂直下より足元がコザサに埋まる踏み跡を直登し、11時20分岩篭山頂に着く。

低い潅木に囲まれた山頂からの展望は360度全開。北は敦賀の町と敦賀湾が明るく広がり、敦賀半島の西方ヶ岳や蠑螈岳、越前の海岸線が遠く霞む。西には野坂岳がひときわ高く、南へ黒河の山々の稜線がのびている。南には先日登った赤坂山から三国山、黒河越の鞍部を隔てて鉄塔が乱立する850㍍ピークや乗鞍岳の山並みが続いている。そして東には遠く横山岳や金糞岳など湖北の山々が雪景と波打ち、近く眼下には大岩が点在する緑の大草原が広がっている。三国山や乗鞍岳に勝るとも劣らないすばらしい展望と趣がある。

この展望もさることながら、眼下に広がる緑の草原を見ればだれもがそこを歩いてみたい衝動にかられるであろう。

私も行ってみた。山頂から眺けおり、ササ原に付けられた一条の踏み跡を10分程歩き、花崗岩の太岩が重なり合って鎮座する草原の先端に着いた。すぐ南にも縦長の奇岩が露出して盆園のような風景を呈している。自然が造りだす景観にただただ感嘆させられた。

このすばらしいササ原を地元では、「インディアン平原」と呼んでいるようであるが、私はこんな俗称で呼びたくはない。

あたりを10分程散策し、再び岩篭山頂に戻る。途中で4人連れのグループとすれちがった。初夏の日差しはもう暑いほどで、ただ一人展望を楽しみながら、のどかな山頂でのひとときを過ごした。

先程出会った人たちが、草原の露岩の上で憩っているのが見える。何だかはしゃいでいる様子だ。山へ入ればだれもが童心に

若篭山から見た乗鞍岳（左）・850㍍鉄塔ピーク（中央）・三国山（右）

返る。

13時過ぎ、山頂を後にして往路を稜線鞍部に戻る。

さて、ここからの帰路は夕暮山に立ち寄り、北西方向にのびる尾根を伝って、黒河川に沿った山の集落へ下山し、敦賀へ出るコースが考えられた。

しかしきょうの私は、岩篭山のすばらしい展望と広々とした高原の探勝で十分に満足していた。これ以上欲ばる必要にはあるまい。この山にはいずれ季節を変えて再度登る時があるだろう、その時歩けばいいと思った。

午後の日差しのなかブナ林の鞍部で憩ったのち、往路の山腹を駆けくだる。谷におりて美しい渓谷を忠実に引き返す。登行を終えた充実感と緊張のとれた開放感で、往路とはまた違った良さを感じながら下山した。

いつものように最後の水場で小休し、汗をふき、下着を替えた。

林道に出て、明るい広々畑の中の道をくだって行くと、前方の牧歌的な田園風景の中を、カラフルなJR特急列車が走り過ぎて行った。

時計を見ると15時前だ。次の上り列車は15時27分で、これに乗り遅れると1時間半待たねばならない。私の足はしぜんと速くなった。ガードをくぐり街道に出て、ひと気の少ない疋田の町を足早に通過、途中で缶ビールを買って15時20分過ぎ、新疋田駅に着く。

少しして、ピーッと上り列車の警笛が新疋田トンネルのほうから聞こえてきた。

往年の寝台特急を改造した普通列車に乗り、それが湖北の田園地帯を通りかかると、左に横山岳・金糞岳・己高山、右に三国山・乗鞍岳など、今シーズンに登った山々が車窓から遠く霞んで見えた。

私は右に左にと座席を替えながら これらの山々を見入っていた。

（平成8年5月25日歩く）

△コースタイム▽

JR新疋田駅（2時間20分）鞍部（20分）岩篭山（草原遊り往復30分）岩篭山（2時間20分）新疋田駅

△地形図▽2万5千＝敦賀・弘口

・国土地理院の地形図では、岩篭山は無名であるが、△765・2㍍がそれに該当し3等三角点（点名若篭）が埋設されている。

早春の風情を残す

三方岩岳からもうせん平

白山

松田敏男

白山スーパー林道のゲート前で、開門を待った。数台しかいなかったのでゲートが開くや次々と林道に入ったものの、またたく間に前後する車とは出合うことのない閑散とした道になった。山ひだを忠実にたどりながら快適に高度を上げていく。もう夏だから日差しは強い。緑陰が清々しく爽やかだ。しかし、深く谷を抱く所では雪の塊が谷筋を荒々しく埋め、道路の脇には雪壁が残っていたりして、まだ春の名残りをとどめていた。

峠のトンネル手前に駐車場があった。石川県側からの車はまだ到着しておらず、時髙さん、髙橋さんと私の三人が乗った車が三台目だっただろうか。どこに駐めようか迷ってしまうほどの広さだ。周りには雪の斜面がいくつもあって、雪田の上は涼しげな冷気で少し霞んでいる。

6月も下旬なのに、全く歩かずに車だけでもうこんな雪のある所に来てしまった。感激に浸る気分になる以前に、すでに身体が強制的に現場に運れて来られたという、どこかしびれて無感覚でいるような状態を味わった。

身仕度をしている間に、石川県側から続々と車が到着し始めた。きょうの目標は一応もうせん平まで。そこまで往復して車で京都まで帰るのだから、あまり無理はできない。

まず三方岩岳に登り始める。昨年の4月末に猿ヶ馬場山の登りから仰ぎ見た稜線を今登っているのかと思うと、その時の楽しいひとときが現在と重なり合い、はなはだ身体によい刺激となって血に溶けこむようで、ジンジンと体内が熱くなる。

もうせん平

雪田をジグザグに登ると、そこは早春。カタクリが淡らかにうつむきかげんに咲いていた。続いてイワカガミ、そしてマイヅルソウ。他にも名前のわからない花々が次々と咲き匂っていた。三方岩岳を過ぎてその名前の由来が納得できる位置まで南下すれば、雪の形もいちだんと高山的な大斜面の雪渓になり、風景が大きくなってきた。

三方岩岳

次の山の野谷荘司山は特徴のない形をしているものの、複雑の地形が入り組んでいて、奥深いたたずまいだった。アケボノツツジのような初夏の花が咲いているかと思えば、深い雪の斜面がササ原の奥に光っていたりする。春と夏の二つの季節が一時に展開している北陸は、とっておきの大切な宝物が双方から競い合って並んでいるような豪華で壮麗な世界だ。

野谷荘司山を過ぎれば、すぐに次の鞍部が見下ろせた。そこにはこれまでとは全く異質な針葉樹の平地があった。針葉樹がまばらになった中央部は、雪原が白く広がっていて、ひっそりとしていた。赤兼山林の陽気さや緑毛さが全くなく、他と一線を画していた。

その秘めたる所におりて行けば、雪原に見えていたのは雪氷だった。白茶色のカヤトがつるりとした粘土質の地面にくっついていた。その雪解けの斜面には、出たばかりの淡い白緑色の新芽が沈黙しているかのように点在していた。白い雪氷の平地の周囲を、針葉樹が壁風を立てかけたようにとり囲んでいる。凛然と張りつめていて、音がない。私たち三人の雪氷を踏みきしる音だけが、周りの針葉樹に吸い取られていく。ここ、もうせん平の中央部がきょうの山行の折り返し点、昼食の地点だ。

雪氷に穴を開けて缶ビールを冷やす。道中はTシャツ一枚で歩いて来たのに、今は底冷えのするような別世界。何枚も重ね着して、熱い昼食をつくり、冷えたビールで乾杯。この先をこそ歩いてみたいという押えがたい気持ちを、ほろ酔いで麻痺させた。本日も大満足。生きている喜びをまたひとつ加えることができた。

往路をたどる。光線の角度が変った時とは違うので、また新鮮な気分でカメラのシャッターを切りながら進む。歩く所要時間は往路とほぼ同じだが、雪田に新しい足跡をつけながら進む。

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5766
FAX〈075〉231-0316
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

登山道より野谷荘司山を見る

けたくて遠回りしてみたり、花の前で腹ばいになってカメラを構えたりで、時間が余計にかかってしまった。

三方岩岳までを往復する人は多いらしく、この山頂まで戻ると大勢の登山者で埋まっていた。われわれは急に歩く速度を速め、一気に駐車場に戻った。朝の入山時には想像もできなかったほどの大賑わいだった。いわゆる観光客もたくさんいて、周りの雪景色にはしゃいでいた。

帰りはトンネルをくぐって、石川県側におりることにした。往路と違って、谷の上に道がついている。道路地図を見ながらカーブの数を数えて、「ふくべの滝」を見過ごさないように注意する。しかしそんな心配などは全く不要で、大きな案内板が現れ、道路台がしつらえられ、広い駐車場もあった。観光客が記念撮影をしていたりして、完全な名勝となっていた。滝はたいそう立派なので、画面に人工物を入れないように写真を撮れば、なかなか厳粛な雰囲気もでよう。しかしこれだけ人が多いと、その気分を肌で感じることは無理である。

次の目的地の「親谷の湯」をめざして、また道路地図で位置確認をしながら進む。しかし今度は見過ごしてしまって、橋を渡る所で気づいた。あと戻りすると小さな駐車場があり、親谷の渦への標識があった。

タオルと着替えを持って階段をおりる。くだりでも10分程かかると記してある。帰りの登りに汗をかかないように注意しようと、すれ違う人のほてった顔を見ながら考えた。階段が終わって深い谷底におり立ち、川沿いの岩を伝う道となる。木道が通してあって、一般の観光客でも歩けるようにしてある。川からは硫黄臭が強く匂い立ち、谷の流れは速く深く暗く、陰気な情景である。足元がきっちりしていても、たとえばひとりで夕方に歩こうものなら、かなりの不安感におそわれることだろう。

目的の親谷の湯に着いた。これはなんと全くの露天風呂。眼前には、姥ヶ滝が白い細かな飛沫をキラキラさせながら幅広がりになって岩盤を流れ落ちる奇観。この滝を正面から見ることができる展望所への道が左に上がっており、その下で人目にさらされながらの脱衣とあいなった。

ぞろぞろと滝の見物客が通り来る脇で、服を脱いで入浴するという何とも言えない風情。木の湯舟から少しぬるめのほどよい湯があふれ出る風情といい、眼前に目を疑うばかりのめずらしい形の姥ヶ滝の姿を仰ぐ光景といい、この温泉ほど印象が強烈で感銘ふかい所はなかった。

わずか前夜発の日帰り山行だったが、変化に富んだ季節感と風景・風情を味わい、何泊もしたかのような、思い出多い山行だった。

（平成8年6月23日歩く）

《コースタイム》

白山スーパー林道駐車場（3時間）もうせん平（2時間30分）駐車場

《地形図》

昭文社＝「43白山」

連載

日本霊山紀行 32

守屋山

1650メール

浅野孝一

守屋山は南アルプスの最北端にそびえる山である。

この山は、知名度はあまりないが、山麓にある守屋神社の名が冠されていて、山頂には守屋神社の奥社がまつられている。

『日本山岳志』には「守屋嶽　信濃國上伊那・諏訪ノ二郡ニ跨ル、登路未詳、標高六千二百四十尺」とある。

祭神について『信濃資料』は、「山頂に物部守屋を祭れる神祠あり、而して物部氏の遺跡と稱するもの多し」と記し、吉田東伍の『大日本地名辞書』は「當時科野は建御名方命を入るに先立て土豪の進なる者二人あり一を守宅神と稱し一を武居大伴主神と稱す共に命に敵して一敗地に塗れ降を乞ひて永く臣下に列す守屋神社即ち此守宅神を祀るものなり南麓に華表あり頗して物部守屋大連と云う其訓の相似たるに原くものか」と記しているが、『伊那郡誌』は「物部守屋とせるは里俗の附會せるものならん」と記している。

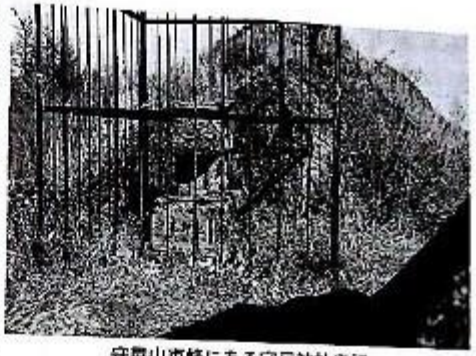
また『南信伊那史料』によると「寛保年間火災の為め古記灰燼に帰し詳に知るを得ざるも山上に遷宮あり當社を里宮と稱して今に至れり」ともあり、坟突峠街道の古屋敷は、守屋大連の住居跡であると説明している。

この山を世に紹介したのは高畑徳材ではないかと推測できる。高畑は大正十五年（1926）8月に登っており、その時の記録を「山岳」第二十二年第一号（昭和三年）に発表しているが、守屋山の東麓近くまで達したものの、豪雨のため山頂には登っていない。

守屋山西峰

守屋山の登山口は、そば屋とレストランのある峠の展望所より高遠方面に進んだ杖突峠であり、車道の東側には蓼科ゴルフ場への入り口があり、その反対側に指導標がある。

杖突峠の標高は約1200㍍、山頂までの水平距離は約2㌔、山頂までの高低差は約450㍍である。



守屋山東峰にある守屋神社廃祠

の高度差は450㍍で、ゆっくり歩いても2時間もあれば山頂に達する。そのせいか近年中高年のハイカーに人気がある。

登山口から少し車道を歩きすぐ右手のゆるい登山道に入る。周囲はカラマツ林で、登りきった地点で車道を横切り、今度はゆるい斜面を左方へくだって舗装された車道に出る。車道の左手に一軒の家があり車道は二分する。左の赤井沢林道へ山がり込むと、右手のカラマツ林の中に神宮寺生産森林組合の小屋がある。水は車道の途中から小屋の裏手の小沢で補給できる。

守屋山の東峰までは一本道。登山道はゆるいカラマツ林の間の尾根上をたどる。途中左手に八ヶ岳が見えてくる。ササの下生えが出てくると急登となりクサリ等があるが、別にクサリを伝わなくても歩ける。

カラマツ林を抜けるとひょっこり守屋山の東峰に着く。360度の展望が広がる。東峰の標高は1631㍍。展望板があり北緯35度57分、東経138度7分と山の位置が彫られてある。

東方に八ヶ岳連峰、北に北アルプスが、西に中央アルプス、南方には南アルプスの連峰が見える。東峰の小さな岩場をくだった所に、鉄柵で囲まれた守屋神社の奥社である石祠がある。そこから南へ守屋神社のある古屋敷への登山道が分かれている。

東峰から稜線通しに三つほど小さなピークを越えて進むと1650㍍、1等三角点のある守屋山の西峰に着く。この山頂も東峰同様眺めは良い。

再び東峰に戻り、昼食をゆっくりとってから古屋敷にくだることにした。登山道は落ち葉が厚く積もってふんわりとした感触は良いが、落ち葉に隠された小石にのると滑る。緩急交互の登山道をくだってゆくと左手に覚明霊神碑があった。

覚明は江戸中期、普覚と同時期に活躍した御岳講の道者であった。享保三年（1718）3月3日、尾張国春日井郡牛山村（現愛知県春日井市牛山町）の農家に生まれた。幼名を源助、のちに仁左衛門と改め、真言密教の行者となった。天明五年（1785）諸国行脚ののち木曽へ来た。当時、御岳山登拝は百日精進の重潔斎を経た道者のみにしか許されなかったが、覚明はその先例を破り、連元農民八十名と共に集団登山を実行した。これが契機となって在俗信者の登山が盛んになり、各地に御岳講が組織された。

天明六年（1786）6月、御岳山中の二ノ池畔で死去し、九合目にある覚明堂に葬られた。覚明が守屋山に登ったことは判明してないが、覚明霊神碑を見つけ私は驚いた。さらにくだった所には御岳山神があり、壊れかけた石の鳥居をくぐれば広い車道におりた。

車道をくだってゆくと左手に守屋神社があった。社殿から石段をくだると古いしだれ桜があった。春にはすばらしい風景となるに違いない。

守屋山付近略図

現在、茅野・高遠間のJRバスは廃止となっている。神社の横に古屋敷のバス終点駅があり、1日数本のバスが高遠に通じている。さらに乗り継いで伊那北駅へ出る。

私たち三名は車を利用したので、車を置いた登山口まで約40分ほど歩き、帰途についた。

（平成8年12月17日歩く）

《参考タイム》

杖突峠・守屋山登山口9・15—神宮寺生産森林組合小屋9・50～10・10—守屋山東峰11・10～13・00（この間九蓮往復・昼食）—覚明霊神碑13・35—守屋神社15・10—守屋山登山口15・45

〈地形図〉2万5千＝高遠・茅野

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 霊峰白山・両部岳
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 東秩父郡
7 御坂山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 雁坂山・甲武信岳
27 奥秩父2 金峰山・甲武信岳
28 谷川岳 巻機山・武尊山
29 越後三山 飯豊山・朝日岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・男日光
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豊山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 蔵王 蔵王山・船形山
38 栗駒・早池峰
39 八幡平 岩手山・田代
40 十和田湖 八甲田・奥入瀬
41 ニセコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊山・宇陀・高原
45 御在所・鈴ヶ岳
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北陸の山々
51 六甲・摩耶・青葉
52 高槻周辺・二上山
53 金剛山・岩湧山
54 紀泉高原 紀和中
55 奥高野 紀和中
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 熊野・紀伊高原
59 氷ノ山 但馬・播磨
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾・頌
66 屋久島 種子島

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年再版発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご意見・ご感想がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また誤植等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・新潟・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

芸備の低山と名所

彦山・龍王山と岡田山・星居山

多摩雪雄

備後

彦山から龍王山

山陽自動車道を福山東インターで降り、後山公園の標示に従って水呑大橋を渡り梅ヶ木で左折してグリーンラインに入る。自衛隊通信旅団があるためか、施錠されたゲートの入り口に6時着。

砂利車道の終点にあるHTV（福山西TV）パラボラアンテナの手前で左の小道を登ると、わずかで草の繁茂する小広い彦山の頂上に出る。

1等三角点（430・06㍍）標石は、ほぼ真南に埋定され、四個の保護石に囲まれてはいるが、上辺四方はひどい損傷である。時に6時25分。無風、雲なし大快晴、3℃。低い山なので眺望は得られない。20分滞頂して下山、入り口ゲートを7時に発車した。

7時30分から1時間半の間、景勝福の浦に遊び、赤い堂手が見える弁天島や仙酔島遊覧の唐様船に目を楽しませ、鞆の港の雁木石段・金比羅常夜灯・白壁・変黒壁の大きな寄棟二階建の交番や、古い家並みの一軒中村家に七卿落遺跡や山中鹿之助首塚を見て安国寺の重文を拝観し、古寺を巡拝して再び山陽道を西へ。三原インターを出て南へ、八坂峠に着いたのは10時10分。龍王山へ2・2㌔の標示がある。

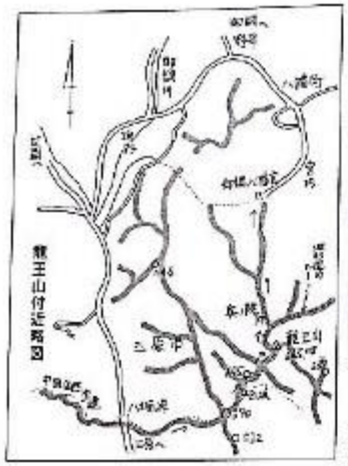
木組みの段を登ること560段で中間点に出る。再び600段登ってわずかにくだり、さらに300段登った570㍍の小ピークに11時に着く。小憩後、ゆっくり登ること5分、尾根分岐に出ると「三原山の会」の指標が右は光谷、左は駒ヶ原・龍王山へ1・2㌔、峠へ1・1㌔とあり、ベンチも設置してある。

だらだらくだること250段で、三個の卓子とベンチのある小広場には11時20分に着いて再び小憩。そこから少し登って200段くだり、だらだら降登降して270段で東屋がある。ここの見晴らしはいいが、すぐ先が龍王山の小広い頂上であった。

草を刈り払った彦山の1等三角点

1等三角点（665・08㍍）の標石は頂頂部を赤く塗られ、上辺四方の欠落がひどい。磁北は340度。北西の微風、層積雲2、乱層雲6、木場。6℃。

細い鉄骨の展望塔は腐蝕がみられ危険である。その右手奥の松の根元に御調元宮龍王神の新しい小祠があり、周辺には木製長腰掛がある。このあたり一帯は仏通寺宇根山県立自然公園に指定されている。



地元の登山者がポツポツ現れる。30分の昼食休憩ののち、12時20分、樹木で囲まれて見晴らしのない山頂からだらだらくだった分岐を左へ入ると、10分で小広い湿地に高龍神を祭神とする貴船神社の小社が大きな拝殿の奥に鎮座している。御調八幡宮記の神護景雲三年（765）以前より祈雨の神として信仰され、清水が湧出する井戸も現存する御調八幡宮の奥の院である。

ヒメコブシ・アセビが多く、ウラジロの密生する北降稜上（地図上ルート記号なし）の古道をくだる。図上の径路は医宮へ左折せず右へ東行して敬部の十字路から北へ、ゴロタの歩きにくい沢の道をくだってゆく。

古道はやがてウラジロ帯を抜けると道形が判然として歩きやすくなり、頂上から1時間半で御調八幡宮に着く。ここ御調のしだれ桜は広島市より半月遅く咲き、4月中旬が見頃であり、気温も広島市よりぐんと低い。

採録できなかったが、国指定重文の板木と木造狛犬や多くの県重文を有し、応神天皇他数体を祭神とする華麗な拝殿を参拝したり、広い社域を逍遥したりして、30分後の14時に神社の駐車場を後にする。

また山陽道に入り広島市に出て、平和記念公園の桜花を前景とした原爆ドームに目をこらし、資料館で凄惨な被爆の模様に襟をただした。広島城も見学して第一日目の宿舎「ホテル松屋」に入った。料理は満足とはいえなかったが、我々には手頃の料金であった。

◇コースタイム▽文中を参照

◇地形図▽2万5千＝福山西部・矩内

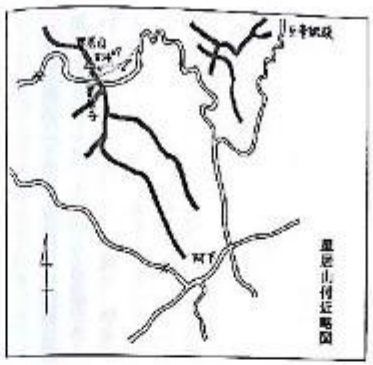
岡田山と星居山

広島市からの中国自動車道を三次インターで降りたのがちょうど9時。上田町の峠集落から地図上の宗教林道は舗装されていて、40分後にNTT岡田無線中継所広場に着く。

岡田山神社の祭神は大御中主大神・高産霊大神・神産霊大神の三柱で、小さいが立派な社殿があり、向かい側に「義烈の家」という四坪ほどの瓦葺寄棟造りの休憩棟もある。

右手（南）の松山へゆっくり登って5分。

冨田山付近略図



星居山付近略図

冨田山（638・7㍍）1等三角点露岩は磁北290度、南東角一か所が欠落して化粧面を露出している。無風、快晴、5℃。

西から南側を展望したので、この方向の見晴らしは良いのだが、低山重畳としていていちいち指呼できない。

NTT広場の少し下方に「冨田荘」という民宿を営む、ただ一軒の平田さんの家がある。ここから東方の山々が見える。この民宿にはいくつかの別棟があって、6人乗りワゴン車で三次より送迎してくれる（TEL0824・6・4855）。10時20分辞す。

「県立みよし風土記の丘」では、資料館は休館していたが、古代たたら跡・復元古代住居・古墳群を30分見学するのも、再び中国道に入って東へ。途中のサービスエリアで昼食をとり、東城インターを降りたのが13時ジャスト。

星居山の塔と展望台

四下十字路から北上して星居山駐車場に14時10分着。

本能寺号（96年1・2月号）に渡辺次雄さんが、この山の伝説と紀行を発表しているので参考にされたい。

私は、頂上へ3920㍍とある北東の峠から木組みの段を160段登って、北方に大黒白山等の見晴らしのよい「北山尼寺跡」を過ぎ、13分で884・6㍍の小広い山頂に達した。

宝篋印塔の前面に、頂上部を示く塗られてはいるが、四個の保護石に囲まれた1等三角点露石が、瑕疵のないきれいな眺を快晴の天空に向けていた。

木造のガッシリした展望台に上がると、右から大山・道後山・吾妻・猿政などの大好望。

南へ60㍍くだった尼寺跡の星居寺は、施錠された五坪くらいの新築家で、聖観音像の古い板碑と数体の石仏が眺の斜面に配列してあった。

この日は朝霧危険の帝釈仙峡国民休暇村に泊まり、広い敷地内で大仙山4等三角点を発見した。（平成7年4月初旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照

△地形図▽2万5千＝宮谷・高蓋

「奥美濃の槍」と呼ばれる

蕎麦粒山

鷲見守康

奥美濃

岐阜県坂内村から国道303号線の八草峠に立つと、北にはっとするほど見事な三角錐の山がそびえている。いっぱうこの三角錐の山容は、岐阜県根尾村の能郷谷から能郷白山をめざし、前山を越えたあたりの尾根上から遠望すると南方向にきりっとして天を突く孤高の姿を見せている。「奥美濃の槍」とも呼ばれる名峰・蕎麦粒山（1297㍍）である。

蕎麦粒山の山容の秀麗さは、奥美濃の山々の中でも第一級で、岳人の間では「東の鈴鹿山、西の蕎麦粒山」と讃えられている。

ただ、この群を抜いて美しい三角錐の美形が見られるのは北東と南西からの方角に限られるようで、例えば、東や西の角度からではずんぐりとしたピークとなり、同定にさえ戸惑うほどである。

蕎麦粒山は、美濃の平野部からはその姿を望むことができない。小津権現山（1158㍍）・花房山（1190㍍）・西倉（別名「さいくら」1169㍍）の小津三山に遮られているからである。蕎麦粒山は、1000㍍級の山岳が群立と称く美濃のちょうど真ん中に位置している。

「そむぎ」という呼称は坂内村側のもので、境を接する山県山村（現在「美濃村」）側では「そばっぷ」と呼んでいるそうだ。

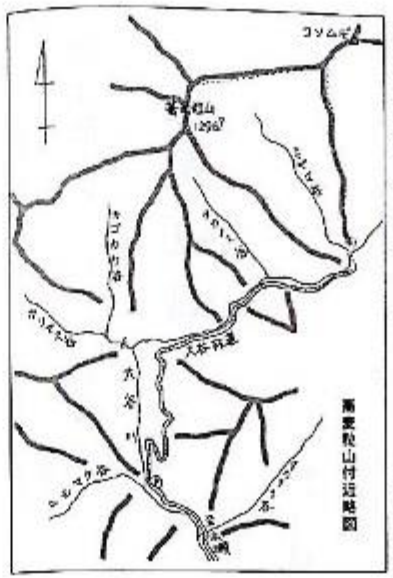
奥美濃の多くの山と同じように、この蕎麦粒山も以前は谷をつめるバリエーションルートしかなく、一般登山者が歩く山ではなかったのだが、坂内村役場が土地の区画整理のため尾根を切り開いてくれたから、それを利用して頂上に立てるようになった。

5月のゴールデンウィークの末日、揖斐郡揖斐川町から国道303号線を北上、坂内村役場前を通過してすぐ、大谷川の橋の手前で「遊ランド坂内」の案内板を見て

蕎麦粒山山頂

右折し、川に沿いながら、周囲の田園風景にマッチしないほどの立派な舗装道を走る。「遊ランド坂内」のスキー場を過ぎると、簡易舗装の道幅の狭い大谷林道となり、左から西俣谷が合流するあたりで舗装も途切れた。比較的広いスペースにすでに三台が駐車していた。歩き始めると、林道は大きくS字にカーブしているが、このあたりにも駐車してあった。

林道は奥へ奥へとのびていて、ルートは確かだろうかといささか心配になる。ガイドブックにも「不安になるほどだ」と記されている。集中豪雨などで流れたままなのか、極端な悪路となっており、オフロード車でも通行はまず不可能だろう。



林道を歩きながら見下ろす大谷川は、V字形の険しい谷をぬう急流で、両岸から注ぐ滝、滑滝がいくつか見られる。いずれも無名の滝なのだろうが、芽吹きや淡緑の若葉が鮮やかな自然林と調和して清々しく、たいへん気分のいい渓谷だ。この渓谷を眺めながら一日遊ぶのも、けっこうおもしろいだろう。

山の斜面にはヤマブキ（バラ科）が咲き乱れ、林道沿いにはミヤマキケマン（ケシ科）が咲き続いている。ミヤマキケマンの「ミヤマ」とは「深山」の意味だが、名とは裏腹に山奥深くに咲いていることはなく、むしろ、こうした林道の脇に列をなしている。たいてい、埃をかぶったようにうす汚れた感じの色合いなのだが、ここの株は意外にきれいだ。

今年の冬は雪が多かったせいか、所どころ雪渓が林道におおいかぶさっている。50分ほど歩き、林道は小広場となって終わった。小広場の左奥から林の中へ踏み跡がのびており、すぐ流れに沿うようになる。

陽春の日差しが木々の葉を透かして、清流にきらきらと跳ね返っている。明るい林のなかにせせらぎの音が心地よく、プロムナード気分だ。道沿いにはエンレイソウ（ユリ科）・ザゼンソウ（サトイモ科）・スミレサイシン（スミレ科）・ミヤマカタバミ（カタバミ科）などが咲き、春の山行の楽しさに心が弾む。ミヤマカタバミは鮮やかなピンク色で花弁も大きい。ミヤマカタバミの花色は普通は白。ほのかなピンク色もときどき見かけるが、ここの花色は、中心部の白色との境もくっきりとし、たいへんきれいだ。これほど鮮やかなピンク色の株には初対面だった。

トリカブト（キンポウゲ科）の深い緑があちらこちらにのび、太流に注ぐ渓流には、ワサビ（アブラナ科）の花も見られた。ワサビは人目に触れれば、まず採取されてしまう。登山道沿いにワサビを見るのはまれで、いままでに見たのは、湖北の横山岳など数か所にすぎない。

例年にない雪解け水を集めてか、大谷川の水量は多い。何とか靴を脱がずに流れを渡った。まもなく尾根に取りつく。いきな

りのすごい急登だ。取付点の標高は約650㍍。稜線鞍部標高約1200㍍まで、高低差550㍍をひたすら直登する。文字通り胸を突くような急登に、木々の枝や根につかまりながらよじ登っていく。

喘ぎつつ登りながらも、シャクナゲが多いことに気づいた。標高約1000㍍天満では雪をつけ、ちらほらと咲いている株もある。花冠は7裂し、雄しべは14本。7数性のホンシャクナゲ（ツツジ科。アズマシャクナゲはたかが5数性で雄しべは10本）だろう。休憩しながら、樹間を透かして遠くを眺めてみると、広葉の常緑樹はほとんどシャクナゲに見える。もちろん、他の広葉常緑樹がないはずはなく、モチノキ科のソヨゴ（樹高約1000㍍未満）、イヌツゲ・アカミノイヌツゲ、そしてミヤマシキミ（ミカン科）・ユズリハ（トウダイグサ科）なども見えるのだが、このシャクナゲの群落は圧巻であり、頂上部まで占めていた。まさに、全山シャクナゲと言ってもおかしくないほどだ。

斜面に点々と明かりを灯したように咲く白い花はタムシバ（モクレン科）、日本海型植物のオオカメノキ（別名ムシカリ　スイカズラ科）も咲いている。林床には低木のアカモノ（ツツジ科）が数株、ノワウチワ（イラクサ科）はあちこちに株をつくって咲き、イワナシ（ツツジ科）の群生も見られた。

直登の間、右に見えるピークが蓬麦粒山山頂と思い込んでいたが、それは東に位置する小蓬麦粒山であり、標高1000㍍付近で、突然、左手に雪を斜横断に残した平坦なる山体の蓬麦粒山が出現した。まるでゴーンという音を響かせて、周囲の山々から抜きんでたような雰囲気をもち、思わず立ちつくしてしまった。

中年カップルを追い越して稜線鞍部に至り、やぶ沢ぎで下降する。登り返しから頂上部まではかなりの残雪で、両の谷側には雪庇も見られた。蓬麦粒は稜線の北側に続くようで、所どころ背丈を超えるササの切り開きが確認できたが、ブッシュを押さえた残雪上のトレースに従った。雪はまだかなり締まっているとはいえ、スパッツやストックを持参すればよかったと思う。やはり、今年の冬は例年になく大雪だったのだ。

幹周りの雪を解かせたブナの大木にほっと心がなごむ。山頂への最後の登りも腕を突く急登だ。

蓬麦粒山山頂は、遮るもののないパノラマ、美濃の山の大展望だった。残雪をまとった峰々は、アルプスを思わせるほどの品格を漂わせて360度に展開している。

平家岳・屏風山・能郷白山・若丸山・冠山・金草岳・笹ヶ峰・美濃俣丸・千回沢山・不動山・三周ヶ岳・黒壁・烏帽子山・三国岳・土蔵岳・横山岳・金糞岳・伊吹山・貝月山・伊吹北尾根・養老山・鍋倉山・池田山・小津権現山・花房山・帝倉・西谷山・五蛇池山・天狗山・洞谷山と尾張富士。琵琶湖も見え、双眼鏡の視界には、夜叉壁もとらえることができた。

すっかり感激して山岳景観に見とれている間に、数パーティの登山者たちは皆頂上を後にし、やがて広大な静寂に包まれたこの山域に、ぽつんと私一人になっていた。

（平成8年5月6日歩く）

△コースタイム▽

林道簡易舗装終了点（西俣出合）（50分）林道終点小広場（15分）尾根取付点（1時間20分）稜線鞍部（50分）山頂（40分）稜線鞍部（1時間）尾根取付点（20分）林道終点小広場（50分）林道簡易舗装終了点

△地形図▽5万�分の1　横山

2万5千�分の1　美濃広瀬

残雪期の山、女神茶屋から天祥寺原へ

蓼科山

日野節雄

八ヶ岳

長野県笠取峠のOさんの山荘から、4WDでビーナスラインの女神茶屋蓼科山口に着くと広い駐車場があり、雲の切れ間から南八ヶ岳の連峰から天狗岳が見える。2月に硫黄岳から蓼科山を見た時よりも、ずっと近くに見えるのは光線によるものか。これから登る蓼科山頂からの展望を楽しみに歩き始めた。藤ぐらいの丈のあるササに残ったきのうの雨つゆでズボンが濡れる。すぐに急登となり、1900㍍圏で少しゆるやかになるが、また急坂になる。モミなどの樹林帯の開けた所から見ると、眼下に出発した小屋の赤い屋根が見え、広々とした樹海の上に八笠山・守屋山が連なる。

2100㍍付近は広々としたダケカンバなどの樹林帯だが、まだ春の息吹きは感じられない。これからの急登に備えてひと休みする。最後の登りは岩と雪の、あるいは氷の急坂が長い。今年は豪雪が多く、これまでの行程も半分以上雪道があった。

やっと樹林帯から抜け出ると、岩が累々として山頂が近いことを感じさせるが、雲の中で何も見えない。冷たい風が吹き上げてくる。ここから右にペンキの矢印をたどると残雪に突き当たった。足跡もなく、その先に矢印も見えないのでそのまま直登すると、目の前が1等三角点だった。八ヶ岳連峰や、南・北アルプスが見えるはずだが見えない。記念撮影もそこそこに山頂ピュッテに入ろうと行ってみたが、雪が屋根近くまであり、裏に回っても入り口すら見当たらない。

山頂からのくだり道にて

ズブリ！　一番休憩のあるKさんが雪を崩したのだ。岩との間がシュルンドになっていたのだ。雪の下は見えないから仕方ないが注意したい。それに山頂が広いので、視界が利かない時は下山口が分かりにくい。

昼食後、軽アイゼンを着けて将軍平へのくだりに入るが急下降だ。足跡があるのでその上を歩くが、それでもみんなズブリズブリ足をとられる。将軍平の蓼科山荘は営業していた。

小屋のすぐ先の右の樹林帯の道に入る。雪が深く足をとられる。シラビソなどの樹林の中に、道幅が1㍍ぐらい切り開かれているので迷うことはない。2300㍍付近に来ると水の流れる音がする。雪道に穴があいてその下を雪解け水が流れているのだ。尾根なのに変だなあと思ったが雪渓道なのだろう。それがくだるにつれて水量が多くなり、足を落とすので靴の中まで水が入ってくる。左から沢も出てきて、最悪である。小さな滝のような所に出てしまった。目の前の大石の上に小さなケルンがあるから道なのだろう。右のヤブに入ると先は崖なので、やむなく木につかまり滝をおりるが、足元の石と土に崩れ、木の根も抜けるのではないかと思った。

やっとひと息つける状態になり、あたりを見回すと、シャクナゲが多く生えている所にいた。向かいは北横岳方面で、下に天祥寺原が見える。流れは激しく大きくなり、右岸を高巻いたりへつったり、左岸に飛び石伝いに渡る所に出て少しくだると、ちょっとした川原に着く。木にタオルがぶらさがり、左に天祥寺原への道標があった。

小休止してこの道に入るが雪で、テープの目印も少なく、疎林にササの生えた迷いやすい所だ。将軍平から天祥寺原の巻降には、もっと雪の多い冬のほうが直降でき、やぶも押られて歩きよいと思われる。私たちは道を探しながら南へ歩いた。所どころ夏道が顔を出していた。後で知ったが、この道は近年利用する登山者が少なくなっているようなので注意したい。

天祥寺原に出たが、大河原峠から来る人もいないようで足跡がない。電源橋まで2・8㌔とあり、ひと息入れてから滝ノ湯川の左岸を行く。川の中に氷が張っていて、その上を水が勢いよく流れているのを初めて見る。春の息吹きを撮影するには最高の場所・時期なのだろう、というのはこのあたりから雪の上に足跡がついていたからだ。川沿いの道は林道に出るまで氷が張っていて、アイゼンを外せなかった。

侵入禁止の林道に出て、やれやれと思ったころ、橋のない沢に出て、飛び石伝いに渡ると電源橋に着いた。

（平成8年5月2日歩く）

滝ノ湯川（氷が張っていた）

《コースタイム》

女神茶屋登山口（2時間30分）蓼科山（20分）蓼科山荘（1時間30分）天祥寺原（1時間30分）電源橋

《地形図》2万5千＝蓼科山・蓼科
5万＝蓼科

京都一周トレイル ②

北山東部コースを歩く

秦 康夫

京都北山

「京都一周トレイル」は現在約半分が完成しているが、前回の「東山コース」（本誌27号伏見稲荷からケーブル比叡まで）に続き「北山東部コース」を歩いてみることにした。ケーブル比叡から二ノ瀬まで約16㎞だが、標高差560㍍をケーブルで登り、高度690㍍地点からのスタートなので当然くだりが多く、東山コースに比べれば格段に楽である。

八瀬から京福電鉄の登山ケーブルに乗り比叡駅を出るとトレイルの案内板がある。グループの総勢は11名。雪が消えたばかりのゆるい林道を行くと間もなく、朝靄の中から比叡山人工スキー場が姿を現す。スキーシーズンもようやく終わり、4月下旬のグラス・スキーオープンまで、芝生もつかの間の休息を楽しんでいるようだ。

スキー場北側から山道に入るとすぐ根本中堂・釈迦堂方面への標識がある。奥比叡ドライブウェイを横切る手前で根本中堂への東海自然歩道と別れ、歩道橋を渡って左に折れる。さすが世界文化遺産延暦寺の境内である。杉木立の中にたたずむ古刹の数々、あたりに立ち込める霧が幽玄な雰囲気を強調し、日頃にぎやかなわがグループの面々も、何やら神妙な面持ちで静かに歩を運んでいるようである。両側に灯籠が並ぶ広い石段をおりると浄土院。門から中を窺うと、帯目も鮮やかな庭の一隅には屋根から下ろした雪がうず高く積まれている。

比叡山延暦寺・釈迦堂の大杉

表道から逸れてルートは右折し、聖徳太子ゆかりの瑞雲堂を過ぎると、間もなく西塔の中心、比叡山最古の建造物といわれる釈迦堂に出た。堂を守るかのようにそびえる樹齢何百年かの老杉の幹は、四人が両手をのばしてやっと一周りできる太さである。法然上人の伝記に並んで、ヒマラヤ山麓での誕生から始まるお釈迦さんの一生が描かれた劇画風の板絵もあり、これを眺めながら小休止。

滝王岳へ向かう稜線より遠く水井山・横高山を望む

僧侶の研修センター横を通過しドライブウェイ下のトンネルをくぐる。杉、樅の自然林に囲まれたミヤコザサの中、鳥の鳴き声や遠くに聞こえる鐘の音。少しの登り降りを繰り返しながら歩きやすい山道が続く。

玉体杉に到着。千日回峰行者が、中腹で休めるような高さの石製のベンチがある。ここから京都理所に向かって天皇（玉体）のご安泰を祈願するそうだ。この辺りが、本日のコースで唯一最高の展望台。東、北、南に一気に視界が広がるはずであったが、あいにくの曇り空。一面ガスにおおわれて、わずかに下のほうのドライブウェイが見えるのみである。先日Mさんと下見にきた時は上天気で、琵琶湖を隔てて東北方面には伊吹山から鈴鹿山脈の山々。その右前方はるかには鈴鹿山脈、霊仙から南にのびる長い被線。北にはこれから登る横高山・水井山が目の前に、その向こうには比良連峰、まだ雪で真っ白の蓬莱から釈迦岳方面が見えている。おまけに南西方向の京都市街、御所、二条城から双ヶ丘まで一望だった。きょうはまことに残念。早々に出発する。

次の目標は横高山、山裾を巻いて横川方面に行く東海自然歩道と別れ、トレイルはまっすぐ上に向かっている。距離は短いがきょうのコースでは一番の急登、木の根っこをつかみ、息を切らせながら一気に駆け上がる。767㍍の頂上は休息に絶好の小広場、雪の重圧から解放されて起き上がりかけたササがあたりを取りまいている。

息を整えたところでササの中の小道をくだる。被部を過ぎ少し登ると水井山。3等三角点があるが、木にさえぎられて展望は全く利かない。すぐ出発。いたるところ倒木が進路をふさぎ、またいだり、くぐったり、迂回したり、けっこう楽しみながら植林帯をくだると、東海自然歩道に合流し道は突然よくなる。右が深い谷になっている所では手すりまでつけてある。伐木跡からは杉と檜のきれいな植林帯の中、夏でも涼しそうな気持ちのよいくだり道が続く。ひんやりした感じ。樹木から発散されるフィトンチッドを十分に吸って心と体をリフレッシュされたのか、みんなの話し声もたのしげである。

東海自然歩道は道なりに大原・野村或れに向かっているが、トレイルは少し西向を変え、左へ折れて細い尾根をどんどんくだる。ボーイスカウトの演習林を過ぎると谷の瀬音が聞こえ始め、小さな谷と高野谷川との出合いで小橋を渡り林道に出た。ここ

で昼食。8時50分にスタートしてから2時間40分が経過、距離は約8・5㌔で本日の全行程の半分弱となる。

1時間ほどランチタイムを過ごし、林道歩きを開始。木馬道の跡が残っている。戸寺の集落に入ってバス道を横断する頃から小雨模様となり、前方の金比羅山はぼやっとしか見えない。標識に従って四野川の橋を渡り、大原敷花経のほうからきた東海自然歩道と一緒になる。江文神社の前を左折すると山道となり、水の流れる悪路を苦労しながら登ると江文峠に出た。鞍馬と大原を結ぶ小型バスがちょうど通過するところだ。車道を少し歩きすぐ左の地道に入る。

午後は晴れるとの予報通り薄日が差してきた。水路ではカモやアヒルが泳ぎ、空にはトンビが二羽優雅に円を描いている。車道に出るが車は少ない。ラベンダー栽培農園がある。畑には苺・水菜・ほうれん草・かぶらに大根。女性たちは野菜の品評に余念がない。ついてきた小犬と一緒になってのんびり歩く。橋を渡り、静かなたたずまいの民家が続く静原の集落を抜けると、いよいよ薬王坂へきょう最後の登りが始まる。

このあたりバンガローが多い。壊れた水車付きの山小屋もある。木材伐り出しのための簡易軌装が切れて山道に入るが、こんな高い所にも人の住んでいる気配の家があり驚かされる。かなり急な登りが続く。花崗岩の古い立派な板碑があり、三角形の碑頂の下部には二体の阿弥陀如来像が浮き彫りにされている。大きな赤松の根が板碑を押し出すように張り出し、ピサの斜塔のように傾いているのが気になる。道はややゆるやかになり薬王坂に到着。

京都一周トレイルはここから鞍馬へくだり、車道を歩いて二ノ瀬まで行くのが正規のルートだが、それでは少し物足りない。北山本来の雰囲気が味わえる竜王岳経由の鞍馬寺経塚巡りコースをとることにする。

鞍馬方向に少しくだったところ、トレイルの標識No.41から左に入る踏み跡があり、東へ回り込むようにして尾根にのると、歩きやすい落ち葉のじゅうたん道が両にのびている。皮肉なことに、雨乞いの神の名を冠した竜王岳に向かう頃から雨の気配は去り、晴天が広がってきた。東北面には比叡山人工スキー場、玉体形から横高山・水井山、朝から歩いてきた鞍線が一望のもと。横高山より水井山のほうが少し高いのがよく分かる。

NHKのアンテナ設置用構造物が左に見えるあたりから、ササのなかの道は西に向かい、雑木林を抜けて竜王岳の東のピーク500㍍に登り着く。頑丈な石組みの上に頭部が円形になった立派な経塚があり、元禄十四年の建立と読める。

道はなお西に向かい、京都方面の展望が少し開ける尾根をくだって登り返したところが竜王岳の西のピーク498㍍。ここにも経塚があるが形は異なり、上部が三角形になっている。ここから西へくだる道は鞍馬街道の、鞍馬と貴船口の中間あたりにある水場付近に出る急斜下コースである。われわれは南への道をとり、斜面をどんどんくだる。尾根は広くなったり狭くなったり、方向も西南西から南、西、南西へと進路変更を繰り返し、小規模ながらもバラエティに富んだ尾根歩きが味わえる。猪掘りのわなを仕掛けた跡か、大きな穴ぼこが二つあり横を通ってまっすぐ行くと、経塚の跡のようなものに出くわすが、この道は行き止まりで、二ノ瀬へは、穴ぼこの手前の少し分かりにくいテープ標識に従って左の小道に折れる。

薬王坂にて

目印が少なく、この辺りルートファインディングに苦労するが、これも北山歩きの楽しみの一つ。めざす目的地の二ノ瀬は南西方向になるので、分岐で迷った場合は南西に近い方の道をとればおおむね正解といえる。

尾根上の道が終わってやや急なくだりとなり、杉の植林帯が出てくれば二ノ瀬は近い。民家の前を通って鞍馬街道に入ると、二ノ瀬駅のやけに大きな看板が目につく。駅到着は15時50分、歩き始めてからちょうど7時間の楽しい一日であった。

（平成8年4月7日歩く）

△距離と参考コースタイム▽
ケーブル比叡駅（2・5㌔ 40分）釈迦堂（2・3㌔ 40分）横川山登り口（2・5㌔ 50分）仰木峠（4・3㌔ 1時間30分）江文峠（3・5㌔ 1時間）薬王坂（3・0㌔ 1時間30分）竜王岳経由ルート）叡山二ノ瀬駅

△地形図▽
2万5千＝京都東北部・大原

京都市産業観光局観光部＝北山東部ガイドマップ

〔この花・この草〕

ワサビ（Wasabia japonica）

アブラナ科

晩春の山の北斜面の谷底では、ワサビの小さな十字花を沢山見かけます。ワサビは暑さに弱く、年間の水温が5～16℃位の清流が適します。日本特産の多年性植物で渓山に自生していますが、近年、交配等により耐暑性・耐病性のある品種も多く栽培されるようになりました。

秋から冬にかけて根茎を採集して細根と葉を取り除いたものを、生薬では山葵といい、葉は山葵菜といいます。成分はカラシ油配糖体・精油を含みます。このカラシ油配糖体に酵素の作用で強刺激性のアリルイソチオシアナート及びブチルイソチオシアナートを生じます。この刺激により胃液分泌が盛んになり、食欲増進・消化促進となります。……そう言われてみれば、ワサビ抜きの刺身や寿司はそう訳山は頂けませんものネ。

またワサビには抗菌作用があることも有名です。ワサビ粉による実験でも大腸菌・黄色ブドウ球菌・緑膿菌などの増殖を阻害することが報告されています。

これからの季節、ワサビをもっと毎日の料理に活用してみませんか。 ㊫

野の花讃歌（21）

市川　正次朗

近場で花を訪ねて

退院後、「しばらくは体を無理しないように、車の運転は当分ひかえなさい」と医者から言われていたのですが、この季節、花が気になって仕方がない。

最初に出かけたのは花博の開催された「鶴見緑地」。花博の時からするとずいぶん様変わりしているが、広大な緑地に色とりどりの園芸種の花が植えられ、「もう二度と花が見られないのではないか」と不安だった私には実に華やかで、うれしさは言葉に表せません。「咲くやこの花館」の高山植物エリアでは、例のヒマラヤの青いケシや新登場のランなど、久しぶりに写真におさめることができました。

次の週は高槻へ。市街地を抜け、ボンボン山への北の登山口、神峯山寺にある「高槻野草ラン園」へ。開園してかれこれ10年になり、最初の頃はエビネランだけが植えられていたのですが、だんだん花の種類が増え、今ではミスミソウ・イカリソウ・バイモ・アッモリソウ・ヒメシャガ・マムシグサなどの咲く山野草園になっています。

私が今回行った時には、エビネはほとんど終わり、樹木の幹にはたよりなげなセッコク、尾根道には早くもニッコウキスゲが咲いていて、久しぶりに山の雰囲気を味わうことができました。

その次の週は「高槻花しょうぶ園」へ。そこは高槻市の北のはずれ、京都府亀岡市に近い聖田にある〝花の谷〟。国内には春から初夏にかけて、日本種・西洋種合わせて約170種、5000本のシャクナゲ、色とりどりのアジサイ、そして約500種、10万本もの花しょうぶが見事です。その間、ミズバショウ・クリンソウ・ミツバツツジ・ヒマラヤの青いケシまで咲きます。

クリンソウ

野草ラン園も花しょうぶ園も、〝村おこし〟に地元の山林主や農家の人たちが、たんせいこめて種を植え、育て、都会人に自然を楽しんでもらおうと頑張っておられる。そのご努力に敬意を表します。

そして次の週は少し遠出して伊吹北尾根へ。伊吹山は花の多い山として有名ですが、特に北尾根の5月はヒトリシズカ・カタクリ・ショウジョウバカマ・ヤマシャクヤク・イブキハタザオ・ムシカリなど、花がいっぱいと聞いていた。近畿では珍しいルイヨウボタンも見られるという。

私は伊吹山ドライブウェイの檜尾ヶ原から北尾根を歩くつもりでしたが、数日前の大雨で通行止め、仕方なく北尾根の北端から逆コースをと揖斐川に出て、「さざれ石」で有名な美束から林道を国見峠へ。登りはごくわずか、稜線では大きなタンポポみたいな種類のじゅうたん、ニッコウキスゲ・タカネナデシコ、そして堂々たる伊吹山への展望が待っていました。

連載

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第1回）

私の生い立ちと学友たち

坂井久光

昨平成八年5月7日、北海道ピッシリ山（1031・5㍍）登頂を以て、我がライフワークである1等三角点（500㍍以上）548座の完登を達成した。

学友山崎大造氏（前京都山の会副会長・日本山岳会京都支部会員）の経済的協力と、札幌の「一等三角点研究会」会員の宮島氏、それに加え山行をともにしてくれた「京都山の会」会員の久馬・奥田両氏の四人の祝福を受けた。

このことは、大先輩の今西錦司氏はじめ、松浦秀次郎氏（「一等三角点研究会」副会長・「JAC京都」会員・「京都山岳会」元会長）・清水栄一氏（「信州百名山」著者・「深田クラブ」会員）等の加護、友人小谷隆一氏（「京都山岳連盟」会長）、京都「西山岳部」の同窓で「京交山岳部」の先輩の伊藤潤司氏、「京交山岳部」創立者の近藤萬氏などの先輩・後輩・学友と、その他全国の知人・友人の協力のたまものである。

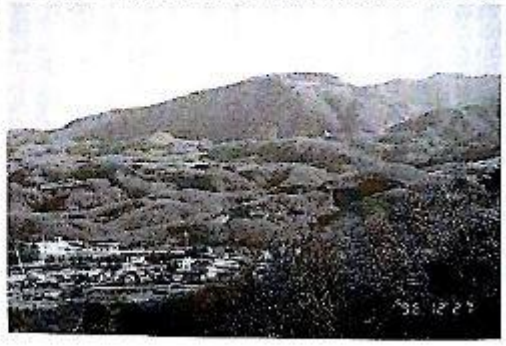
そして昭和六十二年頃より「一等三角点研究会」の理事であった山形県の之氏の、平成五年以後は、山崎大造氏の援助・協力を得て北海道の1等三角点を登頂することができた。

また、昨年7月28日、環境庁指定の自然保護地域の渡島大島にある江良岳（714㍍）も同「一等三角点研究会」理事の高田弘平氏のご好意で同行させてもらい、一般人の立入禁止の山へも登れたことは幸運であった。

この間、遭難事故に何度も出くわしたが不思議に助かった。これも先祖や亡き父母の霊、夭折した兄弟姉妹の加護があったからであろう。

連載の初回にあたって私の略歴を紹介しておこう。

私の祖先は福井県坂井郡の出身で、戦国時代織田信長の小谷城攻略の先駆けに坂井越前守の名がある。のちに加賀藩主になっ



寺町台地・別所町付近より戸室山（右は医王山）を望む

た前田利家の家臣として尾山（現金沢市）に移住した坂井家の末裔であると聞いている。代々金沢市鳴和町一番に居住していたといい、坂井宗信の墓がある。

祖父の久一は四男で、加賀藩士だったが、明治維新ののち巡査となり、能登の輪島の駐在所勤務の時に祖母の佐藤幾久と結婚し父久之を生んだ。

父久之は金沢商業を卒業して安田（現富士）銀行に就職し、母信子（後述の柴田家の三女）と結婚して私が生まれた。しかしその母は、私が小学二年の夏、結核がもとで死亡した。

祖母方は系図によると、慶長のころ、千五百石の家老の次男が五百石を貰い分家した。代々馬廻役として役高百石で計六百石の知行を得、父の習馬は小姓頭として明治維新まで仕えていたそうである。遠く大阪夏の陣に、豊臣方に加勢した武将・別所蔵人（法名信心の一族）の一子が、落城の際腰元に唐物の皿を持たせて友人の加賀（金沢）藩・佐藤家に落ちのびさせた。佐藤家には男子がなく養子となり、家を継いだとの口伝がある。京都西賀茂父通局職員佐藤氏はその子孫で、系図を保管されている。

母信子の父は、湯桶家（金沢の表新地の柴田家の次男）で、理吉には三男五女があり、母はその三女であった。

なお、湯桶家の長男佐吉（理吉の兄）の二男孝二は、浅井家の養子となり、関屋商業・神戸商高を首席で卒業し住友銀行に入社、のち頭取となり、平成三年91歳で逝去した。

母信子の姉二人は夭折し、すぐ下の弟の長男桂作氏は、現在も逗子市に在住している。彼は15歳のとき、父理吉の命で家業の美術商を継ぐべく、東京では一番の美術商に奉公し、25歳で番頭になり、一番番頭の一人娘と結婚して四男二女を儲けた。その長男孝男は、日本一の美術商である日本橋「福津」の専務として活躍している。弟たち三人もそれぞれ住友系の会社の常務となって出世した。また末妹の和子は元NHKキャスター・木村太郎氏と慶応大学時代に恋愛し、結婚して今日に至っている。

なお母の弟・二男の住六氏は、シベリアで戦死し、四女久子も死亡した。三男の三郎氏は「丸紅」を課長で辞め、現在は伊東市の「ゆうゆうの里ホーム」で自適し、末妹五女の桃枝は金沢市の深谷温泉「湯元旅館石屋」に嫁入りして今も健在である。彼女とは金沢の松ヶ枝町小学校でいっしょ（二年と五年のとき）であった。

私と山との関わりは小学一年生の春、地元金沢の戸室山3等三角点（548m）への山菜採りに父の部下の銀行員と出かけたのが最初である。頂上まで市電の終点から8kmの道のりを往復した。頂上に石碑があったのと、そばからウケギが跳びだしたのを、今でもはっきり覚えている。

小学校四年まで、毎年春になると喘息に似た習慣病にかかり、近くの医者の世話になった。小さい頃は父と母が徹夜で看病、氷で冷やしてくれた。病弱な私は何回も死線をさまよったことがあり、河井小児科の名は忘れられない。

金沢の松ヶ枝町小学校に入学、成績はトップクラスだった。近江町の出村水産商社長の忠松登吉氏とは竹馬の友でよく遊んだものである。彼はたびたびテレビに解説役として登場するので、顔見知りの方もあるでしょう。

父の転勤に伴い、京都へ引っ越して北大路通り衣笠トルの現紫明小学校の裏門近くで、小学五年の秋から卒業までを過ごした。田舎者だと言われてガキ大将によくいじめられて親友の福島健三氏にはたびたび助け

られた。級長だった植田温一氏は京大名誉教授となり、副級長の九鬼国一氏は京都一商から大阪の東商業・彦根高商を一番で卒業し、公認会計士として活躍しておられる。

私は模擬試験では三番だったが、担任に推められて京都二商に入学した。二年まで成績は良かった。病弱だった私を父は心配して、勉強はするなと言って、空気銃を買ってくれ、学校から帰ると近所の友人と桂や西山一帯の山麓を銃を持って駆け回った。そのときに長岡京市の匠家の西小路清一氏と親しくなり、今日に至っている。

三年の一年間を遊んだので、体は丈夫になったが成績はガタ落ちで中位となった。四年になって父は突然、上級学校の試験を受けろ、ただし家から通学できる官公立に限る、と宣告した。さて困ったことだ、上級学校に行きたいが成績は下がっている。人の倍は勉強せねば、頭のあまり良くない私が合格する見込みはないと思った。学校で受験に関係のない科目の時間は隠れて受験参考書を読んで、修身の先生にどつかれたり、教練の教官にアホ扱いされたが、模試で二番、二番、一番と上がり「市亀一」の社長の市原氏と誓って勉強し、大阪商大に入学できた。

京都二商四年の頃に小谷隆一氏と知り合った。当時山岳部のキャプテンだった彼にすすめられて入部したが、当時は現在のような山狂いになるとは想像もしなかった。

小谷氏は「イセト」の社長の一人息子であった。彼は山岳部部長だった森本次男先生（通称チャプさん、チャップリンが話したとか）の愛弟子で、三年生の頃から北アルプスに登っていた。それで学校（現信州大）を受験したが、中学と商業校の履修科目のギャップがあって二回落ちてやっと三度目に合格した。そこから東大法科を卒業し、現在は「イセト」の社長で、府公安委員長や商工会議所の副会長はじめ幾多の公職に就いておられる。

私の京都二商山岳部での活動は四年生の時だけで北山歩きが中心だった。「鹿谷荘」宿泊訓練と、芦生に一泊して由良川を遡行し長治谷小屋に泊まり、三国峠を越えて小浜へ行った2泊3日の山行が思い出として残っている。

昨年10月の末に、5木山岳会京都支部の「設立10周年記念祭行事」で、前夜長治谷作業小屋で一泊して、会員の皆さんと牛の丸焼きを食べた。翌日山崎大遊氏と三国峠に立った。先客・後客多く、京都一周トレイル委員の山中先生とも会い、二回の往時をしのんだ。

当時は鞍馬バスで大布施まで行き、佐々里峠を越え、芦生には日が暮れる頃着いて一泊したものだが、昭和十五年の夏休みの頃には、1泊2食弁当まで作ってもらい三十銭くらいだったと記憶している。当時の物価の安さが思いだされる。

太平洋戦争が勃発し、二回も昭和一六年12月に繰り上げ卒業し、就職組は職場に配されていった。

昭和十七年4月、母に移住し、毎朝7時頃新京阪電鉄（現阪急）の急行で大阪商大へ通学した。当時あだしの米屋だった井上大一氏（現京都第一交通）と乗り合わせ、終点の天六から城東線天満橋まで歩き、阿倍野駅で南海山手線に乗り換え、杉本町の大阪商大へ昭和一九年頃までいっしょに通学した。

やがて戦局は五大を極め、昭和十九年9月繰り上げ卒業となった。9月までは住友製鉄所へ勤労動員。10月満州牡丹江の二七二部隊に現地入隊した。

昭和二十年6月卒業してすぐ就職した松下電器産業㈱は復員した昭和二十一年10月に退社した。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々

――伝説・伝承の紹介――（3）

幸助とお花の伝説

岩野　明

近江と伊勢は隣合わせの国であります。鈴鹿山脈を境とし、その間を結ぶ交通路として昔から最も利用されたのが鈴鹿峠を越える東海道で、今の国道1号線ですが、鈴鹿の山中を越えるいくつかの間道の中に筱原越があります。多賀から犬上川沿いに大君ヶ畑に入り、三重県愛知郡藤原村にくだる道です。この道は大君ヶ畑を経て黒谷に入り千石峠越にも通じ、中世の頃、近江商人が伊勢・美濃方面と交易する中継点として大いに利用した地点と思われます。昔、大君ヶ畑は北畑と呼ばれ戸数二百戸・馬八十頭を有する大部落で、百人の旅人も収容できる"はたご部屋"があったことが伝えられています。

鈴鹿の山中は早くから、木地屋の発生地として知られ、特に君ヶ畑・蓮谷は全国の木地屋がその聖地と信じているところであります。大君ヶ畑も木地屋の伝承地として、信仰的な強さをもって息づいています。木地屋の祖神として仰がれている惟喬親王が、弟の惟仁親王との皇位継承の争いに敗れて都を落ち、大君ヶ畑にかくれ住まわれました。惟喬親王に関する白山神社の行事や伝説については「大君ヶ畑の伝わる古式について」に発表されています。

大君ヶ畑の伝説については、地名・風俗・習慣の中にもいろいろありますが、最も有名なものは「お花と幸助」の話です。甲良町北落にも同様な話があり、お花おどりは有名です。

北落は鈴鹿山中を源とする犬上川一ノ井郷で、米作りをする純農村地でもあり、耕地の大部分が水田であったと言われています。昔から犬上川は流水量が少なく、田用水の不足がちな地域で、早ばつの常習地でした。

お花は、この北落の集落の生まれで、評判の美人でしたので、近郷・近在の若者たちの誘惑は絶えませんでした。それがもとで重い病いに倒れたお花は、鈴鹿岳のお池の八大竜王に「もしわたしを、もとの体に戻していただけるなら、自分は一生お池の竜王に仕え、夫と呼ぶべき男を持たないことを誓います。万一、この誓いにそむくことがありましたならば、どんなとがめも受けます」と祈願しました。するとその願いが通じたのでしょうか、体は前にもまして健康になり、美人となって全快したお花は、我が家を清め、屋敷にお池の八大竜王の祠を建立し、ひたすら神に仕え、大鈴鹿岳にもたびたび祈願しました。

しかし、お花は大鈴鹿岳の登り口にある大君ヶ畑の宿に逗留するうち、一人の若者と知り合いました。この若者の名はコウスケ（幸助）と言い、旅人たちの案内人だったらしく、二人は相想う仲となり毎日逢う瀬を重ねました。

お花は神に仕える身でありながら幸助と別れることができませんでした。そんなお花の秘密を知らない幸助は、大神の契りを結ぶことを迫りました。幸助の熱心なプロポーズに負けたお花は、神への誓いも忘れて夫婦となることを承諾し、晴れて世帯を持った二人でしたが、彼岸はあまりにも早く訪れました。

二日も経たない間に、やせこけて前日の面影はなく、今にも死にそうなお花の姿に不思議をいだいた幸助は、お花の身に何かたたりがあることを思い、問いただしたところ、お花の身の上を知ることができました。驚いた幸助は、お池の竜神は犬上流域の鎮を守る大神であり、犯してはならない神への誓いを反古にしたお花を責めるとともに知らないこととは言いながらお池の神に仕える「花」を汚した我が身の大罪を悔い、鈴鹿山中のカッケイの水で身を清め神に祈願しました。

池中　幸助

お花の黒髪を切り、鏡に添えて幸助は祈りながらお池に身を投げました。すると水面は盆に渦を巻き、たちまち幸助の姿を飲み込んでしまいました。竜神は「お花の心変わりは許すことはできないが、幸助のお花を想う心に負けた。自分はこの池から離れ今から昇天する。お前たち二人は、私の身代わりとなり、この池を守って犬上流域の早ばつからみんなを守るように」と言って昇天されました。

お花らお池に身を投げ、二人は池の竜神となり、早ばつが来ると近在の人びとはお池に登り雨乞いをしたと言うことです。

現在でも、北落の人たちは大君ヶ畑の白山神社におまいりし、大君ヶ畑案内人を立ててお池のほとりで踊ります。大君ヶ畑でも「かんこ踊り」があります。このお花ヶ池の近くに幸助池もあり、信仰的な伝説として永久に村人たちが伝え、子孫に残していくことを念じるものであります。

一　さても見事よ　お池のほとり
　いく千万の　れんげつつじに　紫の花
　鈴鹿の水に　身を浄めてぞ
　花の黒髪　鏡にそえて　お池に入る
　竜王　天に昇れば　雲たなびきて
　今しも　稀有の　雨たもる

（大君ヶ畑・中居林太郎）

霊仙山の福寿草について

岩野　明

以前君ヶ畑では、毎年元旦のお祝いに京都の御所から福寿草の植鉢を伸せつかっていた。昭和十年刊の『滋賀県天然記念物調査報告』には、三角点より北西にわたる傾斜地の落葉広葉樹林地帯が福寿草の群生地で、ここの福寿草は天然記念物に指定されている旨の記載がある。現在は国・県からの天然記念物の指定はない。

福寿草は里芋のものがもっとも尊ばれ、禁裏献上品は里芋のものに限られていた。五摂家へ献上する福寿草は里芋を、そのほかへは親芋の福寿草を、というようにランクづけされていたのだという。霊仙山の福寿草は花びらが13枚前後の里芋であり、もっぱら御所への献上品として商川を通っていたそうである。（中島伸男著『鈴鹿霊仙山の伝説と歴史』より）

三角点北西斜面及び西南尾根のお花畑には、早春、里芋の福寿草が太陽が顔を出すようにして咲き、輝き咲き乱れています。

なお、福寿草には蜜はないが、太陽に向かってパラボラアンテナのように開いているため、花の中の温度は外気温よりかなり高い。そのため虫たちが花に集まり蜜をとっているのをよく見かける。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑯

湖東平野を望む

押立山（三千峰）

湖東三山の一つ百済寺の北東にそびえる押立山は、湖東平野から一気に777・8㍍まで迫り上がり、座北にゆったりとした稜線を誇っている。湖東平野からよく目立つ山だ。里に近いため植林が進み、杉・檜の若木がいっせいに育っているが、ここ当分は眼下に広がる湖東平野のすばらしい眺望を楽しむことができる。

307号線を北に向かうと、右に押立山が近づいてくる。麓の湖東町平柳の集落を過ぎると道路脇に大きな石灯籠が立っていた。その手前の道を右折して山に向かう。正面に押立山が望めた。十字路の北川橋を渡り、川の横の農道を山に向かう。名神高速道路の手前の広場に車を駐める。

橋を渡るとゲートが道を塞いでいたが、その横を通り高速道路の下を通り抜けると、雑木の山腹に林道が続いた。右から、やがて左に谷川のせせらぎを聞きながらゆるやかに登る。

送電線が頭上に現れると左に林道が分岐したが、右の舗装された道を登る。以前はこの林道も荒れていたが、今では雑草がかなり進んでいる。左右にコアジサイの花が続き、山腹を右巻めに登るとまた林道が左に分岐するが右にとる。左の道路脇に高床の小屋が現れた。右下には樹間から湖東平野が望めた。

林道終点に着くと右下にキツネ谷の砂防ダムが現れた。谷の上の山道をたどり谷を渡ると右から道が合流した。左折してうっそうと茂る杉林の谷を進む。谷の両側にはヤマアジサイの薄青や紅紫色の花が咲いていた。水を確保して右岸に渡ってゆるく登り、明神社境内の石神に着いた。

杉と雑木の大木が茂る森の中に小さな祠が望めた。その横を登ると檜林に変わり道が分かれた。右の尾根道を登る。夏草の茂る急坂を登ると右斜面に檜の植林、左は雑木の尾根に変わった。明るい切り開きの尾根が続き、右上に押立山の山頂が望め、後方も次第に展望が開けてきた。

左斜面から掘り込まれた古い道が合流し、

早春の押立山

道は雑木におおわれ、周囲には散り始めたササユリの花が続いた。左の檜林の中を道に沿って登り、尾根から山腹の踏み道を右に回り込む。生え込みを分けて登りつめると押立山（三千峰・777・8㍍）の山頂に着いた。

北方は雑木におおわれているが、南方に大きく展望が開けた。眼下に湖東平野が庭園のように広がり、その中に荒神山や太郎坊が青黒い盛り上がりを見せている。名神高速道路が線を横切り、その奥には琵琶湖がぼんやりと広がり、湖西から比叡山、比良、湖北の山々と沛雲い雄大なスカイラインが連なっていた。

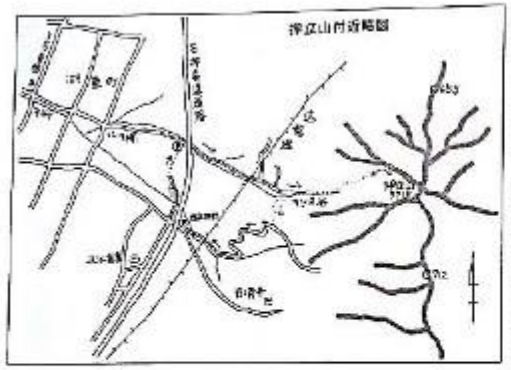
ゆっくり眺望を楽しんでから、南東に続く尾根の先端までゆるいくだりをたどると、さらに大きく展望が開けた。北方には霊仙山・御池岳・天狗堂。足元から左右に広がる急斜面の尾根には檜の植林が広がり、大峰・角井峰・白鹿野山・日本コバの山塊へと続き、南方には湖東平野が広がっていた。腰を下ろし、眺望を楽しみながらゆっくりと昼食にした。

小鳥のさえずりを聞き、涼風が吹き上げてくる山頂から下界の景観を見ていると、日常の視点と全然違ってくる。イヌワシか何か、まるで巨分が大きな鳥になったような気分だ。

復路はキツネ谷の分岐まで引き返し、左岸の道をくだると、砂防ダムの上で道が分かれた。右の道をダム下におりる。谷に沿ってくだり、雑木の山腹を左に回り込むと林道に出た。右折して林道を歩き返し橋を渡ると坂本神社の前に出た。

名神高速道路の下を通り抜け、十字路を右折する。角には湖東三山自然歴史の道標が立っていた。名神沿いに進み、産業廃棄物処理場の下で左折して、地蔵の自然歴史道をたどると林道登り口の駐車した広場に着いた。

（平成8年7月2日歩く）



◇コースタイム◇

林道広場（35分）林道終点（1時間10分）押立山（50分）キツネ谷分岐（15分）林道（25分）坂本神社（15分）林道広場

◇地形図◇

2万5千＝百済寺

（岩野　明）

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!
・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもオロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578 東大阪市鴻池本町1－20 オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
（夜間・電話 06(946) 0816・FAX 06(945) 9044）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊼

山比古地蔵から 赤石・向山

愛知郡愛荘町の東の谷の山裾に、石を積み重ねたロックフィル式の宇曽川ダムがある。この谷の北に向山（610㍍）と、その奥に赤石（663・4・3㍍）がそびえている。赤石については本誌30号（96年9・10月）の「特選コースガイド」で廣佐次氏が紹介されたが、宇曽川の三又から送電線の巡視路を登るルートもある。向山は山比古地蔵から登れる。どちらも気軽に楽しめるハイキングコースだ。

宇曽川谷には大荻へ越える古い道が続き、現在三又まで舗装されている。すばらしい渓谷には、観世音菩薩の滝と桜の名所・山比古地蔵尊、そして最近地元で石組みし整備した山比古湧水がある。「子宝の水」「ホット一息つける水」として、昔から伊勢参りの旅人や山仕事の人たちに親しまれ守られてきた湧水である。

307号線を北に向かう。上宇曽川橋を渡ると宇曽川ダムと山比古湧水3・7㌔の案内板が立っていた。右折して名神道路道路の下を通り、橋を渡って行くと宇曽川ダムに着いた。道路脇には桜並木がどこまでも続き、湖面は山の濃い緑と青空を吸していた。

橋を渡ると山比古湧水に着いた。石組には何かが所々右の樋がとり付けられ、水が滔々と流れ落ちていた。水を確保してすぐ上の山比古地蔵尊の祠の広場に車を駐める。

舗装道を三又に向かう。右に渓流の音を聞きながら、ヤマノキク（ヨメナ）・オトコエシ・ススキ・イタドリの花が咲く道を行く。橋を渡り、谷が狭くなると滝の音が近づいてきた。滝の上から右段をおりて滝壷に着くと、観世音菩薩の滝は三段になって白い瀑布をおどらせていた。

谷の左上の尾根に送電線の鉄塔が現れると、足谷・中谷・北谷が合流する三又橋の広場に着いた。

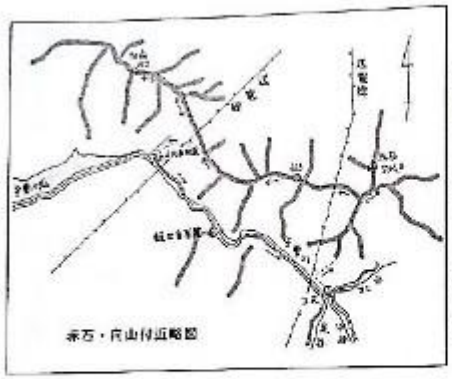
宇曽川ダムより向山を望む

広場の上の杉林に巡視路の入り口があり、右岸の杉林の中を下流に向かってたどる。支谷を渡ると杉・檜林の中に折り返しの急坂が続いた。後方には谷を挟んで押立山の山塊が望めた。支尾根を登ると道が分かれた。鉄塔に向かう左の道を見送り尾根道を登る。踏み分けが消える所もあるが、切り隠きが続き登りつめると尾根上の巡視路に出た。右折し尾根道をたどり雑木の山腹を登ると、また道が分かれた。直進して左におりるのが向山に向かう尾根だ。右折して登りつめると、植林の尾根の奥に赤石が盛り上がっていた。ゆるいくだりと登りをたどると、道は赤石の山腹を巻いていた。直進して雑

木林を登り、赤石に着いた。周囲は雑木で展望はない。

北に少し進むとカヤ原が広がり、大きく展望が開けた。ススキが揺れる先に滝谷山・サンヤリ・天狗堂が続き、その奥に御池岳が長々と横たわり、藤原岳・蓊ヶ岳・竜ヶ岳へ連なっていた。

ひと休みして向山尾根分岐まで引き返す。巡視路を右にとり植林の尾根をくだる。鉄塔の下に着くとカヤ原の先に雑木と植林の663㍍の山頂、右奥には向山が望めた。



巡視路はここまでだ。雑木の尾根には赤い杭が続いたが、広い尾根に変わると杭を見失ってしまった。前方の赤松の斜面に出ると前方が開け、尾根は左に回り込んでいた。雑木のやぶを分け、尾根にのると赤い杭と古い道が不明瞭ながらも続いていた。663㍍の登りにかかると、植林の斜面にはカヤが茂り、それをかき分けながら直登する。後方に展望が開け植林と鉄塔が目立つ赤石の山塊が望めた。

663㍍の山頂は檜林におおわれていたが、西斜面は植林の下刈りが終わったばかりで展望が開けた。右折してくだりにかかる木陰で昼食。前方には湖東平野が広がり、右奥の向山へ続く尾根は、松を主体にした樹林におおわれていた。くだりにかかると尾根と左斜面は下刈りが終わったばかりで、尾根に古い道が続いた。左斜面は険しい角度で宇曽川渓谷に落ち込み、谷底には朝歩いた林道が午後の陽を明るく照り返していた。北西の眺望を楽しみながら右に大きく回り込む。あたりは雑木と松に変わったが、尾根には赤い杭と古い道が続いていた。登り返してくだりに変わると前方に、端正な山容の向山がのびやかな迫り上がりを見せていた。そして真下の鞍部に鉄塔が望めた。くだりの急斜面はウラジロにおおわれているが、その中に踏み分けが続いた。

鞍部に着くと巡視路が乗り越えていた。鉄塔の先の尾根道にロープが張られ、「山止」の札が風にゆられていた。登りになると砂礫の細尾根に変わり、左に展望が開けた。うっそうと茂る植林を登ると右斜面は檜林に変わった。急登を繰り返すと雑木に変わり、向山に着いた。

山頂の西斜面が切り開かれ、松尾寺山の先に湖東平野が望めた。ひと休みして鞍部まで引き返し、巡視路を右におりると山比古地蔵の広場に帰り着いた。

（平成8年9月17日歩く）

△コースタイム▽

山比古地蔵（15分）観世音菩薩の滝（25分）三又橋広場（40分）尾根（35分）赤石（15分）向山尾根分岐（40分）663㍍（40分）鉄塔鞍部（55分）向山（40分）鉄塔鞍部（30分）山比古地蔵

△地形図▽

2万5千―百済寺

昭文社―「49霊山・伊吹・藤原」

（岩野　明）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑤⑧

高取山ふれあい公園から

八ツ尾山・高取山

犬上川流域に[瀬]の集落があり、その南に八ツ尾山（615.2m）がひときわ高く堂々とした勇姿を見せている。鈴鹿山系では珍しい中生代白亜期の火山と言われ、中世には山城があったとも伝えられている。

昭文社エアリアマップを見ると、黒の実線と点線が山頂にのび、点線が山腹を一周している。以前二回登ったが、林道終点から山頂までと古い道はやぶにおおわれていた。今回もやぶこぎ覚悟で登ると、尾根が切り開かれ登山道が整備されていた。

八ツ尾山から西に派生する尾根に高取山がそびえている。この山の山裾に「高取山ふれあい公園」が整備され、YMCA等の教育キャンプ場としてにぎわっている。

公園の端を通り山腹にのびる林道から尾根に登り、高取山と八ツ尾山の稜線を一周するパノラマハイキングコースが、平成八年に整備された。

眼下に広がる湖東平野と琵琶湖、そして鈴鹿山系の眺望も楽しめるすばらしいルートだ。八ツ尾山の東の尾根の肩に平地があり、杉の大木の根に石塔が一基ある。中世の山城の跡だろうか？　この山の歴史は深い極林の中に消えかけている。これを機会にぜひこの山域を歩いていただきたい。

307号線を北に向かい、犬上郡甲良町金屋の信号を右折して犬上ダムに向かう。名神高速道路の下を通り、犬上川の橋を渡り右折すると正面に八ツ尾山が威風堂堂と出迎えてくれた。大滝神社を右下に見ると「高取山ふれあい公園」の案内板があり、右折して橋を渡り農道の手前で右折して浅い谷を進み、T字路の広場に着き車を駐める。広場には案内板と東屋風の休憩所が建っていた。

八ツ尾山から湖東平野を望む

左折して舗装の道を進む。ゆるく登ってくだると、右に地道の林道が分かれた。その先の道路脇に石仏の祠があり花が供えてあった。道が分かれ右折すると観音寺の上で地道に変わった。寺の後ろの大杉の森には、朱塗りと白壁の神社が鮮やかなそれでいて落ち着いた色調を見せていた。

右手道路脇の檜に八ツ尾山登山口の標札が掛けてある。観音寺坂と言われている古い山道だ。右折してその山道を登る。急坂の道は下刈りされた枯れ枝に塞がれていた。植林の横を登ると自然林の中に古い道が続いた。道の両側にはウラジロシダが続き、その中に落ち葉が深々と積もっていた。

V字形に掘り込まれた道が急坂に変わると、腐葉土が雨水に流されて堆積し大きな堤防のようになっていた。砂岩の白い岩肌の急坂には緑の苔が付き、ひと足ごとに情趣あふれる古道が続いた。登りつめ林道を右折すると、西斜面は植林したばかりで展望が開けた。湖東平野と琵琶湖の眺望を楽しみながらゆるく登り林道終点に着いた。

山頂の捲き道はやぶに消えていた。

右の尾根の取り付きに八ツ尾山の道標があり、尾根に登ると右上に山頂が望めた。立ち枯れて白くなった一本の杉の大木が天を刺していた。切り開かれた尾根の急坂には丸太の階段が続き雑木の明るい尾根は登るにつれ後方に眺望が開けた。高室山・銀尻山・霊仙山・伊吹山と続く山並みが望めた。登りつめた山頂の手前に着くと西斜面が大きく切り開かれ、眼下に大展望が開けた。真下に川相と一瀬の集落、収穫の始まった明るい稲田が広がる湖東平野の中を、犬上川が蛇行しながら琵琶湖に注いでいた。荒神山と荒神山が緑濃く盛り上がり、彦根市の沖には竹島がかすかに望めた。ひと休みして山頂に向かう。

八ツ尾山の山頂は広く切り開かれ、白く塗られた真新しい標識に、「八尾山山頂617米」と記されていた。明るい山頂からは北東に展望が開けた。前衛には赤石、奥に鷹谷山・サンヤリ・天狗堂と続く稜線、その奥には主峰御池岳が横たわり、静ヶ岳・竜ヶ岳・釈迦ヶ岳、右奥には御在所岳がかすかに望めた。思いがけないすばらしい景観をゆっくり楽しんでから、真の尾根をたどり雑木を分けてくだると廃墟に着いた。廃墟には右におりる古い道が残っ

山と自然の本

比良の父・角倉太郎　比良登山今昔ものがたり	2266円
関西　山旅の古道(上)(中)(下)　中庄谷　直	2000～2060円
京都丹波の山(上)(下)　内田　嘉弘	2000・2060円
兵庫丹波の山(上)(下)　慶座宏盛一	各2000円
近畿の山　日帰り沢登り　中庄谷直・吉河章	2000円
京都　北山百山　北山クラブ	3914円
京都　北山を歩く①～③　澤　潔	各1900円
京都滋賀南部の山　内田　嘉弘	2000円
近江　湖北の山　山本　武人	2060円
近江　朽木の山　山本　武人	2000円

鈴鹿の山と谷①～⑥　西尾　寿一　5200～5800円
美濃の山①　大垣山岳協会　2268円
奥美濃　ヤブ山案内のすめ　高木　泰夫　2000円
滋賀の山ヤブ山案内(国境編)　西井　昭市　2500・2500円
福井の山　増永　迪男　3000円
鈴の峰／鹿の山(ふくいのピーク)　増永　迪男　各2000円
山城三十山　日本山岳会京都支部　1900円
初登山　今西錦司初期山岳著作集　喜多治勝編　2800円
初登頂　花崗の峰から笠帽の峰へ　平井　一正　2900円
京都府の三角点峰　鈴田　和雄　2900円

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都　075-751-1211　〒606

八ツ尾山と高取山尾根

中世の山城跡？　の石塔

いた。一段高くなった所に広い平地があり、上がると杉の大木が一本大きく茂っていた。その横に五輪塔のような石塔が一基ある。広場は杉と雑木の疎林で、倒木と深い落ち葉におおわれていた。中世の山城の跡だろうか。周辺とその先も探してみたが手掛かりは得られなかった。時間をかけゆっくり調査してみたい。

展望台まで引き返し左折して高取山に向かう。尾根の雑木が切り開かれ登山道が続いた。急斜面を一気におりた鞍部は十字路になっていた。小型車なら通れるくらいの広い古道が水平に回り込んでいて、よく見ると左右におりる道もある。この全然知られていない古道を歩いてみたくなった。

ゆるい登りから三ピークを二回登った切り開きで、眺望を楽しみながら昼食。後方には深い樹林におおわれた八ツ尾山が盛り上がり、右の肩には石塔の横の一本杉がひときわ高く茂っていた。300度近い眺望を楽しむ。

くだりにかかると、左前方に植林におおわれた向山が近づいてきた。雑木の明るい尾根を高取山最高峰（610㍍）に向かって最後の登りをたどると深い樹林に変わり、山頂直下で山腹を巻き右に回り込んでくだっていった。左には向山がそびえ吊り尾根がのびていた。急斜面をおりると、赤松の大木の尾根に変わり、道も次第に広くなり、松林を抜け丸太の階段をくだると林道に着いた。林道が舗装に変わると高取山ふれあい公園だった。

ひと休みして管理人と話し込んでいると、すぐ横に白い大きなキノコが生えているのが目についた。奥に大きく開いたのがあると聞いて松林に入ると、パンガローの横にかなりたくさん生えていた。高さは20㍍以上、白い傘の直径は10㍍以上ある。帰宅して調べると、食用のマントカラカサダケと判明した。

（平成8年9月22日と24日歩く）

△コースタイム▽

T字路（25分）登山口（40分）林道（10分）林道終点（30分）八ツ尾山山頂（10分）鞍部（45分）高取山最高峰（25分）林道（30分）T字路

△地形図▽

2万5千＝百済寺・高宮

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（岩野　明）

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ⑤⑨

大君ヶ畑・白山神社から

万野・大見晴・茶野

大君ヶ畑から南に切れ込んだ急峻な滝洞谷を挟んで、茶野と大見晴・万野が対峙してそびえているが、ほとんど知られていない。特にカヤ原が広がる茶野は鈴鹿でも回指の景観を誇り、頂上からは360度の大パノラマが展開する。この山から眺める鈴ヶ岳と御池岳は圧巻だ。

306号線を進み、大君ヶ畑の白山神社前の広場に車を駐める。橋を渡って地道の林道をたどると深い杉林に変わり、道路脇にはツリフネソウ・ミゾソバ・ミズヒキ等の花が咲いていた。谷に沿って登ると林道終点に着いた。石積から谷の横の古い道を登ると道が分かれた。左折して杉林の中の急斜面を折り返しながら登る。

タムラソウ・ギンミズヒキ、鮮やかな朱赤色のフシグロセンノウの花が続く道を行くと、「火の用心」の赤い立て札が現れた。

土字路を右にとると雑木に変わり、山腹にゆるい登り道が続いた。急斜面になって次々と現れるレイジンソウの淡紅色の花を愛でながらたどると杉林に変わった。急斜面の黒いプラスチック製の階段を折り返し登ると、巡視路は荒れ、土砂と腐葉土に埋まっていた。

頂上が明るくなり、切り開きに鉄塔が現れた。登りつめて鉄塔の下に着くと、北東に展望が開けた。霊仙山・ソノド・三国岳と続く連青の稜線、前衛には西藤根の山塊、権現谷林道が地道を見せ山腹にのびていた。

ひと休みして尾根に登り左折すると、赤テープの口が続き万野（ばんの）（875・1㍍）に着いたが、雑木の中で展望はない。尾根を左斜めにおりると杉林に変わり、右斜面にも杉林の広い鞍部が続いた。左斜面が雑木に変わってササが現れ、回り込んで登ると、右の広い檜林の先に大見晴が望めた。右折して杉・檜林を登りつめると明るい切り開きに変わり、展望を分けると大見晴（829㍍）の山頂に着いた。

草原の山頂には、白いカレンフェルトが庭石のように露出し、檜が一本大きく茂っていた。東に展望が開け、白い石灰岩と草原の茶野から鈴ヶ岳・御池岳と続く稜線が望めた。

大見晴より茶野・鈴ヶ岳を望む

吊り尾根より茶野を望む

ひと休みして適当にやぶを分け南におりると、伐採して檜を植林した斜面に変わった。赤松は残してある。植林の境目をゆるくくだると露岩が現れ急斜面に変わった。少し早いが、前方に開けた眺望を楽しみながら昼食にする。左に御池岳、植林の尾根がミノガ峠・滝谷山と続き、その奥に日本コバ、西にのびる山並みの先に濃尾平野が薄く広がっていた。右下の谷から舗装された白い御池林道がのび、ミノガ峠を越えていた。尾根と右斜面には、植林の中にカヤ原が大きく広がっていた。

急斜面を一気におりると、あたりにアキノキリンソウの黄色い花が咲いていた。尾根には赤い杭と仙道が続いた。ゆるい登りをたどりふり返ると、大見晴が大きな盛り上がりを見せていた。檜林に入ると夏草の尾根に変わったが、赤い杭は続いた。急斜面を登り、右に大きく回り込むと雑木に変わり、ミノガ峠の北のピークに着いた。山頂には造林公社の熊の看板が立ち、「公社営林地・火に注意」と記されていた。

切り開きを左にくだると巡視路に出た。左折して林道の上の尾根道を行く。整備された道が続き、檜林の中をゆるくくだってコブを三つ越えると、鉄塔の下に着き、左に展望が開けた。大見晴からミノガ峠と歩いて来た吊り尾根が望めた。ゆるくくだると、正面に桜峠と茶野が望めた。

檜の植林の急斜面を登ると草原に変わり、道は山腹を右に捲いて桜峠に向かっていた。すぐ上に茶野の尾根が見えた。直進して夏草を分けて登るとけもの道が続き、猪が土を大きく掘り返した跡があった。樹林に入るとけもの道がのびていた。落ち葉はなく、綺したような土の急斜面を左斜めに登ると尾根に出た。左にとり、石灰岩が露出した斜面を登りつめると、938㍍の山頂に着き展望が開けた。

前方にはカヤ原が大きく広がり、その先に茶野の山頂が望めた。草原にはリュウノウギク・シロヨメナ・トリカブトの花が咲き、その中に赤い花が混ざっているように見えた。何だろうとよく見ると、ヤマシャクヤクの袋果が裂け、内側が真っ赤でその中に瑠璃色を帯びた宝石のような種子が並んでいた。

カヤ原のけもの道をたどり、左に回り込んで登ると茶野（938㍍）の山頂に着いた。白い石灰岩の山頂からは、遮るものは何もなく、大パノラマが展開した。トリカブトの花とススキの草原の先に鈴ヶ岳がそびえ、その先の御池岳は左の鞍掛峠に裾を長く引き、右は急傾斜で落ち込んでいた。そして鈴鹿主稜の銚子岳・静ヶ岳・釈迦ヶ岳・御在所岳・雨乞岳・綿向山と名峰がずらりと並び、薄青の稜線を連ねていた。その手前には天狗堂が端正な山容を見せ、重畳と西に連なる青い峰々に、平頂の日本コバ、濃東平野と琵琶湖がぼんやりと広がり、竹島と竹生島が浮かんでいた。高室山と鍋尻山、その先に霧仙山が堂々とした勇姿を

見せ、三国岳へと続き、鞍掛峠の先に伊勢平野と養老山地も望めた。爽やかな風が吹き、ススキがゆれる明るい山頂で、私一人が壮大な景観を独占した。夏の終わりに登った時はヒオウギが咲き乱れていた。四季を通じていろいろな花が楽しめるすばらしい山頂だ。

引き返して左折し、カヤ原をおりると、次のピークも石灰岩でできた花に囲まれていた。尾根には赤い杭とテープの印が続いた。

雑木林に入ると、左下に鹿が一頭急斜面を跳んでおりていった。その先に三頭いたがすぐいなくなった。

雑木のカヤ原の中に踏み跡が続いた。苔むした岩の尾根に変わると道が消えたが、前方左下に鉄塔があり、それに向かっておりるとテープの印が現れ、立ち枯れの杉が目立つ尾根に変わった。くだり終わった鉄塔の手前で右に道が現れた。この道をおりると杉林に変わり、山腹を折り返しながらくだる。「火の用心」の赤い立て札が現れ、杉林を左にくだり、山腹をおりると尾根上の古い道に着いた。造林公社のリスの看板を右に見てくだりにかかると、杉林の中に深く掘り込まれた道が続いた。

306号線を通る車の音が次第に高くなり、杉林を出ると畑と夏草が茂る台地に着いた。道は消えたが台地を左に回り込むと、古い道が現れ306号線に着いた。

（平成8年10月2日歩く）

⚠コースタイム⚠

白山神社前（10分）林道終点（40分）山腹分岐（30分）鉄塔（15分）万野（25分）大見晴（40分）熊の看板（35分）鉄塔（20分）尾根（25分）茶野（25分）鉄塔手前分岐（20分）リスの看板（25分）306号線（10分）白山神社前

〈地形図〉

2万5千＝篠立・高宮

昭文社＝「44霧仙・伊吹・藤原」

（看野　明）

KOBEの登山専門店
手作りザックの店です。
心ときめき、背負いやすいザックです。
イモックと呼んで下さい。
●ウォーキングザック26
荷作りから一泊旅行に最適です。
トップとフロントのポケット。
サイドファスナーは内部の小物を取り出す、反対側はステッキや小型傘をセット出来る。
かつぎ易さで定評のアタックタイプです。
●カラー：ワイン・レッド・ブルー・ネイビー・ベージュ
●寸法：26ℓ ●重量：750g
●素材：ポレ・ヤルスパル・ナイロン使用
●価格：¥7,500
（オリジナルザックのパンフレット御希望の方は、¥200切手を同封の上、お申込み下さい。）
OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK®
KOBE
神戸ザック
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653　TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528

ツツジ園のある大和葛城山（深谷道～布施城跡）

コースタイム①御所駅（50分）～②葛城ロープウェイ前（20分）～③櫛羅滝（1時間30分）～④天神社（15分）～⑤葛城高原散策（2時間）～（1時間）～⑥葛城山公園（30分）～⑦近鉄新庄駅（約15㌔）

中村敏文

葛城高原は春のツツジ、秋はススキがすばらしく、多くの行楽客が近鉄御所駅からバスで10分の葛城山登山口へ、そこからロープウェイで6分、と手軽に高原に集まってくる。

海抜959㍍弱の葛城山山頂へは数条の登山道がある。大阪側に比べて奈良盆地からの登山道は急坂の山道である。

① 御所駅から葛城登山口駅（御所市櫛羅）

近鉄御所駅からバス道を歩いて4㌔弱で櫛羅口に着く。旧道を利用して鴨山口神社に参詣し、鴨口橋を経て永正城跡の南側を上がって滝不動の前を登りつめると3㌔余り1時間足らずで葛城ロープウェイの登山口駅へ歩ける。

このコースは葛城山中腹にあった戒那千坊の本拠・安位寺に至る表参道に近い。

鴨山口神社は大和十四所山口神の一つで式内の大社に列した古社とされ、現在は大山祇命と国常立命・天照大神等を祭祀する旧村社である。社宝である50㌢大の天照大神・御霊大神坐像は、室町期の一木造彩色像で重要文化財である。

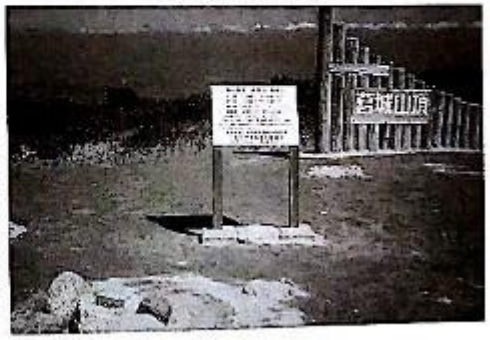
鴨山口神社から西へ鴨道を渡り、櫛羅集落の鴨口氏内の六地蔵前で、南へ分岐するハイキングコースの葛城道と分かれると、だらだら上がりの旧道2㌔で不動寺へ着く。

② 葛城山ロープウェイ前（御所市櫛羅）

ロープウェイは葛城登山口駅から葛城山天神の森にある葛城山上駅を数分で結び、春秋の行楽シーズンにはフル回転で運行している。

登山口駅の北側は清流山戒那院と号する不動寺の境内で、現在は釈迦如来を本尊とする真言宗の神寺である。もとは櫛羅滝の上方にあった戒那千坊・安位寺（戒那寺）の一院とも言われている。寺歴を語るように、役の行者像・歓喜天・大威徳明王を祭祀する。寺伝では開山は空海、生駒宝山寺の亮規を中興の祖とし、江戸後期に雪破が再興し、それ以来神寺となっている。

不動寺から深谷沿いの林道を15分も上がると車止めで、正面谷肌に落差8㍍ほどの櫛羅滝がかかっている。



葛城山山頂

③ 櫛羅滝（櫛羅）

滝の前方の岩肌には不動尊がまつられ行場になっている。ハイカーにとってはけっこうな休憩場所で、夏場は涼を求めて安位川河原に人々が集まる。

安位川の橋を渡ると細い山道となり急勾配が続く。櫛羅滝の上方に行者滝があって戒那千坊の本拠・安位寺の跡と確認されている。山崩れで旧参詣道は消滅し、新登山道は行者滝へは通じていない。役の行者が不動尊石像を安置して修練した行場といわれ、その後に空海が石像前に堂を建て、自作の不動尊像を安置して安位寺と号したというが、現在は寺跡を示すのみである。

登山道は大きく左へ回り杉・檜の植林を分ける尾根道となる。章王社のある新洗い池に着くと、左へ分岐するツツジ園への近道となる新道と、右に分岐して天神の森を抜けるブナ林の道がある。ブナ林の道の急坂を登りつめると天神社の境内に入る。

櫛羅滝

大和葛城山付近略図

④ 天神社と葛城山上駅（天神の森）

天神社は国常立命を主神として祭祀し、傍らに不動尊をまつる不動堂がある。少し下方にロープウェイ山上駅があって休憩所もある。葛城高原の散策は山上駅を起点に車道と散策道が整備され、迷うべに素直に従えば間違うことはない。葛城山頂周辺は平坦地も多いが別名に送山とあるように、霧にでも包まれると整備されているはずの散策道が迷路となる。

⑤ 葛城高原散策

櫛羅滝から天神の森まで2・7㌔の登りに1時間30分も要したので、昼食と葛城高原散策にとれるのは2時間ほどである。

山上駅から遊歩道を上がって葛城山頂の三角点に集まり、見晴らしのよい展望を説明し行動範囲を指示して自由散策する。山頂で食事をする者は少なく、大部分は満開のツツジ園に散っていった。

葛城高原ロッジから、すばらしい色彩を見せるツツジ園が望め、金剛山の全貌が間近にとらえられ、和泉山脈も西端まで見える。好天の日は大阪平野を隔てて淡路島も

ダイヤモンドトレイルの案内板

遠望できる好位置にあるが、なんとなく高級そうで飲みものだけの休憩には入りにくい。

山頂東側にある大衆的な白樺食堂は、奈良盆地と高見山や吉野連山の遠望が楽しめ、低料金のせいか東方の展望を楽しむ人々や食事の人であふれていた。

⑤ ダイヤモンドトレイル（ダイトレ）

ダイトレは大和川から二上山・葛城山・金剛山を結び、紀見峠を経て和泉山脈の槇尾山に至る尾根道で、全長約45キロ中級以上の脚力を必要とする整備された山岳ハイキングコースである。

14時、白樺食堂前のダイトレコースに集合し、シジターセンター前を通りダイトレを北へ向かう。ダイトレは大阪府と奈良県の府県境の尾根道で、木製階段の急なくだりが長い。山口・馬歩へくだる中ノ道の分岐付近は歩きやすい西国尾根の平坦道だが、一本松の手前の新庄・葛城への分岐を示す道標までの2キロを30分もかけてくだっていた。

下見の際くだった新庄町へのコメ谷コースはV字状に深くえぐられていて危険なので、一本松・持尾辻とダイトレをたどり布施城跡分岐へでる。葛城山上へ4・1キロ、平石峠へ2・7キロを示す道標がある。

⑦ 布施城跡から薗恩寺（新庄町寺口）

ダイトレから東へ分岐して急勾配の山坂をくだると、30分たらずで布施城跡へ着く。本丸跡と石垣・土塁を残す東西に細長い中世の山城跡で、中世、大和で大和武士として今の新庄町一帯を本拠に活躍した布施氏の居城跡である。

城跡へは林道がのびているので、一坂古墳前から寺口・大屋の集落を抜けて屋敷山公園まで30分余でくだることができる。布施氏の氏寺であった寺口の薗恩寺には、平安時代中期作の重文・一大師十一面観音立像が安置され、布施（薗始）行国寄進の石灯籠がある。

⑧ 屋敷山公園（新庄町新庄）

布施氏は屋敷山古墳の周縁を利用して居館を構え、江戸時代には新庄藩の築山式が陣屋を構築していた。最近になって、古墳を修復し周囲を公園として整備、図書館など新庄町の公共施設が集められている。

屋敷山公園から東へ30分も歩けば近鉄新庄駅である。その手前には柿本人麻呂をまつる柿本神社があり境内には柿本寺とも呼ばれた影現寺がある。

地図読み山行20回

塚元　一彦

平成六年3月に始めた「地図読み山行」が、回を重ねて20回に達した。小笠原敬子さんを講師として1回、中村登さんが講師を引き継いで9回を消化したわけである。

この間の受講者は229人、延べ496人に及んでいる。一回で完全にマスターする人は少なく、おおむね二～三回の参加で理解していただいているようだ。回を重ねると既にマスターした会員が、助手を務めて説明の能率が上がって大いに助かっている。

シルバーコンパス

ところで、この山行には他の山行にない幾つかの特徴がある。地形図の読み方と、コンパスの使い方を勉強しながら山を歩くため、人数が多すぎると説明が行き届かない。一応定員を30人と定めているが、断わりきれずにオーバーしたことも何回かある。寒い風の中や照りつける太陽の下では勉強に不向き。気候のよい春と秋に月一回のペースで各季節に三回を計画し実施している。

また、あまりハードなコースや、危険な山では勉強どころではない。できるだけ平易な山で、アプローチが2時間以内、歩行時間は4～5時間程度に抑えている。

山座同定のレッスンをするには、他の山を見通すことができる適当な展望が得られる場所も必要になる。山域が一枚の地形図に収まっていればベスト。三～四枚にまたがるような山は絶対に避けなければならない。以上の要件をすべて満足する山というものは意外に少ないため、計画の立案で苦労することになる。

初めて参加する人には、「地図読みマニュアル」と「コンパスを使って」のパンフレットをお渡ししている。特に前者は新ハイキング東京の伊藤裕泰さんが中心になって編纂した優れた手引書であり、数多い地図の解説書のエッセンスを巧みに取り入れ、きわめて分かりやすい。版権料と製作費がかかっているため、実費300円を頂戴しているが、それだけの値打ちは十分にある一冊である。

また参加者には山域の2万5千分の1の地形図を持参してもらっているが、初めての人には系の方で盛北線を引いた地形図のコピーを用意することにしている。参加者全員の名簿を配布して、相互の親睦のお役に立つことも心がけている。

レッスンの内容は出発時の「進行方向の確認」、見通しのよい場所での「山座同定」、昼食終了時の「地形図の知識」となっている。

地形図をきちんと読むことができるようになれば、山で道に迷う危険を防ぐことができる。遠くに見える山の名前を正確に把握することも可能となる。コースの難易を事前に推定することができ、所要時間を測ることができるなど、多くのプラスがある。山行が三倍楽しくなることは確実である。

また地形図に不案内の会員のご参加をお待ちしている。

文学歴史探訪ハイク ㉞

畝傍山を訪ねて

松永惠一

畝傍山

畝傍山は標高一九九・二㍍。大和三山の中で最も高く、眺めを引いた姿が美しい。どっしりと安定感がある。秋道空は、「『そびやかした男性的な姿』と言った。三山妻争い伝説で『男山』と見られたのも、なるほどとうなずかれる。山の麓、橿原の地で神日本磐余彦尊は第一代神武天皇として即位され、畝傍の宮を造営された。

玉だすき　畝傍の山の
橿原の　ひじりの御代ゆ
生れましし　神のことごと……

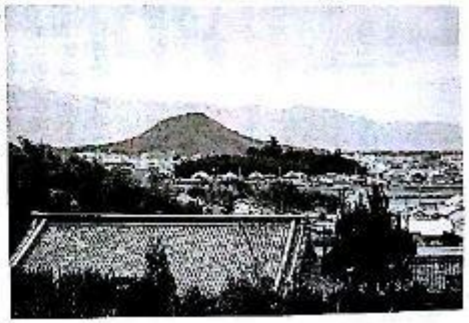
（『万葉集』巻二、二九　柿本朝臣人麻呂）

畝傍山のふもと、橿原で即位された天皇の御代以来、神としてこの世に姿を現わされた歴代の天皇が、……

畝傍山の橿原の地は、『日本書紀』に「畝傍山の東南」と記されているが、どこを指すのか分からなかった。現在の橿原神宮は、高市郡の人々が口碑や伝承などに基づいて、畝傍の宮跡であると考証し、明治二十二年に天皇崇敬の神社の創建を請願し、創始されたものである。

昭和十三年春、紀元二千六百年（昭和十五年）に際しての橿原神宮造営拡張工事にともなって、発掘調査が実施された。外苑一帯から縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ遺跡が発見された。現発掘場あたりからは樫の木の一種「イチヒガシ」の株が現れ、樫の群落地であったことが明らかになり、神武天皇の橿原での即位は、歴史を反映しているのではと考えられるようになった。

畝傍山（容易山より望む）



久米の仙人

『今昔物語集』本朝仏法部に残る話。

大和国吉野郡に龍門寺という寺がある。この寺に籠もり仙の業行をしている行者がいた。一人は安曇、一人は久米といった。清らかな山中でひたすら修行に励んでいた。行い終えると行者は仙人となり、飛行自在となる。安曇は先に仙となっていた。

久米もようやく仙となり、自由に空を飛べるようになった。両に大峰の山並みを眺め、西に金剛・葛城・二上を望み、眼下に清らかな吉野川を見た。紺碧の背に白い飛沫。よく見ると若い女が洗濯をしていた。裾をまくし上げ、白い脛がまぶしく光っていた。「あっ」と、声をあげた久米はぶざまな格好で女の前に墜落した。久米は、仙の心を乱した白い脛の女と結婚した。

そのころ、高市郡に新しい都を造るというので、国中から人夫が徴発された。久米もまた徴用された。みんなは、久米を「仙人」と呼んだ。それを聞きとめた役人は、「なぜ久米を仙人と呼ぶのか」といぶかしみ、人夫からすべてのいきさつを聞いた。「それは大変な人だな。昔仙人だったなら、神通力は少しくらい残っているに違いない。この材木を仙の呪力で空中を飛ばしめてほしいものだ」とからかった。久米はいったん辞退するが、試みることにした。役人たちが陰で嘲笑したのは言うまでもない。

久米は籠もり、心身を清め、食を断ち七日七夜祈念した。八日目の朝、雷雨はげしく何も見えなくなった。山麓にあった木材はことごとく空を飛んで造営地まで移されていた。霊異を目のあたりにした役人共は長れおののいた。天皇は久米に三千町歩を施し、久米は伽藍を建立した。久米寺と呼ぶ。

久米寺と空海

空海はあいかわらず山中行を続けていた。求聞持法をはじめ、山林での久縄修行にもかなりの成果を得ていた。が、密教については、まだ深くは知らなかった。いつのころからか、密教を学びとるためには、金剛界、胎蔵界の心理にふれるための『大日経』『金剛頂経』を熟読しなくてはならないと思うようになった。

『御遺告』は伝える。「仏道修行にゆきづまった空海が、打開の道を示し給えと祈っていると『大毘盧遮那経（大日経）を読め』という夢のお告げをうけ、久米寺の東塔の下でそれを見つけた」と。

寺伝によると、求聞持法のテキスト『虚空蔵菩薩能満諸願最勝心陀羅尼求聞持法』一巻の漢訳者としても知られる善無畏三蔵が唐から渡ってきて、久米寺に滞在して境内に東塔を建立し、傍らに三尊の仏舎利を安置し、『大日経』十巻をおさめて『いずれ、こころある僧がやってきて、この秘経を発見するだろう』と、託宣したという。

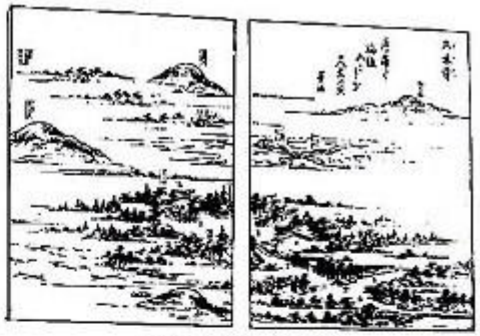
空海は『華厳経』の素考を下敷きに、難解な『大日経』に体得するが、言葉の障壁もあって、苦渋のいく理解が得られなかったため、渡唐を決意したようだ。

桜児嫁

万葉集巻一六有由縁幷雑歌の冒頭の桜児の説話と伝えられる古説が大久保町にあった。

昔、娘子あり、字を桜児といふ。時に、二人の壮士あり、共にこの娘子を聘ひて、生を捐てて競ひ、死を誓りて、相敵る。ここに娘子歎きて曰く、「古より今までに、未だ聞かず未だ見ず、一人の女の身、二つの門に往適くといふことを。今し壮士の意、和平し難きことあり。しかし、妾が死にて相昔すること永く息まむには」といふ。すなはち林の中に尋ね入り、樹に懸りて経き死ぬ。その二人の壮士、哀傷に敢へず、血の涙禁に流る。（巻一六　三七八八番）

昔、桜児という娘がいた。二人の若者がこの娘に求婚して、命がけで競り合い、死も辞さない覚悟で張り合った。そこで娘は、泣きじゃくりながらこう言った。「昔から一人の女の身で、いっぺんに二人の男に連れ添うなんてことは聞いたことも見たこともない。今となってはもう、二人の気持ちを和らげようもない。わたしが死んで二人の争いが永久にやむようにするしかない」と。そこで林の中に入って首をくくって死んだ。二人の男は悲しみにたえず、血の涙が禁に流れた。



久米寺『大和名所図会』

コース概観

今回のコースは、大和三山の一つ畝傍山とその周辺地域を訪ねる。仙人伝説を残す久米寺を訪れ、橿原神宮に清浄な白砂を踏み、畝傍山に登り、荘厳な空気を漂わせる神武天皇陵に詣で、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館を見学する。のんびりと歩いていくと、どこへいっても畝傍山・耳成山・香具山の三山の眺めがついてまわる。古代史や万葉の旅への出発点である。

近鉄南大阪線の橿原神宮前駅で下車。西口を出て右へ線路に沿って歩くと久米の仙人で名高い久米寺に出る。境内は実に静寂。久米の仙人が建立したという説話が伝わる。寺伝では聖徳太子の弟の来目皇子が、推古天皇の眼病全快のお礼として創建したという。久米部の居住地に建立された私寺が始まりとの説もある。本堂には薬師如来の座像、観音堂には久米仙人像を安置する。多宝塔は、旧伽藍の東塔跡に万治二年（1659）、京都の仁和寺から移されたものである。「益田池碑銘」を刻んだ石碑が本堂裏にある。『性霊集』は伝える。益田池は、「池水の大きなこと湖のごとく、その水は数里に及ぶ」と。比類のないほどの溜池用の溜池であった。毎年5月3日には二十五菩薩練供養会式（クメレンソ）が行われる。6月には境内のアジサイ園が見頃になる。

近鉄南大阪線の線路を境にして橿原神宮の境内と接している。表参道から宮川に架かる神橋を渡り、二の鳥居を過ぎると参道の右側奥に勅使館・斎館、左側に社務所・貴賓館・天理市柳本にあった旧織田藩邸の大書院と玄関を移した文華殿・神宮会館が並ぶ。南神門を入ると神明前広場。正面に外拝殿が重厚なたたずまいを見せる。正面奥に内拝殿、幣殿が建ち、その奥に京都御所の賢所（温明殿）を移した本殿がたたずむ。神々しいまでの崇高な雰囲気が漂っている。年頭の天皇の御神徳にちなんだ建国祭、2月11日の紀元祭、4月3日の神武天皇祭（ジンムサン）と例祭が続く。

北神門を出ると橿原森林遊苑。昭和十五年「皇紀二千六百年」を記念する奉祝記念事業として、全国の青年学徒一二〇万人を建国奉仕隊として動員し、内苑・外苑の整備造園が行われ、献木された皆緑十奉仕樹が生い茂っている。歌碑折口信夫が紀元二千六百年にあたって献じた寿歌の反歌。

畝傍山かしの尾のへに居る鳥の
鳴きすむ聞けば現世なるらし

イトクノモリ古墳は、東西に主軸を持つ前方後円墳で、現在は後円部が残り、池田神社が祀られている。この古墳は高橋健自氏と後藤守一氏との間で、「前方後円墳の発生は金石併用時代に遡り得べきか否か」という論争がなされる契機となったことで知られている。若桜友苑には海軍甲種予備学生殉難碑・殉国の碑、瑞鶴の碑が建てられ、先の大戦の悲しみを今に伝える。

畝傍山登山口の右奥の東大谷日女命神社にお参りする。登山口を爪先上がりにゆっくり登る。山麓をゆっくりたどっていく。ゆるく回り急坂を登りきると頂上の広場にでる。二上から葛城、金剛の連なりが姿を見せる。石垣の上に石柵をめぐらせた中に「住吉大社橿地坂地」の札が立つ。山口神社の社殿跡の北に三角点標石はある。ヤマモモの木が茂る。耳成山と香具山は木立の中に見え隠れする。下山は道を変えて、西におり畝傍山口神社を訪ねる。住吉大社と深いかかわりをもつ鎮取の神事が伝わり、夏祭り「お蜂デンソン」で知られる。北に進み、高殿川に出て畝傍山の麓をぐるりと回る。右手に墓地、太子宮、道隔のせまい、足にやさしい歩きよい道を抜けると神武天皇陵の参道に出る。畝傍山東北陵は長らく不明であったが、文久二年（1863）に「ミサンザイ」と呼ぶ現在地に治定。周囲に石柵をめぐらし、正面には大鳥居を配し、第一代天皇の権威を象徴している。頽廃の気が漂い静寂そのもの。

畝傍山付近略図

玉砂利のこだまする道と別れを告げ、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館へと向かう。昭和十五年に多くの遺物が出土した橿原遺跡の出土品を展示するため創設された大和国中館が前身で、幾多の変遷を経て昭和五十五年10月新館が開館した。

橿原考古学研究所の発掘調査によって出土した遺物資料を中心に、奈良県下の旧石器時代から江戸時代まで時代別に展示している、我が国屈指の考古学専門の博物館である。旧石器は二上山北麓の遺跡群、縄文時代は、成立期の大川遺跡。晩期の橿原遺跡。弥生時代は、唐古・鍵遺跡の弥生式土器。水差形土器の新沢一遺跡。古墳時代は、桜井茶臼山古墳、埴輪の大きさに度肝を抜かれるメスリ山古墳。歴史時代は、飛鳥、藤原京の出土品。牽牛子塚古墳出土の金銅八花形棺座金具は見ておきたい。ちょっと疲れたら埴輪の置かれた中庭を風に当たりながら眺めるのも心地よい。図書閲覧室、シアタールームもある。近鉄畝傍御陵前駅は、すぐ近くである。

《コースタイム》

近鉄阿倍野橋駅（特急約35分）橿原神宮前駅（5分）久米寺（10分）橿原神宮（5分）イトクノモリ古墳・若桜友苑（15分）畝傍山（10分）畝傍山口神社（20分）神武天皇陵（12分）奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（3分）畝傍御陵前駅

《費用》

近鉄阿倍野橋駅～橿原神宮前駅　590円
《地形図》2万5千＝畝傍山
《問い合わせ先》
久米寺　0744 2（7）2470
入山料大人400円　8時～17時　無休
橿原神宮　0744 2（2）3271
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　0744 2（4）1185
（改装中、97年10月頃まで開館予定）

特選コースガイド①

摂州

日本のヘソ公園から

三角山

中級コース（★★）

久保　秀延

山に登る人はいろいろなこだわりを持っているはずだ。ただ登ってくだるだけでは楽しくない。どうせなら、とことんこだわってみたい。今回は、こんなこだわりのある山を紹介する。

大阪駅からJR福知山線に乗り、谷川駅で乗り換え、加古川線日本ヘソ公園駅で下車する。日本のヘソと言うわりには、駅前は静まり返っている。線路沿いに北へ少し戻ると、そこに日本のヘソが発見できるはずだ。日本列島を東西に二分する東経135度の子午線と南北に二分する北緯135度の緯線が交差する日本のヘソがそこにある。

明石の子午線は有名だが、山を愛する人たちにはこちらの「ヘソ」を見ていただきたい。

でベソ・泣きベソ・ヘソ曲がり・ヘソで茶をわかす人もおられるかもしれないが、日本でただ一つのこのヘソだけは、一見の価値がある。余談だが、これは国土地理院の前身である陸軍参謀本部陸地測量部によって計測されたらしい。

ヘソを発見したら東へ歩きだそう。目の前に低いながらもラクダの瘤のような美しい山容が見えてくるはずだ。交差点を左折し工場を過ぎると、右側に林道が山へ向かってのびている。林道は途中で消え、そのあとは雑木林のなかを登ると尾根にのる。尾根を東へ進むとすこしずつ展望が開けて、241mの4等三角点に着く。

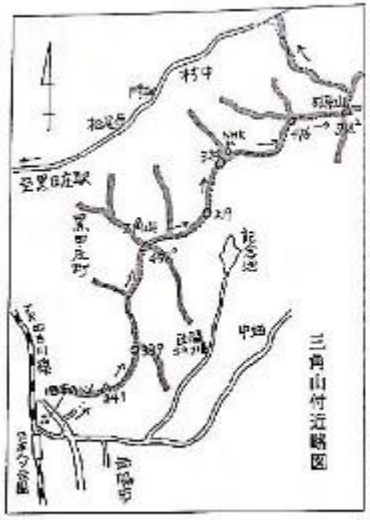
低いわりには展望がよく利き、西脇市の街並みや西光寺山がよく見える。ここまでは足ならし、さあ体も十分暖まって縦走の開始である。山頂から北東へ約300mをジェットコースターのようにくだると、ゆるやかな登りが始まる。所どころに町界杭もあり、踏み跡もしっかりしているので迷う心配はない。ただ多少のやぶがあるので手袋だけは持参すること。ピーク339m付近まで来ると岩盤帯の尾根歩きとなる。雨の日はスリップしやすいので注意してほしい。右側にゴルフ場のプレーヤーが見える頃になると、三角山（585m）の頂上は近い。

最後の急坂を登ると三角山（455m・0m）だ。山頂は意外と広く、2等三角点の横には木箱があり登山ノートもある。ここで昼食を終え、大展望を楽しもう。なんと明石海峡や淡路島まで見えるではないか。展望を十分楽しんだ後下山にかかる。相変わらず雑木のやぶがうるさいが、進めなくはない。磁石が北東から北へ向きを変えると、219mの最低鞍部である。渡れたらここから北西へくだった所にオートキャンプ場があり、売店もある。ひと息つくにはいい所だ。

さて、この先は踏み跡も薄く、磁石と地形図でしっかり自分の位置を確認して歩いてほしい。ピーク324mに着くと、NHKテレビアンテナが立っている。ここまで来れば、今まで歩いた尾根が一望できるはずだ。ゆるやかな登りくだりを繰り返し、また登りだす。展望のない尾根歩きほどつまらないものもないが、時にはシカの糞が散乱していたり、道標のないけもの道を歩いたり、静けさの中で山との対話を楽しみ、自分自身をも試されているようでそれなりに楽しい。

磁石の方向が東へ変わり始めると最後の登りとなる。力をふりしぼって登ると、杉原山（598・2m）3等三角点があった。別名門柳山ともいうらしい。展望は全くないが、登頂プレートなどもいっさいなく静まり返った山頂だ。

くだりは北西へのびる尾根をくだり、県道が林道へ変わる所へ出た。



◇コースタイム◇

日本ヘソ公園駅（3人）日本のヘソ（15分）林道入口（15分）4等三角点（55分）P339m（50分）三角山（40分）219m最低鞍部（30分）P324m（55分）P470m（30分）杉原山（50分）林道（1時間）黒田庄駅

〈地形図〉 2万5千＝谷川

〈アドバイス〉

黒田庄駅の近くに兵主神社がある。茅葺屋根で、全国的にも珍しい。時間があればお立ち寄りください。

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
組合員の会員社で更に割引します。
山とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231
JR天王寺駅北出口右へ歩道橋渡ってスグ

360度大展望の三角山の三角点

特選コースガイド図

南紀

2等三角点のある山

高城山・高田山・高畑山

初級コース（★　）

山形　歳之

高城山（239・8㍍）点名　高城山

和歌山県の海岸沿いに点在する2等三角点の山の中で、「高」の付く山々を登ってみた。どれも余り高い山ではないが、展望は良いようである。

この「高」の文字がついていることは、地上から見て高く見える、すなわち山上からの展望が良いということになるのだろうか。

大阪方面からは、阪和自動車道・海南湯浅道路と乗り継いで御坊インターまで、渋滞の状況にもよるが2時間程みておけばよい。

高速道路を降りると、国道42号線で印南町に向かう。JR印南駅より手前で左の高城山の林道に入るが、直接左折できず、いったん行き過ぎてから右折（海側）し、カーブを描いて180度回転して国道の上を通り山上に向かっている。この道は広域農道で、丘の上の養鶏場に行く。

JRを利用して行く人は、印南駅前からタクシーで養鶏場の林道口までと言えばよい。この新しい養鶏場は高城山の稜線の端部の台地上にあって、新道がのびている。高城山へはこの道の突き当たりから、旧道の林道を2㌔ばかりで山頂のすぐ下に達することができる。少し道が悪いのでタクシーは入ってくれないかも知れないが、マイカーなら山頂手前の十数台駐車場くらいまで入れる。もっとも、駐車スペースは無いし、回転もままならないので、歩いたほうが無難かも知れない。

この林道の一番高くなった所が高城山で、この先で林道はくだりだす。左に踏み跡があって50㍍ばかりで山頂に達す。雑木の疎林で展望は得られないが、林道筋からは良い展望が得られる。

高城山三角点

◆コースタイム◆

JR印南駅（約30分）林道口（約50分）高城山

＜地形図＞20万＝田辺　5万＝御坊・印南

高田山（222・4㍍）点名　山内

国道42号線をさらに南下して南部町に向かう。町の手前の岩代峠にあるレストラン「くーる」の駐車場に車を駐める。

国道の向かいに「くーる」の看板があり、ここから沢沿いに林道がのびている。この林道は車が通れないこともないが、入らないほうが無難だろう。

最初の分岐を右上に登り、高圧線を過ぎてから左の道に入る。周囲は果樹畑が続く。あとは道なりに上に向かって行くと、新しいコンクリート道に合流して、最後は新しい巨大な水槽に行き当たる。三角点は水槽裏の削られた山肌の上にある。樹木の所は展望はないが、夏の梅林や途中の道からの展望は良い。

山頂の水槽は最近作られたのか、南部川沿いの野原集落から新しい舗装路が山頂までのびていて、マイカーで登れるようになっていた。もちろん、JR南部駅からタクシーで簡単に行ける。

◆コースタイム◆

岩代峠（35分）高田山

＜地形図＞20万＝田辺　5万＝田辺

2万5千＝紀伊南部

高畑山（225・6㍍）点名　岡

国道42号線をさらに南下する。田辺の市街を抜けて、富田川の手前で国道311号線に左折し約3・5㌔、岩田橋を過ぎた大坊で左折して北上する。ここから約2・5㌔で左に普大寺に入る道が分岐する。トンネルの手前に道標が立っている。

普大寺の駐車場の前に高畑山遊歩道の道標がある。この道はみかん畑の農道だが、小型車は通行可能で、道なりに登ると山頂まで行ける。

高畑山の山頂

タクシーの場合はここから歩くことになる。

高畑山はみかん畑の上にあり、数台の駐車が可能である。山頂には少し樹木があるが、展望はすばらしく、北東に数本のアンテナを立てた槙山が大きく円に広がっている。さすがに1等三角点峰だけのことはある。南には、田辺・白浜の町々から太平洋が広がる。三山のうちでは一番展望の良い山である。

◆コースタイム◆

普大寺（約30分）高畑山

＜地形図＞20万＝田辺　5万＝田辺

2万5千＝紀伊田辺

これらの山は、低いうえに車道が完備していて簡単に登れる。マイカーはもちろんのこと、JRで行ってもタクシー利用なら1日で回れる。

南紀は観光ポイントも多いし、梅や、みかんなどの果物も豊富なので、観光を兼ねて登ってみてください。

特選コースガイド③　奈良中部

訪れる人もまれな2等三角点

大和大野　郷山

初級コース（★　）

慶佐次　盛一

5月の近鉄大阪線室生口大野駅は、見事なシャクナゲの花が出迎えてくれる。駅前は、室生寺のシャクナゲがお目当ての観光客やカメラマン、薬師に誘われたハイカーたちで大いににぎわう。

バスに乗る人、タクシーを利用する人、徒歩で向かう人、そのほとんどは駅から南へと去って行き、意外と北へ向かう人はいない。今回はにぎわいに背を向けて、室生口大野駅北部の静かな山里歩きをご紹介しよう。

最初は郷山をめざすが、私たちが歩いた全コースの中には二つ星（中級）のやぶ山もあるから、初心者はやぶを避け、野辺のワラビでも摘みながらのんびり歩いてほしい。道標はないので地形図と磁石は必携である。

駅前を左にとり、電車の高架をくぐり抜け右の坂道を上がる。途中の北向き地蔵を過ごせば古大野口バス停に出る。近くに猟師の家があるらしく、猪の毛皮が干してあることもある。道は先で二分し、右の道を進む。

高原状となり、右の畑に304・1㍍の4等三角点（点名三本松）があるから立ち寄ってみよう。三角点の北に、アンテナが立つ郷山とその左に古大野岳がよく見える。元の道に戻りゆるやかな傾斜を歩く。急カーブの上に白玉稲荷社がある。このあたり、右に田畑が広がり、まわりのみずみずしい新緑の山には躑躅の花も咲く。

やがて小さな集落に出て、湧水池のある神明神社に着く。ひと昔前には養蚕もしていた集落である。神社の縁から宮坂峠を越える旧道もあるが、分かりにくいからそのまま車道で峠を越えたほうがいいだろう。

峠を越え、地形図にない左の地道の林道に入る。入り口にチェーンがあり、松茸の監視小屋があるからその季節には入れない。200㍍ほど進み、右のササのなかのかすかな切り開きに入る。最初は少々やぶっぽいが次第に確かな道となり尾根に出る。道なりに登ると、麓から見えたアンテナを経て郷山の2等三角点に着く。北向きの三角点で、展望はほとんどないが登頂標もない静かな頂だ。郷山の名は総称だが、登山者が三角点を郷山と呼んでも差し支えはなかろう。

三本松の三角点からの郷山

この記事は高田宋久氏とともに、山名再確認の山行の際のものだが、同氏著の'96年版の昭文社エアリアマップ「赤目・倶留尊

高原」には、この三角点に郷山の名が明記されている。

南西に切り開きがあり、伐採木を越え、松茸山のやぶを急降下すると溜め池に出る。地形図に記されていない林道もここまで来ているから、やぶと地図に自信がない人は郷山から元の道をくだり、林道をここまで入るほうがいい。

溜め池の堰堤を渡り、古大野岳へ向かう。細い道が奥へ続いているが、山側の道を選び尾根を登る。しばらく登ると「巻き道上」と刻まれた碑に着く。ここが古大野岳で、かつての雨乞いの山である。この先はやぶだから、自信がない人は引き返し、道を選びながら山麓歩きを楽しんでほしい。

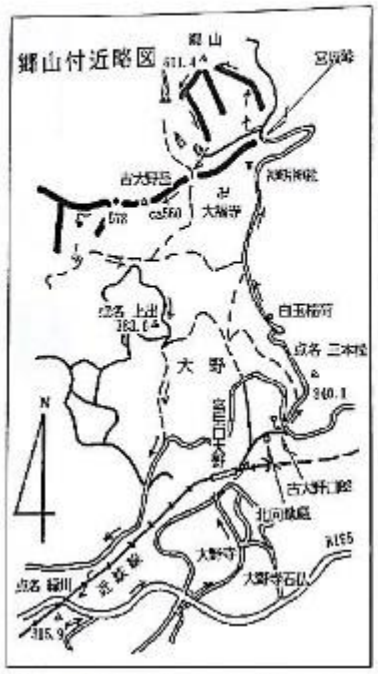
地図に自信のある人はさらに西へ進もう。やぶを分け573㍍のピークに登り、稜線にルートをとれば躑躅が現れ稜部に着く。稜部から南への道をくだる。途中で途切れても、左の谷状のほうへくだると道の続きが見つかるだろう。やがて前方が成長した杉林となり、道は西へ向かうので道を外して杉林の中に入る。段々畑の廃田を利用した植林帯だから、多少の段差はあるがどこでも歩ける。

植林帯を突っ切ると廃田に飛びだし、南側に室生火山群の山並みが視野いっぱいに展開する。地形図を出して山座を同定したり、現在位置を確認するには絶好の所だ。廃田の草やぶを分け、農道をゆるやかに南へくだる。傾斜のゆるんだ山麓の出んぼでは、のどかな代かきが始まり、ふり返ると先ほど登った古大野岳が、雑木の新緑と植林の濃緑とを鮮やかに色分けして美しい。

小さな集落にも383・6㍍の4等三角点（点名上出）があるから、読図と現在位置の確認のために立ち寄り、破線の道を南へくだった。もう駅が近くなったので、この辺で打ち切ってもよかったが、時間に余裕があるので旧伊勢街道を歩いて、さらに315・9㍍の4等三角点（点名緑川）をめざした。

電車のガードをくぐり、国道から三角点南側の坂道を上がる。坂の上の右奥に民家があり、その手前の原っぱから三角点ピークに登る道があった。切り開きからきょう歩いた山麓を眺め、国道におりて大野寺経由で室生口大野駅へ戻った。

郷山付近略図



◇コースタイム◇

室生口大野駅（20分）点名二本松（50分）郷山（35分）古大野岳（50分）点名上出（40分）点名緑川（30分）室生口大野駅

◇地形図▽2万5千＝大和大野

特選コースガイド④

吉野

旧東熊野街道
小仏峠越

中級コース（★★）

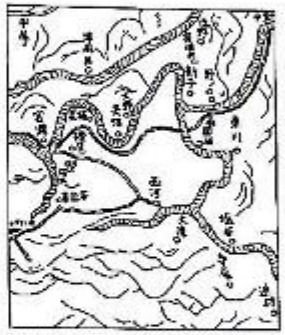
柴田　昭彦

『寛文十一年（1671）の『吉野山独案内』には、次のように記してある。

「西河より夏茸へ出づる道に仏が峯とて一里の坂あり。麓に蟬が滝とてだんだんに落つる滝あり。少し下に樫尾の茶屋あり。それより三町程過ぎ夏茸なり。」（夏茸＝菜摘）

この案内書を読んだ芭蕉は、『笈の小文』の旅で、貞享五年（1688）三月二十二日に、樫尾峠から小仏峠（一名仏が峯）を越えて西河に出ている。また、本居宣長は、『菅笠日記』の旅で、明和九年（1772）三月九日、苔屋が峯から吉野道を経て、西河・大滝を巡り、仏が峯から樫尾茶屋を経て宮滝へ出ている。

江戸時代によく利用された小仏峠越（仏が峯越）の熊野道は、明治六～七年、十二～十八年に、五社峠道が大滝村の山林王、土倉庄三郎翁によって手車道に改修され、東熊野街道として利用されるようになったため、以後は今く寂れと忘れ去られてしまった。明治後期から大正期にかけては、吉野



「大和国大絵図（伊能図絵見図）」（1735年）より

「嘉永増補改正大和国絵見図」（1848年）より

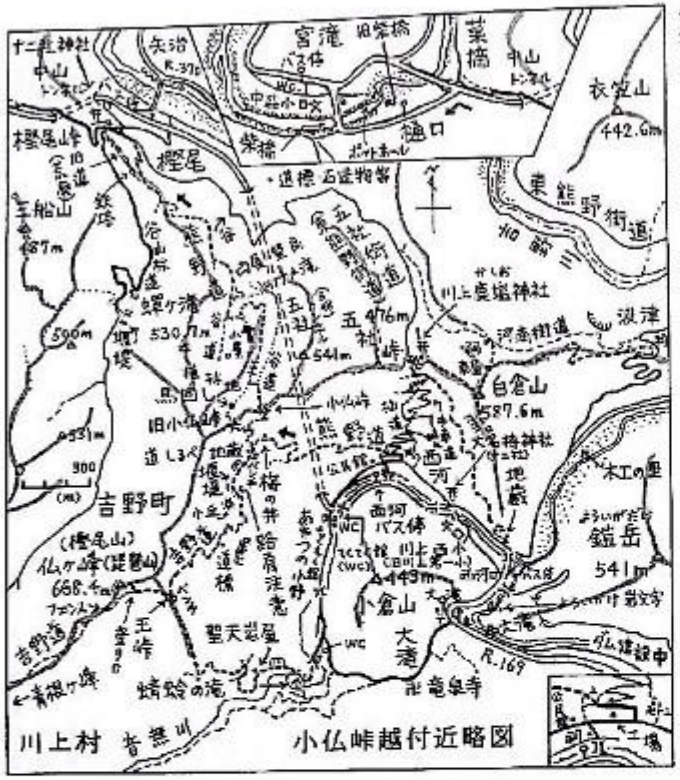
小仏峠の北方の展望地から見た青野川と烏ノ峠岳山

川沿いの東熊野街道が車道に改修されて利用が増え、昭和四十八年には、五社トンネルが完成して五社峠道の利用も途絶した。

大安隆著『芭蕉　大和路』（和泉書院、一九九四年）は、増田峠天樓氏が昭和二十七年に初めて解明した「小仏峠」と「蟬が滝」について、改めて調査を行い、詳しく紹介していて興味深い。ただこの記事と略地図だけで、小仏峠越をたどることはかなりむずかしい。

今回、芭蕉や宣長の足跡を求めて、小仏峠越の古道をたどり、幻の蟬が滝を探勝するコースを紹介し、加えて白倉山や仏ヶ峰へ登るコースについてもふれておきたい。

近鉄大和上市駅から、9時55分（または11時25分）発、温泉前坂杉の湯行き（樫尾峠出）のバスに乗り、西河バス停で降りる。



すぐ北側の橋を渡り、祠の右側の道をたどると辻に出る。旧道は直進しているが、右をとりカネマツ本社工場を過ぎてすぐ左折して舗装道を上がる。すぐ左へ折れて、右側に新小屋があり、五社峠道がのびているが、見送って進む。少し先で、右手に急斜面の淵があり、その左側にある階段を上がり、左斜めに踏み跡をたどると旧道と合流して、小仏峠越の古道に入る。

幅の広い歩きやすい道が続き、ほどなく梅の井に着く。横に文政十三年（1830）の石碑が立っている。少し進めばベンチと道標のある分岐に着く。祠に納められた道しるべ地蔵には「右上市　左よしの」と刻んである。左へ直進するのが宣長もたどった吉野道（旧吉野街道）で、玉峠を経て青根ヶ峰に出られる。

道しるべ地蔵の右側の山道を登る。途中で道標の倒れている分岐がある。左をとれば旧道で、旧小仏峠に出る。そのまま北へくだると広い場所があって、ここから先へは馬が行けないため馬を回したといい、「馬回し」と呼ばれている。その下の谷道は、植林が行われたために通行困難であり、旧道は消えている。先の分岐まで戻り、右へ登れば、現在の小仏峠に出る。ここの道

北側から見た小仏峠

らの旧道を埋め尽くした若い植林地の谷と合流する。古い植林地へ入ったら、北へ続く谷道をとらず、左へ10㍍ほど進むと旧道に出合う。間伐材が横たわり歩きにくいが、明瞭な旧街道が山裾に連なっている。倒木を越え、雑木の中を抜けると滝状になった古道らしい雰囲気のある快い道となる。

右側に谷を見下ろしながら進むと崩落地が現れる。左方向に谷を刻んでいる場所で、迂回して西の方向へ踏み跡をたどれば、明瞭な道に出合う。このあたりは迷いやすいので、青テープの目印をたどるとよい。分岐点には西側の木に「松井山改」と墨字で書いてある。分岐を右へとると少し登り坂で、くだりになった時、視界が大きく開けて思わず快哉を叫びたくなる。正面に竜門岳から烏ノ時臣山が目に入り、大野付近や五社峠道も見え気分爽快である。しばし憩うとよい。少しくだると右手に急峻な谷が見える。あとは道なりにくだる。途中で分岐があり、左側の尾根道は旧道で、鉄塔などもあるが、道の一部は荒廃しているので右側の急坂をくだろう。

やがて、五社峠道へ出る。少しで谷山林道の交叉する樫尾峠に着く。左をとり林道をたどる。すぐ左側に旧道入り口がある。水音が聞こえてくると、まもなく、樫尾簡易水道の水槽が現れる。背後の黒光りする岩にかかるのが、芦瀬が見た蟬が滝（黒滝）で、上下二段になっていて、上段が「だんだんに落つる滝」であるが、水量のためか、遠目に見てもあまり見映えがしないのは残念である。

林道をさらに奥へたどり、右に保安林表示のあるところを過ぎてすぐ左手の方向に、40㍍ほどの滝が見つかる。その全容が見える場所へ行く道は全くなく、踏み跡らしいものはあるが、もろく崩れやすいので近寄る場合には万全の注意をお願いしたい。

なおここは地元の人の大切な飲料水源となっていることを十分にわきまえたうえで、行動してほしい。言うまでもなく無断で林産物を採取したりゴミを捨てたりしてはいけない。

さて、樫尾峠へ引き返してみれば、道の分岐の石標に気がつく。「右山上　くまの」「左をがわ　いせ道」とある。「をがわ」は東吉野村小川のことである。樫尾峠には民家や茶屋があったらしい平坦地が残り、往時のにぎわいを物語っている。

峠から西へくだり、国道沿いの歩道を進む。宮滝大橋を渡って左へ進むか、樋口経由で柴橋を渡り国道を左へ進むと、宮滝バス停に着く。バス停付近は宮滝遺跡で、飛鳥・奈良時代の吉野離宮跡と確定している（応神・雄略天皇の頃の吉野離宮は未確定である）。

近鉄大和上市駅へのバス便は毎時47分発で、18時17分が最終便である。バス待ちの時間を利用して、柴橋の北側の商店の左側の道を東へたどれば、ポットホール（氷流による穴）が見学できる。岩と岩の間の一番狭い所には宮長が訪れた頃、柴で編んだ掘れる柴橋がかけてあったという景勝地で想うことができる。

白倉山へ登るには、西河口バス停で降りる。聖天経山の便の他、上市駅から16時25分発の国栖経由の便も利用できる。北西へ少し進むとフェンスがあり、その裏側に登り口がある。入ってすぐ地蔵がまっってあり、横に犬の墓まである。足元は岩屑がせり出している所もあるが、さほどでもなく、やがて切り通しとなった五社峠に出る。

道しるべ地蔵

東熊野街道としてにぎわった頃には、茶屋が二、三軒あったらしいが、今では「式内川上鹿垣神社」と刻んだ石柱が立ち、拝殿と鳥居があるだけである。右手の道を登ると山腹に本殿がある。元禄十二年（1699）の棟札に「大明神御社」とあり、宝暦六年（1756）の棟札には「大倉五社大明神」と書かれていて、御社から五社に転訛したものと考えられる。

本殿の右側から「川上中」のプレートに導かれて尾根伝いに急坂をよじ登れば、4等三角点の所にとび出し、右へ進むと頂上に達する。スリルあふれるやせ尾根からは西側の展望がすばらしい。三角点からよく整備された尾根道を北へ伝い、東屋から東へくだれば白玉弁財天と山の神の祠を経て舗装道へ出る。南へ向かい木工の里を経て西河口バス停へ戻る。

仏ヶ峰へ登るには、大滝バス停で降りて、宮泉寺の横から峠を越えてくんだり、左へ入って鯖鈴の滝の右手から山道に入る。分岐で右をとって岩伝いに手すりのある道を上がると、聖天岩屋に出る。ここは、役行者が修行したと伝える旧仙童寺奥の院である。左へさらに足元に注意しながら登れば、ベンチのある王峠に出る。左へ進んで、途中、右側に仏ヶ峰への登り口がある。少し登り尾根をたどれば、3等三角点のある山頂である。登り口から西へ尾根道をたどり北へくだって近鉄吉野駅をめざすもよし、王峠へ戻り、道しるべ地蔵を経て、西河か宮滝へ出るのもよいだろう。

（平成8年12月・平成9年1月歩く）

《コースタイム》

西河バス停（30分）道しるべ地蔵（10分）旧小仏峠（10分）小仏峠（25分）分道出合（30分）樫尾峠（30分）蝶ヶ滝（30分）樫尾峠
小仏峠（30分）五社峠（40分）樫尾峠
西河口バス停（30分）五社峠（20分）白倉山（30分）登山口（15分）木工の里（10分）西河口バス停
大滝バス停（20分）鯖鈴の滝（10分）聖天岩屋（50分）王峠（10分）仏ヶ峰（1時間）青根ヶ峰（2時間）近鉄吉野駅
王峠（25分）道しるべ地蔵

《地形図》2万5千＝新子
昭文社＝「56大峰山脈」

連載

台湾の山々・五岳三尖へ（第6回）

北大武山

山形歳之

台湾中央山脈南部の名山、北大武山（3092㍍）をめざす。五岳三尖の六山目である。

いつもの通りザックを肩に台北空港に降り立つとガイドが待っていて、車で台中市に向かって走る。ここでもう一人のガイドと落ち合い、警察署に入山許可を受けに行く。原住民の居住地や高山に登る場合は、台湾の国民でも入山許可が必要である。また3000㍍以上の山に登る時は、三人以上で登山しなければならず、しかも十人毎に登山ガイド一名の同行が必要となる。

登山口の警察官派出所では、許可書を提出し入山届けをする。たいへん面倒である。もっとも、登山口に必ず派出所があるわけではないが、近くにその山を管理している派出所があり、無許可で登れば罰金を取られるはめになる。

聞くところによると、五岳三尖のうち今まで登山口に検査所のなかった玉山にも今年検査所が設けられ、きっちり調べているとのことである。

その他に、雪山と大霸尖山には検査所がある。このような規則のために、好きな時に自由に山に登れないのは、日本と比べて不便に感じる。しかしガイド同行なので事故も少ないようである。手続きが面倒なため台湾への登山者も旅行社の登山ツアーに参加する人が多い。

低い山でも原住民居住地には車道に検問所があって、許可を貰わなければ自由に入ることができない。台湾人はすぐにその場で手続きができるが、外国人の場合は事前に本庁での許可が必要で、すぐにというわけにはいかないのである。そのうえ困ったことには、台湾の人々でさえも、どこが原住民居住地で許可が必要なのか、よく分からないそうである。もっとも手続きさえすれば入許可になるということはないようだ。

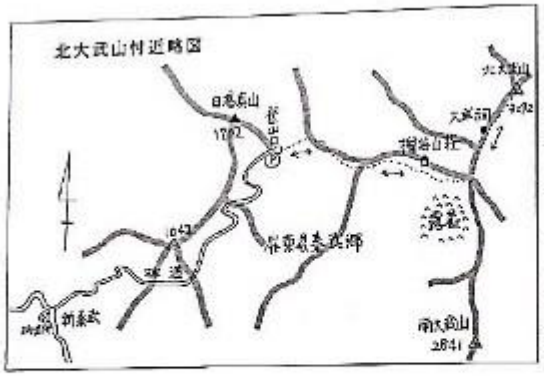
台中市で許可を貰い、車は一路南をめざして疾走する。北大武山は台湾でも最南端の屏東県にあるので、台北から台湾を縦断して約300㍍ばかり、登山口まで丸一日走らねばならない。

北大武山山頂

13時頃台北の空港を出発し、台中市で許可を受け、ハイウェイを走りに走って高雄市に入った時には、すっかり夜が更けていた。高雄で夕食ののち、暗い田舎道をひた走る。地図を見ていても、いったいどこを走っているのか見当もつかない。

やがて車は登りだした。ライトに照らし出された路面しか見えないが、かなり高度が上がってきたようだ。前方に小さな明かりが見え、車は止まった。時計はすでに22時を指していた。ここは台湾原住民の排湾族の新泰武という集落で、北大武山登山口に一番近い最奥の村である。標高はすでに800㍍を超している。村の入り口にある派出所から警官が出てきて、道端にテントを張りかけていた私たちに、炎のほうに長い空き地があると教えてくれた。私は車の座席を倒し、シュラフにもぐり込んだ。

明けて二日目は午前5時半起床。餅入りラーメンの朝食を食べる。今の時期、南国の台湾でも6時にならないと夜が明けない。大武山脈が黒い影を現す。空は晴れているのだが、大武山の稜線は黒い雲に包まれ、頂上部の天気は悪そうである。



登山口に向かって車を走らせる。道は北大武山にのびる尾根を伝い、斜面にはビンロウ椰子の畑が広がる。やがて舗装路が切れ、30分程かかって登山口近くに到着する。ライトバンが一台見える。登山者があるようだ。この先は林道がえぐれていて、車の通行は不可能だ。身支度を整え林道をたどると、300㍍ばかりで登山口の広場に到着した。ここには数台のスクーターが置いてある。標高は1500㍍であった。

道標には「北大武山　標高3・090㍍。三峰まで6・76㌔　檢谷山荘まで4・48㌔」と記されている。

ここは北大武山から西にのびる稜線の一端で、ゆるい樹林帯の登りが始まる。樹齢はそれほど熟成らしくないが、木々にはシダが絡み、間の植物が多いとのこと。また夏は雨量が多く、沢の流渉が困難になるため冬期が登山に適しているそうだ。登山道は明瞭で、稜線の林の中をゆっくりと登っていく。やがて前方に、地図にある崩壊の斜面が見えてくると、ザイルの張られた岩になる。この悪場を乗り越すと、道は稜線の登山道と別れて檢谷山荘にたどり着く。小屋の周辺の林はよいテント場で、数十張りが可能である。まだ午前10時30分。登山口から2時間30分であった。

小屋は広いが相当に古びていた。屋根の鉄板は錆つき、入り口のブリキ張りの戸もかろうじて閉まるほどである。内部は中央に3㍍くらいの土間が通り、両側に一段高く床が張られて、人が寝られるだけの奥行きがある。北緯的長く一列に50人くらいは寝られそうだ。私が入った時すでに十数人分のザックやシュラフが置かれていた。内部は何とか片づいているが、外はごみの山。20㍍ばかり下にあるトイレ舎は、便槽が溢れていて使用する気がしなかった。水は少し離れた沢から十分に得られた。

リーダーらしき男が一人で焚き火をしていて、今年は登山中とのことであった。小屋の登山口側に三角点の矢印が山頂を示している。もちろん北大武山には一等三角点が設置されている。しかし台湾では三角点が設置されているいないにかかわらず、山頂を示すのに山名を記さず、三角点にこだわりを持つ私には嬉しい標示である。

きょうは土曜日。若い人たちが続々と登ってきて、夕方には広い小屋がいっぱいになってしまった。今の日本では、中高年の人たちが目につくが、台湾では若い人たちの姿が多い。もちろん女性も何人も登ってくる。

小屋の夜はそれほど騒がしくはなく、夜空には星がまたたいたり、そうかと思えば雲におおわれたりした。

午前2時起床。例のごとく鮮入りのラーメンを食べる。早い人はすでに出発して行った。3時10分、私たちもライトを点けて小屋を出る。すぐ急登が始まる。暗いのでライトに照らされた足元だけを見て、木の根をつかんでの登りである。やがて尾根の縦走路に合流すると、道も少しよくなり、前方の林の中に先行者のライトがちらちら見えてきた。水場でひと息入れて、2時間30分で稜線に着く。ここは北と西の大武山の鞍部だが、かなり北大武山寄りになる。

稜線の登りは風が強く、雨もぱらついてきた。昨日と同じように上部は天気が悪い。「あと1時間40分」とガイドの励ます声。道は狭いし、登りくだりが多く、その先は西稜の中で定かに見えない。一つのピークに登り着く。地図に太武峰と記された神社のある所で、ひと休みするのによい所である。第二次世界大戦時に、日本が米・英に宣戦布告した詔書が石碑に刻まれている。カナ混じりの漢文は、もう歴史上の遺物でしかなく、日本人だということで私に説明を求めた若者たちにも、理解しがたいようであった。それにしてもこんな山上によくも作ったものだ。また、壊されもせず残っていたものだ。木製の大きな鳥居もあり、石垣の上には小さい社も残っていた。

ひと息入れて、山頂に向かって出発する。道標は0・91キロと示していた。

やせた稜線は、雨や風の強い所があったり、そのわりに路面が全く崩れていなかったり、きょうの空模様はいったいどうなっているのだろうか。さらに小1時間、最後はロープばかりの岩壁をよじ登り山頂に到着した。山頂には、まだ新しいコンクリート枠に囲まれた1等三角点標石が納まっていた。ここは何ひとつ展望を遮るものはないのだが、雨霧に包まれて全く視界が利かない、残念だ。

岩陰でひと休みし、温かいコーヒーで元気を取り戻すと、一気に下山にかかる。続々と人が登ってくる。小屋から4キロ余り、4時間15分の登りだったが、下山は3時間であった。

小屋に戻り、用具を片付け下山にかかる。きょうの登山者のなかでは一番早い。ロープのかかる急場では、小学生くらいの女の子を連れた家族が登ってくる。子供たちには少しハードと思われた。登山口には、昨日よりさらに多くの車やバイクが置かれていた。

私たちを乗せた車はどんどんくだってゆく。登りは暗くてよく分からなかったが、たいへん高い所まで車道がのびていた。

旧泰武は排灣族の中心地で、集会所や学校の壁に描かれた民族画が珍しかった。

こののち、私は台湾南部の1等三角点峰を求めて、さらに車を南に走らせた。

（平成8年12月歩く）

☆コースタイム☆

（1日目）大阪＝台北＝台中＝高雄＝新泰武

（2日目）新泰武＝登山口（2時間30分）檢谷山荘

（3日目）檢谷山荘（2時間30分）稜線鞍部（50分）神社（50分）山頂（1時間）稜線鞍部（2時間）檢谷山荘（2時間10分）登山口

歩く旅に出かけよう！

"歩く"ことは健康の源。その効果は、心臓や血管・肺・筋肉を強化し、脳を活性化する…等々数え上げたらキリがないほど。そこで"歩く"ことをテーマにした旅のクラブ

地球ウォーキング倶楽部

が今春よりスタートしました。
●山や高原、歴史道から名所旧跡まで、歩くことでしか判らない良さを味わう"歩く旅"です。
●ゆっくりと、自然と触れ合い、風景と対話するウォーキングです。
●女性お一人や中高年のご参加を、特に歓迎します。
＊只今、参加者を募集中。詳細お問合せ下さい。＊資料・パンフレットご請求下さい(無料)。

4／25(土)～29(火) イーハトーブ紀行 費用：111,000円	5/3(土祝)～5(月祝) 青木ガ原樹海 費用：59,000円	5／8(木) 北良山上ハイク 費用：10,000円	5/9(金)～11(日) 西宮～松茸 費用：74,000円	5／15(木) 友ガ島周遊 費用：10,000円	5／16(金)～18(日) 善光寺～戸隠高原 費用：66,000円
5／22(木)～25(日) 久住高原～阿蘇 費用：77,000円	5／23(木) 大台ガ原 費用：5,000円	6／5(木) みたらい渓谷 費用：10,000円	6/13(金)～15(日) 尾瀬ガ原 費用：65,000円	6／19(木)～22(日) 白神山地～奥入瀬渓谷 費用：100,000円	6／22(日) アジサイの矢田寺 費用：10,000円
6／26(木)～29(日) 礼文・利尻島～サロベツ原野 費用：119,000円	7／3(木) 高尾～清滝 費用：8,000円	7／11(金)～13(日) 白馬・樹池自然園 費用：49,000円	7／18(金)～21(木祝) 知床半島～釧路湿原 費用：138,000円	7／24(木)～27(日) 軽井沢～赤城高原 費用：76,000円	

やませみクラブ

初心者のための 山歩きを楽しむ会

やませみクラブは―

これから山歩きを始めようという方や初心者中心の、山歩きを楽しむ会です。
"やませみ"の名は、野鳥のヤマセミと「山のセミナー」から名付けたもので、登山インストラクター同行の安全山行をモットーに、山の基本を学びながら、山歩きを楽しみます。

＊やませみクラブは女性お一人での参加や中高年・初心者を特に歓迎します！
＊どのプランからでもご参加いただけます。詳細お問合せ下さい。

4／27(日) 播州・笠形山 費用：11,000円	5／3(土祝)～5(月祝) 四国・剣山～三嶺 費用：59,000円	5/3(土祝)～5(月祝) 上高地ハイキング 費用：59,000円	5／11(日) 鈴鹿・藤原岳 費用：11,000円	5／14(木) 鈴鹿・藤原岳 費用：10,000円	5/17(土)～18(日) 大峰・釈迦ガ岳 費用：23,000円
5／25(日) 比良・岩阿沙利山 費用：11,000円	6／1(日) 二上～葛城～金剛山 縦走 費用：4,000円	6／5(木)～8(日) 屋久島・縄文杉と宮之浦岳 費用：133,000円		6／6(金)～8(日) 阿蘇高岳～九重連山 費用：75,000円	
6／11(金) 比良・シャカ岳 費用：10,000円	6／14(土)～17(木) 尾瀬ガ原～至仏山 費用：70,000円	6／21(土) トゥニンティクロス～皇海山 費用：3,500円	6／26(木)～29(日) 北海道・利尻岳～礼文島～稚内山 費用：150,000円		

＊詳細お問合せ／資料のご請求は ☎ 06-265-3303

アミューズトラベル株式会社 運輸大臣登録 旅行業第1366号
〒541 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電　京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽スペシャルイベント「第6回奈良～飛鳥・歴史街道マラソンハイク」　5月3日(祝)雨天決行（エキスパートコース）集合奈良駅近鉄奈良駅東改札前7時30分～9時（コース）近鉄奈良駅―北・山の辺の道―石上神宮―山の辺の道―桜井駅―橿原市長谷寺―国宝飛鳥歴史公園（ゴール）―飛鳥駅（チャレンジコース）集合大理駅大理駅前9時～10時（コース）天理駅―石上神宮―山の辺の道―桜井駅―橿原市長谷寺―国宝飛鳥歴史公園（ゴール）―飛鳥駅（ファミリーコース）集合大阪橿原神宮前10時～11時（コース）橿原神宮駅―昭和公園（受付）―橿原市歴史館―国宝飛鳥歴史公園（ゴール）―飛鳥駅参加自由、詳細は四月上旬発表、上本町事業06（775）3566

▽かんさい遺跡「五私鉄歴史ウォーク」歴史的人物の名所史跡にふれあう近鉄沿線「義経ゆかりの吉野山」5月11日(日)雨天は18日(日)集合吉野線吉野駅10時9時～10時（コース）吉野駅―如意輪寺―義経桜地蔵―花矢倉―吉野水分神社―高城山（昼食）―金峰神社（隠れ岩（鎖場））―勝手神社―吉水神社―蔵王堂―吉野駅（約13㌔）会費無料、拝観料は別途、参加自由、参加資格・健脚に自信のある人、小学生以下のこどもと75歳以上の高齢者の単独参加は御遠慮下さい。天王寺事業06（624）0382～3

▽近鉄葛山・名山を行く第5回「自然岳」　5月25日(日)雨天中止集合吉野線大和上市駅前9時20分（コース）大和上市駅（バス）白屋口―自然道―鷲ノ巣峰―自然道―三尾―庄生川上神社中社（バス）大和上市駅（約14㌔）健脚向）会費無料、バス代は別途、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽歴史ファミリーハイキング・新緑の大和路を見に行こう「昆虫山から頼井岳」　5月25日(日)雨天中止集合大阪橿原線橿原駅前10時10分（コース）橿原駅―高取城跡公園―青龍寺―十八神社―大淵谷（バス）橿原駅（約10㌔）会費無料、バス代は別途、参加自由、上本町事業06（775）3566

▽歴史街道キャンペーン1997「歴史街道100選」探訪ハイキング第2回「橿原宮跡・大和三山を訪ねる」　6月1日(日)小雨決行集合南大阪線橿原神宮前駅中央改札前10時30分（コース）橿原神宮前駅―畝傍山―本薬師寺跡―天香久山―橿原宮跡―耳成山―八木駅（約14㌔）会費無料、講師橿原市観光協会・かしはら観光ボランティアガイド、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽歴史街道キャンペーン1997「歴史街道100選」のんびりバス&ウォーク「初夏の加茂町を訪ねる」　6月6日(金)小雨決行集合奈良線近鉄奈良駅東改札前10時（コース）近鉄奈良駅（バス）岩船寺（拝観・説明）―阿弥陀三尊など石仏巡礼―浄瑠璃寺（拝観・説明）（バス）近鉄奈良駅（約4㌔）会費無料、バス代・拝観料は別途、定員80名電話申込み制、講師加茂町役場、上本町事業06（775）3566

▽文学散歩・踊り継がれた唱歌を行く①「かぐや姫の神秘は古墳群のなかに―広陵町」　6月8日(日)雨天中止集合天阪線五位堂駅改札前10時10分（コース）五位堂駅―真美の塔―乗野古墳―竹取公園―濁酒資社―山王神社―南郷環濠集落―大和高田駅（約10㌔）参加費300円、講師大阪成蹊女子短期大学名誉教授岡田保良氏、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽万歩ハイキング・30周年記念「万葉の道・竹内街道」　6月14日(日)雨天中止集合南大阪線磯城駅前10時10分～40分（コース）磯城駅―竹内街道―叡福寺―上ノ太子駅（約9㌔）会費無料、参加自由天王寺事業06（624）0382～3

▽あみま倶楽部親睦ハイク・花菖蒲の園を訪ねて「室生寺・津谷」6月22日(日)雨天中止集合天阪線室生口大野駅前10時20分～11時（コース）室生口大野駅（バス）室生寺―室生寺―三船神社―淡谷花しょうぶ園―三本松駅（約10㌔）会費無料、バス代拝観料入園料は別途、参加自由、名古屋事業05（933）7007

▽ウィークデーハイク・歴史街道花の道を行く・モノトーンの古寺で紫陽花を楽しむ「岩船寺」　6月26日(木)雨天中止集合奈良線近鉄奈良駅東改札前10時（コース）近鉄奈良駅―岩船寺―西小（バス）近鉄奈良駅（約5㌔）会費無料、バス代別途、参加自由、上本町事業06（775）3566

▽駅売ファミリーハイキング・親子で体験「熊野古道の農家と歴史」6月28日(日)～29日(日)雨天決行集合吉野線大和上市駅10時20分（コース）1日目・大和上市駅（バス）鷲谷―馬越峠（熊野古道）―尾鷲（バス）三重県熊野青少年自然の家（泊）2日目・自然の家（バス）紀和町鉱山資料館―小栗十一丸山千枚田―後尾（バス）ウミガメ公園（バス）花の窟（バス）大和上市駅参加費大人10000円小人8000円、定員100名（4月1日より電話受付開始）天王寺事業06（624）0382～3

阪急

▽みじゅうしんゆっくり歩こうシリーズ①「若山神社・大師道コース」　5月4日(祝)雨天中止集合若山神社境内（阪急京都線水無瀬駅からバスで若山台センター下車徒歩10分）出発10時30分（コース）若山神社―太閤道―梶原山―弊手橋―阪急高槻市駅（約10㌔一般向）阪急創遊開発部06（373）5326

▽デイリースポーツワンゲルシリーズ・あじや山まつりに参加「高滝・六甲山上コース」　5月18日(日)雨天中止集合芦屋山手幼稚園前（芦屋川駅下車スグ）出発9時（コース）芦屋山手幼稚園前―岳道―神谷道―ゴロゴロ岳―奥池（山まつり会場）―東お多福山登山口―六甲山最高峰―坂急茶屋跡―渡辺台―みよし観音―六甲山ゴルフ場―六甲ケーブル前（約13㌔中級向）阪急創遊開発部06（373）5326

▽健康とふれあいハイキング・ウォーキングトライ「六甲山上から湯の町有馬へ」　5月25日(日)雨天中止集合（中・上級）六甲ケーブル下9時30分～10時（初級）六甲ケーブル山上駅10時～10時30分（コース）（初級）六甲ケーブル山上駅―六甲山ゴルフ場―みよし観音―渡辺台―坂急茶屋跡―紅葉谷―ロープウェー有馬駅（6㌔1時間50分）（中級）六甲ケーブル下―アイスロード―前ヶ辺―六甲山ホテル―（中上級）六甲ケーブル山上駅―六甲山記念碑台―六甲山小学校―六甲山ゴルフ場―みよし観音―渡辺台―坂急茶屋跡―紅葉谷―ロープウェー有馬駅（10㌔3時間20分）（上級）六甲ケーブル下―アイスロード―前ヶ辺―シュラインロード（行者道）―長尾谷（徒歩道）―茶園谷―横谷―溝口谷―峠―溝口谷―ロープウェー有馬駅（14㌔4時間10分）参加自由、阪急創遊開発部06（373）5326

▽キャラバンスペシャル「六甲全山縦走チャレンジシリーズII」トレーニング編②「住吉川・魚屋道コース」　6月8日(日)雨天中止集合深田池公園（徒歩駅北側スグ）出発10時（コース）深田池公園―住吉川―五助ダム―本庄橋―七曲がり―一軒茶屋―魚屋道―有馬（約13㌔一般向）阪急創遊開発部06（373）5326

▽みじゅうしんゆっくり歩こうシリーズ②「上野道・摩耶山天上寺コース」　6月15日(日)雨天中止集合阪急神戸線境内（阪急六甲駅北側から市バスで複製神社前下車スグ）出発10時30分（コース）複製神社―上野道―摩耶山史跡公園―摩耶山天上寺―長峰山―六甲駅（約11㌔一般向）阪急創遊開発部06（373）5326

＊大阪急ハイキングは、いずれも参加自由・参加費無料です。

南海

▽朝日ファミリーハイキング第1

回「府戸山ハイキング」　5月10日(日)雨天中止集合南海天日駅前10時（なんば駅発9時19分橋本行き急行が便利）〈コース〉天見駅―蟹井八幡―十字峠―府戸山―賽ノ神―千早口駅（約3㌔）南海総合サービスセンター06（643）1005

▽朝日ファミリーハイキング第2回「飯盛山ハイキング」　6月14日(日)雨天中止集合南海みさき公園駅前9時30分（なんば駅発8時33分和歌山市行き急行が便利）〈コース〉みさき公園駅―飯盛山―細―別所―淡輪駅（約11㌔）南海総合サービスセンター06（643）1005

＊右南海ハイキングは参加自由・参加費無料です。

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「花の御池岳」　5月3日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）西藤原駅（バス）御池―坂登山口―コグルミ谷―御池岳―鈴北岳―鞍掛峠（バス）西藤原駅（電車）富田駅（約11㌔）予約申し込み制定員200名、バス代大人1000円小人500円参加費200円、＊5月9日(日)にも同企画を集合近鉄富田駅三岐線ホーム9時で同じコースで行います。定員は予約制150名（費用同じ）、三岐鉄道観光係0593（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の竜ヶ岳」　5月26日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―五階滝―ヨコ谷出合―中道―竜ヶ岳―ホタガ谷―宇賀渓キャンプ村（バス）大安駅（電車）富田駅（約12㌔健脚向）参加自由、参加費200円、三岐鉄道観光係0593（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「宇賀渓砂山（山沿いコース）」　6月1日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―山腹道―五階滝―長尾滝―砂山道―砂山―宇賀渓キャンプ村（バス）大安駅（電車）富田駅（約8㌔初級向）参加自由、参加費200円、三岐鉄道観光係0593（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「緑の釈迦ヶ岳」　6月8日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）朝明ヒュッテ―陸奥谷―松尾根の頭―釈迦ヶ岳―羽賀釋―朝明ヒュッテ（バス）大安駅（電車）富田駅（約11㌔）予約申し込み制定員100名、バス代大人1000円小人500円参加費200円、三岐鉄道観光係0593（64）2141

神戸電鉄

▽東播の見はらし台に立つ「鴨取道と紅山ハイク」　5月3日(祝)雨天中止集合粟生駅10時25分（コース）粟生駅―鴨取道―紅山―鴨池―大住橋―小野駅（約13㌔一般向）会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

▽北摂の山々と湖面の大パノラマ「千苅水源池と大老岳ハイク」　5月18日(日)雨天中止集合三田本町駅9時35分（コース）三田本町駅―塩田八幡宮―生野橋―千苅水源池―JR道場駅（約24㌔一般向）会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

▽5万株のあじさいが咲き誇る「森林植物園あじさいハイク」　5月18日(日)雨天中止集合谷上駅10時15分（コース）谷上駅―山田道―森林植物園（入園有料）―学習の森―再度公園―鵯塚北谷―水源池―鈴蘭台駅（約10㌔家族向）会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

京阪

▽比良連峰アタック「権現山・蓬莱山コース」　5月18日(日)雨天中止集合叡山電鉄八瀬遊園駅9時～10時（コース）八瀬遊園駅（バス）平―アラキ峠―権現山―ホッケ山―小女郎峠―蓬莱山―クロトノハゲ―天狗杉―びわ湖バレイ駐車場（バス）志賀駅（約9・5㌔健脚向）京阪電鉄事業部06（944）2525

▽比良連峰アタック「コヤマノ岳・武奈ヶ岳コース」　6月15日(日)雨天中止集合JR堅田駅9時00分（コース）堅田駅（バス）坊村―伊藤農道出合―牛コバ―大橋―金蔵出合―中峠―コヤマノ岳―武奈ヶ岳―八雲ヶ原―山上駅（ロープウェイ・リフト）山麓駅（バス）比良駅（約13㌔健脚向）京阪電鉄事業部06（944）2525

叡電

▽第6回京阪グループリレーハイク「鞍馬・天ヶ岳コース」　5月25日(日)雨天は6月1日(日)集合叡山電車鞍馬駅9時～10時（コース）鞍馬駅―婆羅天殿―三角点―三叉岳―天ヶ岳―吉井峠―扶桑橋―叡電鞍馬駅（約11㌔）会費無料、参加自由、叡山電鉄運輸部075（702）8111

▽スポニチファミリーハイク叡山シリーズ3「雲取山・貴船コース」　6月8日(日)雨天中止集合叡山電車鞍馬駅8時30分～9時30分（コース）鞍馬駅（バス）花背峠原前―寺山峠―雲取峠―雲取山―多宝天滝宮―芦生分岐―旧呼―東谷船神社―貴船（バス）叡山電車貴船口駅（約13㌔健脚向）叡山電鉄運輸部075（702）8111

山陽電車

▽山陽電車ハイキング「浜の道・浜の橋屋路ハイク」　5月11日(日)雨天中止集合林崎松江海岸駅（南0・5㌔林崎商浜公園）10時（コース）林崎商浜公園―サイクリングロード―明石駅人形博発見館―住吉神社―東二見駅（約15㌔家族向）会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「ジェームス山・鉄拐山ハイク」　5月25日(日)雨天中止集合滝の茶屋駅前（城が山公園）10時（コース）城が山公園―ジェームス山―塩屋―遠稲山―おらが山―須磨寺駅（約8㌔家族向）会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「海峡と時の道」　6月8日(日)雨天中止集合舞子駅（北約0・2㌔大蔵山遺跡）10時（コース）大蔵山遺跡公園―狩口台―那爪神社―亀の水―柿本神社―月照寺―明石公園（約7㌔家族向）会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「自然観察の森ハイク」　6月22日(日)雨天中止集合夢前川駅・夢前川河川敷10時（コース）夢前川河川敷―サイクルロード―青山―桜山貯水池―自然観察の森―青山（バス）姫路駅（約10㌔家族向）会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐登山　小日峰―大白森―甲子・羽賀釋への縦走（羽賀釋―朝明駅逆歩可）（羽賀釋と内谷

福島・二岐温泉
日観連　大和館
〒962-05
福島県西白河郡天栄村二岐温泉
電　0248-61-2121
F　0248-61-2705

秩父鉄道
東武鉄道　）クーポン券も利用できます
秩父　不動の湯
〒368
埼玉県秩父市山田2443-2
電　0494-23-1126

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ純林）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-1115

大菩薩峠の中腹
から塩船観音分岐点
個室・岩風呂あり
JR中央線四方山駅下車タクシー40分
バス20分登山口下車徒歩2時間
山小屋　福ちゃん荘
〒409-14
山梨県北巨摩郡長坂町
電（自宅）0553-33-4539
（山小屋）0551-9-9215

民宿　平ケ岳探勝と釣りの山小屋
越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと料理は
樹海
〒946
新潟県北魚沼郡
湯之谷村城の岡（湯沢山）
電　0257-79-5-2633
0257-79-3-2-0906
または　2-5026

汗をたっぷり流せる温泉と
絶ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電　0255-86-2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺め、山と海の両方が楽しめる、大佐渡縦走の拠点。昼と夜昼に酔いながら語らいはずむ
国民宿舎　大佐渡ロッジ
1泊2食付き　6800円
〒952　新潟県佐渡市椎
電　0259-27-2570

妙高の花、湯原の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉
電　0255-86-2261

せせらぎ

題字・小林玻璃三

○さん「高御堂山」の三角点標の正確な情報提供ありがとうございました（33号）。26号の発刊後すぐに熊野の狩野岡氏から葉書を頂いて、記事の間違いを承知しておりました。「地元の自治体からは、どうも正確な情報が得られない……」という事例の一つです。

三角点標を見つけ出せず長畑宅後、多田繁次氏の『緑・兵庫の山やま』で点標の所在を知ったのですが、かなり古い記事なので様子が変わっているかも知れないと、加古川市教育委員会からの情報を紹介したら間違いでした。

兵庫県発行の『ひょうご・森林浴地50選』に紹介されている法道寺渓谷の"遊歩道"は、荒廃して通行困難な状況です。丹波・白髪岳から松尾山のコースで「鹿ノ辻」から文保寺へくだる道が2万5千図に記載されていません……などなど、本誌が情報キャッチに益々役立つことを願っています。

（安田　憲弘）

3月18日、鈴鹿を歩く12「元越谷」に参加しました。渓流シューズを持っていない私は、山本さんにビニールロープで作った特製わらじを貸してもらいました。厚手の靴下の上からはいたので適度なクッションもあり、岩の感覚が足裏に程よく伝わって一度も滑らず快適に歩くことができました。でも、浅いと思って足を踏み入れたところがすごく深くて腰までドボンしたとき、思わずテレ笑い。後ろを歩く方はそれを見てなんだかうれしそう。大滝では可愛いイワタバコの花に出会いニッコリ。

お昼は「大岩」で、私は岩野さんの横の特等席。空には色とりどりのパラグライダー。岩ツバメも目の前を行ったり来たり。帰りはしっかりした鈴鹿靴を足どりも軽く歩けました。林道に出てからは長い休憩、みんな輪になって会話が弾みます。無事歩き終えた安堵感が深いとっても和やかでした。

（小田　妙子）

突然の体調不良、どうも風邪をひいたらしい。みんなを誘って「樹氷の金剛山」への山行きを計画していた。ゆっくり樹氷を見ながら登って、頂上の景色の良いところで雪見酒を楽しむ予定でいた。楽しみにしていればいるだけ逆に体調は悪くなるもの。とうとうギブアップして、ベッランの田中さんにリーダーをお願いし、そのまま寝込んでしまった。

これはちょうど一年前、大年の2月4日の話。

今年は正月4日から北横の「武奈ヶ岳」、12日は斯ハイ「三上山」から「夏山」に参加するなど体調万全。しかしうまくいかないもので今度は田中さんが昨年の11月初め電気のコードに足を取られ、膝を痛めてしまった。毎年必ず参加する「八回金山縦走」も不参加。ひたすら樹氷を自然に治癒を続けたが結局間に合わなかった。

そう言うわけで今年は私がリーダーの「樹氷の金剛山」行きとなった。

2月3日(日)、快晴で気温は下がらなかったが、頂上付近は見事な樹氷。特に初めて参加した人は地上とは別世界の体験に「涙が出るほど感激した」と何度も何度も繰り返し大感激していた。これで山のファンがまた一人増えたと思う。

何か良いことをした感じで、去年のお返しもでき、すっきりとした気分で下山することができた。帰り道は雪になって、バスに乗った頃に変わった。

河内長野駅よりバスで登山口、黒滝谷道よりケトを経て金剛山頂。帰りは公園駅よりロープウェイ前駐車場へ、駐車場よりバスで河内長野駅。

（矢野　晃）

岐阜県揖斐郡の生活環境保全林「みたけの森」は、野草の比較的豊かな往時の面影を残した雑木林として、この辺りではなかなか魅力的な森でしたが、「花の都づくり」というような行政遂行やゴルフ場開発の余波を受けてか、樹木の伐採が続きすっかり変わり果てた姿になってしまいました。森の入り口付近の小山は自然林が皆伐され、ソメイヨシノが植栽されていました。全山を「さくらの山」にするそうなのです。

私の暮らす各務原市にも「うぬまの森」という生活環境保全林がありますが、その森の修復工事中、自生のマンサクやコバノミツバツツジの木を根こそぎなぎ倒した後、何と改めてマンサクやコバノミツバツツジの成木を植樹するという信じられない出来事がありました。

こうした「事件」は、県下の各地で起こり、いくつか報告されています。

イチイは岐阜県の県木で、飛騨山間部でも自生のものは少なくなっていますが、高山市内の街路樹に、ずらりにわたるイチイの並木がありました。ところが、そのイチイの並木がある日しっかり姿を消して、ヤマボウシの開花花木に置き換えられてしまいました。

春に新緑、秋に紅葉、緑も日本的な冷温帯の豆緑広葉樹林に囲まれた平湯温泉は、周辺一帯が自然林に恵まれた境域ですが、平湯トンネルから温泉街に至る道路沿いに、年中赤く色づいたノムラカエデ（関若山種）がずらりと植えられています。また、百根広葉樹林の原生林を巡る自然探勝路の出入り口の道路脇には、花の時期になるとサルビア・マリーゴールドの園芸花が植栽されるそうです。

北アルプス飛騨山の登山基地である新穂高温泉のバス停を後に、林道を歩き始めると「我が国を代表する傑出した自然風景地」である中部山岳国立公園区域内まで、チューリップ・マツバボタン・サルビア・マリーゴールドの「花壇」が作られています。

果ては、乗鞍岳山頂付近のスカイライン道路脇のハイマツ群に、ラッパスイセンの花が咲いていたことがあるとのこと。乗鞍スカイライン管理事務所の職員が植えたとのことでした。

これらの「事件」に遭遇すると、自然そのものの美しさやすばらしさを知らない人があまりに多いのでは、と腹塞がれる思いがします。

休館昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
桔梗館
〒250-06 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1-39
電 0460-4-9041

「伊豆の踊り子」の舞台、レトロな浴場下に河津川の清流
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
ご指導の方に当地（天城七）ハイキングコース案内書を差し上げます
〒413-05
静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野93
電 0558-35-7225

四季織りなす高原高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき通りと味の宿・日組迎
温泉旅館 けやき山荘
〒390-15
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 02633-93-2555

さわやか信州
霧天風呂 山吹の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
電 02269-33-3578

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒386-4
長野県小諸市高峰高原
電 0267-25-2000

日本最高位の温泉（2400m）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先 〒930-14
富山県上新川郡大山町芦峅寺3-47
電 0764-82-1831
4/9～11/25は現地へ
電 0764-65-4565

ハイキングに／スキーに／
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯駅平坂下車
電 0269-34-2221
東京本社・東京都新宿区新宿2-20-15（新建第2ビル）㈱スポーツサービス
電 03-3341-0211

塩の道 千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261-72-4452

長野県の伊那谷自然友の会が出版した書物のあとがきの中で、都会に住む人は、伊那谷に暮らす人間のことを自然の恩恵に浴し、心豊かな生活を送っているものと考えているようだが、決してそうとは言えない。例えば、学校の校舎の窓ガラスに激突して死んだシジュウカラの死骸を見た中学生たちが今までに見たこともない美しい鳥だ、きっと外国の鳥が迷い込んだのだろうと、騒いでいることがあった。彼らはキンバルクイナのことならよく知っているのに……と慨嘆し、自然の恩恵を受けるためには自然を知り、自然を学ぶことが必要だと強調していました。

どんなに自然が豊かであっても、景色を眺めながら過ぎ過ぎるだけで自然の中に息づく生き物たちの暮らしを学ぶことがなければ、自然の中で本当の充実感を味わうことはできないのだと思います。

（鷲見　守成）

昨春わが子は立命館大学へ入学した。それまでは低山ハイキングや史跡めぐりに、父子連れでよく歩いた。大学に進んでからはさすがに親離れをして一緒に行動することがなくなった。

子と共に歩いた日の情景を思いだす時、現在の子の成長を嬉しい気持ちの反面、さみしくも感じている。いつの日か再びフィールドのどこかで、また一緒に肩を並べてみたいと思うきょうこの頃である。

「父子遊歩作品抄」

2年8月　六甲山行
ビーナス橋を越え行く父子肩軽し
　蟬鳴き度の青集め来て

3年4月　近江路行
醒ヶ井回石山と道は迷なりて
　励まし行けば湖に陽が沈む

4年4月　熊野路行
那智熊野道かなる未知めぐるため
　南風に乗り辰立つ家族

5年4月　飛鳥路行
現代の悲歌をかなでる多武峰の
　明日香に吹くは千年の風よ

6年8月　和歌山行
恍惚のマリナシティの隠に染まる
　君が生まれた季節から便り

7年4月　瀬原辺行
都消ゆる地にそびえる大和三山
　目に見えぬ神よりの贈り物

（木村　太郎）

1月19日、内田嘉弘著『京都滋賀南部の山』を片手に、山城の高雄山に登った。

青分梅林バス停を起点に、松尾林道コースを試みたが、ルートが分からなかった。やむを得ず「ヴィラ城陽」のすぐ先の橋を渡って右へ川沿いの細ヶ谷林道に入った。

林道が山道になり、さらにその先では崩落箇所や倒木が多くて非常に歩きづらかった。沢沿いに道らしきを拾いながら強引に北方向に進むと、やっとのことで、稜線上の幅広い「生道」に出た。このコースは、同書P72にある細ヶ谷コースと思われるが、組部では一致しないところがあった。

「生道」を左（東方向）へ進むと、道が三方向に分岐する。中央の高みへ登る道をとった。右下への道は、奥谷川沿いの林道に通じる。

山頂近くで、右へ山腹を巻くはぼ水平のあまり歩かれていない道をとったが、すぐ先の小枝にテープのつけてあるところを右へ登ってもよかったのかもしれない。

しばらく歩いてから、左への急坂の道を登った。左から上がってくる道を合わせたすぐ先で赤テープがつけてあり、右への急坂をとった。次に白テープを見ながらやぶをかき分けて進むとすぐ山頂に到着した。

高雄山と表示した木札が二つあったので確認できたが、もしなかったら、どの山なのか分からなかったと思う。

「紀路は肉体的というより精神的疲労のため、青谷へくだる道をとる気になれず、「生道」をのんびりと多賀にくだった。

（吉條　孝次）

新しい年が始まって間もない1月27日、「氷ノ山に登った5人のパーティ下山せず」のショッキングなニュースが飛び込む。

私の思い入れの山歴だけに、気にかかり、情報と資料を集め検証を試みた。下山できない理由は、登山者のみが知り得るので、種々に言は慎むべきと考得る。

検討の対象としたのは、計画書に書かれている内容（登山ルート・装備・メンバー・食料）、天候、当日の経過、捜索隊の報告等を組み立ててみました。

詳しくは別の機会に譲るとし、今回の遭難は、風雪注意報が出ていた最中の登山で（他のパーティも吹雪で視界が悪かったと証言している）方向性を失ったのが遭難につながったと考えられる。

冬の氷ノ山の山頂付近は樹林がないので、白銀の世界となり、吹雪かれるとホワイトアウトに遭い、自然の怖さを思い知らされる山域に一変する。ベテランであっても細心の注意が必要であったと思う。気軽に出かける山域だけに、冬山の怖さを改めて思い知らされた今回のニュースであった。

登山者が一刻も早く下山されることを祈るばかりである。

（須磨岡　耕）

二月山行概告

2日「やまと地形図の会」例会案内。匹の森～1△金剛山へ。33名。

5日「点のつどい」例会下見。Ⅲ△篠ヶ谷（2万5千「高見山」）

9日「関西地図の会」例会案内。多武峰～三神～1△吉門岳。56名。

11日「点のつどい」例会案内。Ⅲ△篠ヶ谷。27名

14日　伏見公民館「冬水ツアー」案内。1△三頭山へ。参加31名。

17日「大和漫歩会」101回例会案内。杉谷～小峠～Ⅱ△高見山～平野。第4度。強風。極水良好。30名。

19日「大和水紀行」下見。天ヶ滝（五條市）と銀井の源水（御所市）

24日　Ⅲ△篠ヶ谷（2万5千「生駒山」）盤石のみ。計356名。91%。

26日「大和水紀行」案内。参加34名。

（上田　博弘）

雪の藤原岳に登ったのは小学校6年生の卒業記念で行ったのが初めです。九合目から八合目にかけて尻セードで滑ったことを懐かしく思いだします。寒先から夏にかけては十手の蕗むらを滑って遊ぶこともありましたので、滑り慣れていたのか、初めてにしては雪の上手に滑れたと思います。

最近、3年前から天いに雪の上で滑ることを楽しんでおります。3月9日の新ハイキング山行で、藤原岳の山頂小屋近くから全く障害物のない1015m幅の広大のスロープを完璧にして200m滑るというダイナミックな体験をさせてもらえました。筒井氏の名づけによれば「藤原スカイウェイ」。眺からもよく見える白いラインです。もうすぐ雪とも別れですので、安全な所を滑って雪の山を楽しみたいものです。（山田　明男）

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村八方和田野
電　0261-72-5251

登山歴30年のオーナーが雪倉～針の木岳、雨飾山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き　6500円から
〒399-83
長野県北安曇郡白馬村3ちくら
電　0261-72-2151

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成今傳鍋
水の香り新鮮生水豊富
オーレン小屋
1泊2食付き　5300円
4月末～11月末開設
〒391-02
茅野市湯平2720　小平浩夫
電　0266-72-2279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ッ行登山口まで送迎します。
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-03
茅野市北山蓼科高原笹丸平55
13の1
電　0266-67-2255

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
橋村ヶ所女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-04
奈良県吉野郡大川村洞
電　07476-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09374-6-3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
朝明渓谷　あさけ茶屋
〒510-12
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1788

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・20行程度にお書きください。
新ハイキング関西編集室

山行計画
（5・6月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。宅話・FAXでの申し込みはお断わりします。「費用」のほかに参加者負担その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。

体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出して頂きます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金 日額	5000円
通院保険金 日額	2500円

保険の対象は禁酒時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④各旧等所内の事故（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行申込み書

山行名

期日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

生年月日

緊急時の連絡先

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

平日木曜ハイク30
北山・シャクナゲ尾根から天ヶ岳
（一般向き）

期日 5月8日(木) 日帰り
集合 京都坐下鉄北大路駅⑤番出口東（堀内案内の前）
京都バスのもば7時50分
コース 北大路駅（バス）小出石
—シャクナゲ尾根—天ヶ岳—三又谷—蓮王坂—鞍馬駅（解散）
費用 約2000円（交通費）
地図 昭文社「47京都北山」
係 ③藤田光彦 ○前中 毅
申込み 〒610—01城陽市寺田大昼10の10 新ハイキング関西まで

シャクナゲ尾根は登り坂が続きます。尾根一帯にシャクナゲの咲き競う花の時季は、北山歩きの特選コースです。雨天中止

三重の山33
台高・高見山
（中級向き）

期日 5月10日(土) 日帰り
集合 近鉄高見山駅前町役場・飯高道の駅駐車場9時30分
コース 道の駅駐車場（車）舟戸—日伊参詣街道—高見峠—高見山（往復）—舟戸
費用 150円（交通費各自）
地図 2万5千＝高見山・大豆生・菅野
係 ③長崎英五 ○稲垣邦夫
申込み 〒519—03鈴鹿市大久保町2055稲垣まで
＊マイカー山行

新緑の高見山へ登ります。雨天決行

ハイキング入門4
丹波・半国山（初心者のための）

期日 5月11日(日) 日帰り
集合 JR亀岡駅京都バスのりば9時10分（9時15分発園部行きに乗車）
コース 亀岡駅（バス）赤熊—音水渓谷—半国山—金輪寺—宮川（バス）亀岡駅（解散）
費用 約1500円（京都から）
資料代実費要
地図 不要（当日係が用意します）
係 ③西沢広二 ○渡辺次男
申込み 〒610—01城陽市寺田大昼10の10 新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）

これから山歩きを始める人のための野外講座です。山歩きの基礎をお教えします。筆記用具持参のこと。雨天中止

宇治・天ヶ瀬ダムからくつわ池
（初級向き）

期日 5月11日(日) 日帰り
集合 京阪宇治駅前9時30分
コース 宇治駅—天ヶ瀬ダム—△366.6・543—くつわ池—東海自然歩道—白山神社—紅葉谷—宇治平等院
費用 約1000円（京都から）
地図 2万5千＝宇治
係 ③村田智俊 ○吳長裕美
申込み 〒610—01城陽市寺田大昼10の10 村田まで

宇治市の里山を歩いてくつわ池でくつろぎます。小雨決行

鈴鹿を歩く28
カクレグラ・ダイジョウ
（健脚向き）

期日 5月11日(日) 日帰り
集合 フジキリ谷旧林道入口8時30分
コース フジキリ谷林道—向平—カクレグラ—ダイジョウ—アケビダン—桜地蔵—旧林道入口（解散）
費用 交通費各自
地図 2万5千＝日野東部・御在所山
係 ③岩野 明 ○山本久雄
申込み 〒610—01城陽市寺田大昼10の10 新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

フジキリ谷からカクレグラへ登り、稜線をダイジョウまでたどりアケビダンにくだる。秘境のような深い谷が続く（22号・51ページ参照）。雨天中止

湖東・奥島山
（初級向き）

期日 5月17日(日) 日帰り
集合 JR近江八幡駅9時30分（9時40分発長命寺行きバスに乗車）
コース 近江八幡駅（バス）長命寺バス停—長命寺山—奥島山—渡会分岐—渡会バス停
費用 約2000円（大阪から）
地図 2万5千＝沙島・近江八幡
係 ③妻鹿弘子
申込み 〒610—01城陽市寺田大昼10の10 新ハイキング関西まで

琵琶湖と比良を望むのんびりハイクです。時期があればツツジ満開の八幡公園へ寄り道もそえています。雨天中止

茨木・蓬莱峡山（やや健脚向き）

期日 5月18日(日) 日帰り
集合 岐阜県揖斐郡坂内村役場駐車場（国道303号線

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内に順目が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記號のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース
（初級向）どなたでも歩けます
（一般向）ハイキングの標準コース
（中級向）かなり経験者のコース
（やや健脚向）（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

沿い）8時
コース　坂内村役場（車）大谷川林道西俣出合―林道終点小広場―鈴麦粒山（往復）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝美濃広瀬　5万＝粟倉
係　◎鷲見守康
申込み　〒504岐阜県各務原市森新町1の19の5　鷲見まで
＊マイカー山行

奥美濃の山の中では山容、眺望とも第一級で、金山をシャクナゲがおおい、険しい頂上に数多くの無名滝をかける鈴麦粒山。多少やぶこきあり（本誌27ページ参照）。雨天中止

花の子ルンルン2

鈴鹿・土倉岳から下バック尾根（健脚向き）

期日　5月18日(日)　日帰り
集合　御池川林道・小又谷出合広場8時30分
コース　出合広場―土倉岳―御池岳奥の平―ブナ植現平―下バック西尾根―ゴロ谷出合―出合平坦（解散）
費用　交通費各自
地図　5万＝彦根東部・御在所山
係　◎尾井克治　○木村吉秀
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

ヤマシャクヤク・シャクナゲの花を見て、ブナ林の尾根を歩きます。雨天中止

京都北山歩き52

高瀬谷池から高雄（一般向き）

期日　5月18日(日)　日帰り
集合　峰峯野・大覚寺前バス停10時
コース　大覚寺―宝筐院―高瀬谷池―高雄―神護寺下―観空寺前―大覚寺バス停
費用　約500円（京都から）
地図　昭文社＝「47京都北山1」
係　◎今西光男
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

新緑の高雄周辺をのんびり歩きます。雨天中止

高野・弁天岳から奥の院（女人道）

（一般向き）

期日　5月18日(日)　日帰り
集合　南海高野線極楽橋駅改札口9時40分（飯盛駅発8時40分行き）
コース　極楽橋駅―不動坂女人堂―弁天岳―入門―杉ノ洞女人堂跡―946㍍ピーク―大滝口女人堂跡―大峰口女人堂跡―中ノ橋―奥の院バス停（解散）―高野山駅
費用　約3000円（難波から）
地図　2万5千＝高野山
係　◎森村敏治
申込み　〒643橋本市城山台2の39の7　奥村まで

不動坂から弁天岳と女人道へ。新緑に包まれ森林浴と山上の散策を楽しみましょう。小雨決行

平日ふれあいハイク2

北山・雲取山（一般向き）

期日　5月20日(火)　日帰り
集合　京阪出町柳駅京都バスのれば7時40分
コース　出町柳駅（バス）花背高原―寺山峠―雲取峠―雲取山―二ノ谷―芹生峠―貴船―鞍馬貴船口駅（解散）
費用　約1500円（バス代）
地図　昭文社＝「47京都北山1」
係　◎川上久堅
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

北山の代表的な山のひとつ雲取山と芹生の里を歩きます。雨天中止

鈴鹿を歩く20

静ヶ岳とセキオノコバ（健脚向き）

期日　5月25日(日)　日帰り
集合　茶屋川林道・近戸トンネル手前焼野のヘリポート8時30分
コース　ヘリポート（車）丈治谷手前広場―芦原ピーク―1047㍍―静ヶ岳―セキオノコバ―静ヶ岳―西尾根の滝―茶屋川林道―ヘリポート（解散）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎辻野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

茶屋川林道から尾根に取りつき静ヶ岳・セキオノコバへ。西尾根をくだる。鈴鹿の樹林のすばらしさを堪能します（32号・53ページ参照）。雨天中止

平日水曜ハイク9

北摂・箕面山から妙見山（一般向き）

期日　5月28日(水)　日帰り
集合　能勢電鉄妙見口駅9時20分
コース　妙見口駅（バス）歌垣山―歌垣山―剣尾峰―妙見奥の院―野間大原―本流寺―妙見山―妙見口駅（解散16時頃）
費用　約1500円（大阪から）
地図　昭文社＝「50北摂の山々」
係　◎浜浅次男　○藤田　昇
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員40名（会員に限る）

上代から登られていた歴史のある歌垣山から剣尾峰を妙見山まで、少しロングコースですが縦走します。コースはよく整備されています。小雨決行

大峰・唐笠山から行者山

（中級向き）

期日　6月1日(日)　日帰り
集合　マイカーの人は国道168号線大塔村ふるさと会館バス停付近10時30分　同乗希望者は近鉄御所駅前5時50分（3時出発）
コース　ふるさと村（車）坂本―大塔村近畿電電前登山口―緑野集落―送電鉄塔―主稜線―唐笠山―行者山―小代集落―坂本（解散16時頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝南日裏・狼谷
係　貯水池
申込み　昭文社＝「56大峰山脈」
◎深本勇作　〒545大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7　福本まで
定員25名（会員に限る）

地元ではトガサンの山名で呼ばれており、かつてはシメジの宝庫といわれていた。雨天の場合は大雨でなければ修学美地予定の「下辻山」「伯母子岳」の登山口・下降点等ドライブを兼ね案内します。雨天決行

＊マイカーは5人乗り8台希望。同乗希望者はその旨申し込みハガキに必ず明記ください。

平日木曜ハイク31

比良・武奈ヶ岳北稜（やや健脚向き）

期日　6月5日(木)　日帰り
集合　JR堅田駅前8時10分
コース　堅田（バス）坊村―御殿山―ワサビ峠―武奈ヶ岳―釣鐘岳―地蔵山―ヨコタ峠―畑（バス）近江高島（解散）
費用　約2500円（バス代）
地図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎藤田光彦　○前中　毅
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

坊村から御殿山まで急登ですが時間をかけて登ります。武奈ヶ岳からの北稜縦走は比良山系では一級のコースです。雨天中止

奥美濃・粟倉と鷲倉

（中級向き）

期日　6月7日(日)～8日(日)　1泊2日
集合　京都駅八条西口近鉄改札前付近7時30分（7日）京都駅（バス）根尾村姥見（バス）東板屋の登山口―岩倉（往復）―樽見の旅館（泊）（8日）旅館（バス）八谷の登山口―下洞谷出合―鉄橋―林道出合―鷲倉―林道―八谷（バス）うすずみ温泉（入浴休憩・バス）京都駅（解散19時頃）
費用　約20000円（バス代・宿泊代・入湯代）当日
地図　2万5千＝谷合・樽見　5万＝谷汲
旅館　（樽見）住吉屋旅館
係　◎村田智俊　○加藤元彦
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　村田まで
定員35名（会員に限る）

静かな奥美濃のやぶ山（二日）に初夏のたを訪ねます。二日共展望は抜群。雨天決行

地図読み山行22

北摂・高岳（一般向き）

（新ハイ関西支部合同）
期日　6月8日(日)　日帰り
集合　能勢電鉄日生中央駅9時

10分
コース　日生中央駅（バス）松尾二－猪名川森林学校－猪名川不動尊－高原－中山峠分坂－山田－森上（バス）日生中央駅（解散）
費　用　約2000円（大阪から）
地　図　2万5千＝木津・妙見山
係　◎塩元一郎　○中村　登
申込み　〒536大阪市城東区関目4の14の9の901　塩元まで
定員30名（締切り5月31日まで）
山頂近くの土塁からは北摂の全部の山を見ることができます。指定の2万5千の地形図とシルバー型コンパスを持参のこと。雨天中止

ハイキング入門5
奈良・松尾山（初心者のための）
期　日　5月8日(日)　日帰り
集　合　JR王子駅奈良交通バス（法隆寺行き）のりば9時35分
コース　王子駅（バス）法隆寺・中宮寺－松尾寺－松尾山－矢田山－東明寺－矢田寺（バス）近鉄郡山駅（解散）
費　用　約1000円（大阪から）資料代実費要
地　図　不要（当日説明します）
係　◎西沢武二　○後藤次男
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）
これから山歩きを始める人のための野外講座です。山歩きの基礎をお教えします。筆記用具持参のこと。雨天中止

鈴鹿を歩く30
日本コバ・岩屋・釣ノ穴（健脚向き）
期　日　6月8日(日)　日帰り
集　合　日本コバ登山口如来堂8時30分
コース　如来堂－南東尾根838m－釣ノ穴－日本コバ－岩屋－如来堂（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝百済寺
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

如来堂から尾根に取りつき日本コバに登り、岩屋と釣ノ穴を案内してくだ（39号・54ページ参照）。雨天中止

遠来ハイク2
リトル比良（中級向き）
期　日　6月14日(日)　日帰り
集　合　JR湖西線近江高島駅9時
コース　近江高島駅－高島－ホーム岩－岩阿砂峠山－鵜川越－栗風峠－原峠－清見台－JR北小松駅（解散）
費　用　約3000円（大阪から）
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎鈴野東彦
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
琵琶湖や奥比良を見渡せる展望と、ガン場・露出した奇岩などが楽しめる少し長い場のコースです。小雨決行

自然観察山行1
湖北・赤坂山（一般向き）
期　日　6月15日(日)　日帰り
集　合　JR湖西線マキノ駅8時30分
コース　マキノ駅（タクシー）マキノスキー場－栗柄越－赤坂山－明王方発（往復）
タクシーが渡河峠まで入れる場合は、峠－三国山－明王方発－赤坂山－栗柄越－マキノスキー場と周遊します。
費　用　タクシー代約1000円（国道のときは約3000円）
地　図　2万5千＝鯖口・海津
5万＝饗賀・竹生島
係　◎鷲見守康
申込み　〒504岐阜県美濃原市蓑原村南町1の19の5　鷲見まで
定員15名（会員に限る）
花のすてきな赤坂山を植物観察を主に講師します。マイカー参加の方は、その旨お知らせください。小雨決行

文学歴史散歩36
鼓滝山・香具山・耳成山（一般向き）
期　日　6月15日(日)　日帰り
集　合　近鉄南大阪線橿原神宮前駅西口前9時
コース　橿原神宮前駅－久米寺－橿原神宮－イトクノモリ－古墳・若桜宮址－鼓滝山－畝傍山口神社－神武天皇陵－本薬師寺－香具山－森嶋寺跡－耳成山－耳成駅（解散）
費　用　約1500円（近鉄阿倍野橋駅起点・交通費）
地　図　2万5千＝畝傍山
係　◎松永武一
申込み　〒550松原市岡2の22　松永まで
古代史や万葉の旅の出発点の畝傍山とその周辺地域をのんびりと歩きながら、香具山から耳成山へと足をのばす（本誌36ページ参照）。雨天決行

京都北山歩き53
桂山から沢山（一般向き）
期　日　6月15日(日)　日帰り
集　合　嵐ヶ峰・源光庵前バス停9時30分
コース　源光庵前－千束－桂山－沢山－沢池－白砂山－三宝寺－福王子バス停
費　用　約500円（京都から）
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎今西光男
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
嵐ヶ峰から桂山を歩きます。沢池に山上の大池です（33号・39ページ参照）。雨天中止

鈴鹿を歩く31
天狗堂（やや健脚向き）
期　日　6月22日(日)　日帰り
集　合　君ヶ畑小学校手前駐車場9時30分
コース　君ヶ畑－ヤブ－天狗堂（往復）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝鈴ヶ岳
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

若ヶ畑の北にそびえる富士山形の鈴峰・天狗堂に登ります（24号・54ページ参照）。雨天中止

比良の森を歩く
奥ノ深谷から大御堂へ（一般向き）
期　日　6月22日(日)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスターミナル8時
コース　出町柳駅（バス）坊村－牛コバ－大橋－八雲ヶ原－イブルキのコバ－アカサカ道－大御堂－ガリバ－青少年旅行村（バス）JR近江高島駅（解散）
費　用　約3000円（交通費）
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎村田智敏
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　村田まで
森林に包まれた涼しい谷筋道を歩きます。雨天決行

京山に向けてのトレーニング
鈴鹿・銚子ノ口から銚子（健脚向き）
期　日　6月29日(日)　日帰り
集　合　朝明渓谷ヒッチ前駐車場7時
コース　朝明渓谷－山峠－お金明神・銚子ノ口－深谷山－銚子ヶ－イブネ－杉峠－椿ノ平峠－朝明渓谷（解散）
費　用　交通費各自
地　図　5万＝御在所山
係　◎青井克治　○大村吉秀
申込み　〒610－01城陽市寺田大鼻10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

ひたすら歩きます。流れる汗に爽やかな風と夏鳥のさえずり、そして花々が慰めてくれるでしょう。雨天中止

新ハイ特別企画

シルクロード（パミール高原）探訪（一般向き）
期　日　9月12日(金)～22日(日)　10泊11日
コース　成田－北京（泊）－烏魯木斉（泊）－天池観光－大東溝景観－烏魯木斉（泊）－吐魯番（泊）－哈什（2泊）－カシュガル湖（泊）－タシュクルガン（泊）－烏魯木斉（泊）－北京（泊）－成田
費　用　約35万8千円（予価）
申込み　〒380大阪市西区靭町4の87の1　商社社員（係）まで。6月30日までに
9月19日のパキスタン国境越えでは7000m台クラスの山々のすばらしい景観と大東溝景観の広大な景色を堪能できるでしょう。
9月21日北京では万里の長城などの見学をします。

山行報告
（1・2月）
第ハイキングクラブ(関西)

南山城・三上山から長山

1月12日(日) 晴れ
JR加茂駅9・40(集合) 9・55—海住山寺10・40～50—三上山12・00(昼食) 12・50—大正池14・00～10—長山15・00～10—宇治田原山の神15・45～16・00—郷ノ口バス停16・30(バス) JR宇治駅・京阪宇治駅17・00(解散)

山道や林道を交互に長い道のりを辛抱強く歩いた。年始めに干支にちなんだ山に登り爽快な気分を味わった。

（参加者）小田潤子　川端敏子　森本正雄　伊藤好子　小林正幸　芝野泰明　高岡三男　菅原清久　菅原昭子　中村静香　松下　武　小堂　学　稲田節子　久保田英次　西村泰治　奥　良男　安田文美江　今西宗男　中川光郎　田中喜美江　田中　誠　向田　豊　草野富雄子　稲本芳雄　青木一雄　宮村孝次郎　加藤　孝　加藤信子　水口紀美代　秋山　誠　上坂延長　川端恵美子　原田政子　原田裕実　岡崎定夫　水田千加　城月満幸　上田すみれ　宮村信夫　高木　晋　高木美津子　中田茂子　巻嶋弘子　角田吉夫　角田郁子　竹田美美　杉村安代　三浦弘幸　矢野　晃　山崎多恵子　林　勝子　狩野東彦　井林志奈子　吉原清夫　岩城豊子　山本千鶴子　福本勇作　河井典子　中路加代子　奥村生子　永井哲男　伊秋一郎　塩谷静子　山口岩夫　倉元ミツエ　木村静雄　林　定男　林　けい子　松田野市　前田啟雄　濱渕次男　北尾信夜　市川智子　岡崎なか乃　夫野満子　矢倉ひろ　井藤正昭　高橋光子　佐田次男　佐藤清雄子　島田光代　森岡　清　森島紀美代　松本春代　牧　泰子　高橋峰子　中坊智代　冨盛雅子　光川二美子　入江武史　堀　久子　藤林包子　竹内康雄　竹内千穂　堅田美奈子　軍宮和幸　重藤静子　北川昌子　内田基茂　亜井昌子　鎌田キクエ　上田重子　秋田補佑　○真比裕美　○安倉正勝　◎村田智俊　（計106名）

文三ハゲから縞向山・水無山

（鈴鹿を歩く20）

1月12日(日) 晴れ
熊野8・50—熊野の滝9・25—林道終点9・45—文三ハゲ10・25—水無尾根10・50—縞向山11・40(昼食)12・40—水無山南峰13・40—熊野14・50(解散)

冬枯れの雪山登山日和。熊野の滝に立ち寄り、雪の文三ハゲから縞向山に直登。山頂は大展望と樹氷の花におおわれていた。昼食後ゆっくりと敢行がてらすばらしい樹氷を満喫した。

（参加者）山形　明　小林　稔　大石勝美　吉原　務　近藤美夫　奥田卓男　鈴木　晴　奥井幸生　山田晨三　河辺坂男　成澤　茂　林原寿生　谷　久雄　畠田真理子　小田妙子　馬場宏美　小林　実　田中隆男　○山本久雄　◎吉野　明　（計20名）

桜敷ヶ岳

（京都北山歩き48）

1月15日(日) 曇り時々晴れ
京都北大路駅バス停8・50(バス)岩屋橋9・25～40—西谷—稜線10・35～45—鉄塔下11・50(昼食)12・50—桜敷ヶ岳13・10—鉄塔下13・20—祖父谷林道13・45～14・00—岩屋橋15・00～50(バス・車内解散) 北大路駅16・30

登山口の岩屋橋には雪は無かったが、桜敷ヶ岳の山頂付近は約50㌢の積雪だった。

（参加者）本岡俊次　石原利子　堀田　實　川端敏子　藤村勝彦　森川信之　上田正子　三井紘一　藤井英子　小林　昇　加藤佳彦　稲本芳雄　中川光郎　井林志奈子　今西宗男　三宅　明　森澤元博　森澤浩子　川上久堅　奥田自雄　金森勇子　大橋完造　井川敏一　井川勝子　武部　剛　武部美美子　鈴木吉和　狩野東彦　吉原清夫　高岡隆子　高橋爽治　高橋由紀子　宮角孝善　家入雅光　家入雅子　吳山鑒三　池田　厳　御田信子　入江武史　由田郁代　小林　桂　林　弘敏　黒河内東洋明　西上利和　城月満幸　平　幸子　石川孝子　古川裕子　山口恵美子　坂根敏夫　中村隆一　柴田恵美子　足野正弘　堀　久子　堅田美奈子　大音晩枝子　○則定保夫　◎中西信行　（計58名）

美濃・石津御岳から多度山

1月19日(日) 晴れのち曇り
JR大垣駅8・30(電車)近鉄石津駅10・00～15—石津御岳登山口10・30—七合目11・30—石津御岳

山頂12・00(昼食) 12・45—多度山15・00—多度山登山口16・00(解散)

東は木曽三川の流れる広大な伊勢平野とはるかな乗鞍岳・御岳・中央アルプス・恵那山、西には鈴鹿の峰々を望みながら、イヌツゲの高木など豊かな常緑樹の林の尾根を歩きました。

（参加者）前川久枝　真田明子　池田繁美　呉比裕美　田中禮子　渡辺俊一　稲本芳雄　森　美香子　河部郁彦　三井紘一　伊藤則男　朝倉利己　脇田紀洋　宮村信夫　◎後藤守康　（計15名）

大和高取山から岩橋山へ

（文学歴史散歩34）

1月19日(日) 晴れ
近鉄御所駅9・09発(バス)葛城山ロープウェイ前9・30—葛城ノ滝9・43～48—行者ノ滝10・05～10—葛城山頂11・20(昼食)12・15—時尾寺13・25～35—岩橋峠14・15～25—平石峠15・00～10—芭蕉翁雪塚—近鉄壱城駅16・40(解散)

雪を期待した葛城山だったが雑雪はざこ。山頂付近の登山道は凍っていた。きれいなトイレと売店の焼き芋が印象的だった。

（参加者）本岡俊次　吉植　清　西田一夫　森川信之　吉植ミチコ　大田良子　内田康子　伊仲富美子　奥野静子　白張清子　辻　行子　松山浩二　宮田久子　千葉千枝子　川中　保　青木一雄　松井徳永　近藤　恭　河井悦子　田辺弘子　前田政雄　立川郁夫　川上久堅　木島清子　三木良子　水木美登里　岡田真介　高橋　寛　鯉森才治郎　武　憲雄　北川治光　武田利雄　○奥村義治　◎松永惠一　（計44名）

淡路島・伊勢ヶ森

1月19日(日) 晴れのち曇り
JR明石駅9・03(集合) 明石港9・25(船)(高速艇)(バス)育波10・17—キャンプ場12・20—山頂12・40—キャンプ場12・45(昼食)13・35—高島港15・10(船)明石港15・00(解散)

良い天気に亜まれたがやぶこぎにも亜まれ、道を見失い崖を登るはめになってしまった。そのため野鳥断層に同れず残念でした。

（参加者）川端敏子　岡田恵美子　小田潤子　伊藤好子　中村静香　森村勝彦　今村　眞　前田孝一　芝野泰明　野口　修　野口志津子　村上春代　船越利明　船越みよ子　前田幸子　木寺義雄　木寺真子　藤岡雅子　藤井健造　川端恵美子　人見正信　西田美津子　岡田春美　石田賢一　石田芳弘　岩本いすゞ　森岡直嗣　堀　久子　久保田頂一　吉井雄子　明神感行　明神世津子　美村茅治　栗岡克子　安田文美江　佐田次男　福井清之　高月ミツヨ　菊池すみ子　岡田千恵子　○今津信司　○岡田　昇　○須藤岡　細　◎井上　栄　（計44名）

八ツ島山・高取山

（鈴鹿を歩く21）

夏秋号・新発売！
登山・ハイキング
バス時刻表
近畿版 97夏秋号 4月発売
JR用時刻表には掲載のない路線も多数収録
登山道に通じる停留所をピックアップ
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です
三重・滋賀・奈良・和歌山・岐阜・京都・大阪・兵庫の2府6県をカバー
関東版 97夏秋号 4月末発売
東京・埼玉・神奈川・静岡東部・山梨・栃木西部・群馬・長野・茨城を収録！
「関東版」「近畿版」ともに書店や有名スポーツ店で発売！
ご注文の際は商品名か近畿版かをご指示下さい
関東版・近畿版とも 86判 定価1200円(税込)
書苑新社 tel.03-5285-7445

1月26日(日) 曇り時々雪
大滝神社9・05—林道終点11・40—八ッ尾山12・30(昼食) 13・10—林道13・30—登山口13・40—林道14・10—大滝神社15・10(解散)
20～30㎝の大雪のため登りに倍近い時間がかかったが、雪山の醍醐味と雪景色を十二分に堪能した。なお雪が深くて高取山への縦走はあきらめた。
(参加者) 小林 稔 河辺牧男 近藤英夫 山田晨三 高杉 博 奥村一平 小林 実 篠崎武男 奏井幸生 ◎斎野 明 (計10名)

鈴鹿・クラシとイブネ
(雪山に遊ぶ—1)
1月25日(日) 小雪
朝明渓谷入口・千草峠駐車場8・00—朝明林道8・30—根ノ平峠11・00—神崎川12・00(昼食) 12・30—小尾根乗越13・10—クラシ谷13・40—神崎川14・30—朝明林道16・30(解散)
雪が深く交代でラッセルしながら進む。神崎川は一面雪の原、空身で渡渉して深雪のオブジェを泳ぐ。乗越からトラバースに入るが急斜面は雪崩の危険もあり、きょうはここまでにして引き返した。心地よい雪の子に遊んでもらった。
(参加者) 宮村信夫 大石清英 小田妙子 中村雅次 豊田真理子 池田隆一 山田明男 今岡長代 熊木義雄 ○木村吉男 ◎筒井克治 (計11名)

雪に埋まる神崎川を渡る

泉南・お菊山
1月26日(日) 晴れ
JR長滝駅10・00—滝ノ池10・55—稜線12・00(昼食) 12・40—林道14・00—日根野駅15・20(解散)
馬の背を踏み、やぶの中を急登して稜線に出た。鼻歌まじりで西へ向かったが、不明瞭な踏み跡に出くわして当惑。山頂は次の機会にゆずり下山した。それでも稜線からの関西新空港方面の眺望はすばらしかった。
(参加者) 大村太郎 山本 勉 森本正雄 山野 貢 藤村勝彦 野口 修 増本芳雄 堀 久子 李藤好子 西田一夫 中村和香 前田政雄 立川邦夫 山口岩夫 吉川裕子 荒井寛子 岩本いすゞ 夏伏 昭 中村和子 ○西上利和 ◎福本勇作 (計22名)

善三坂から天ヶ岳
(京都北山歩き49)
2月2日(日) 曇り
銀閣寺前駅8・30(集合) 8・45(電車)鞍馬駅9・15～25—葉王坂9・45—三宝岳11・20～30—天ヶ岳12・30—鉄塔広場12・45(昼食) 13・50—シャクナゲ尾根分岐14・20—ミチバタ谷林道15・15～30—桜元院前15・45(解散)—大原バスターミナル16・00(バス) 京都市内へ
山頂付近は50㎝の積雪があり、北山らしい冬山登山を楽しんだ。風のない暖かい日が幸いだった。
(参加者) 本岡俊次 小田晴子 川端敏子 川端節治 近藤 恭 三井紘一 東野嘉子 向田 豊 福本芳雄 小川時夫 草野智雅子 石田芳弘 中山茂子 井林寿恭子 竹田春夫 青木一雄 野野宏彦 小林 稔 吉田義宏 福本智二郎 近江秀子 堀 久子 田畑三郎 奈良邦子 山岸徳雄 加藤佳彦 今西光男 武部 剛 武藤英志子 岡松雅子 大橋宗造 竹内青久子 浅田俊男 立江武史 城月満幸 御田守子 高橋由紀子 藤井寿子 宮崎崇喜 佐田次男 森島紀美代 中村修香 森場昌義 林 佳弘 血原治男 血原智子 林 妙子 下西 昶 若木修二 寺本幸男 松井孫永 古川裕子 三宅 明 本村修雄 松田好弟 形村安代 金森園子 横井志子 多賀久子 下村啓子 林 鶴子 岩本いすゞ 中川光郎 西上利和 長塚恵子 上坂延夜 藤村勝彦 平山日那子 隣 義子 明神成行 荒巻正勝 北川文子 前田幸子 安倉正勝 ○呉北裕美 岩城豊子 ◎村田智慶 (計80名)

北摂・湯谷ヶ岳から満願山
(水晶ハイク7)
2月5日(水) 曇り時々晴れ
JR茨木駅8・44(バス)銭原9・40—青少年野外センター10・05—湯谷(福泉寺)10・55—湯谷ヶ岳・20—豊能キャンプセンター12・15(昼食) 12・45—寺田登山口13・15—満願山13・45—神地(乳の泉)14・45～15・00(解散)
前日までの寒波は去り、風もなく絶好の登山日和となった。登山者の少ない二山を訪ね、雪を踏みしめ一部道のないところも歩いて楽しみました。
(参加者) 川端敏子 草野智雅子 藤村勝彦 今西光男 稲本芳雄 大橋隆造 仲秋豊子 山下恒三 立川邦夫 池田鈴子 佐藤春義 松山みつ 冨田 努 堅田美奈子 芝野泰明 人見主信 西田美津子 村井 武 中村美雄 中路加代子 田辺弘子 川上友堅 桑本いつ子 戸根 茂 武田久子 青木一雄 木村太郎 都司三江 中上紀代子 北尾信夜 城月満幸 吉元あや子 奥田治一 浦上 明 千葉千枝子 中村健香 今西光男 稲本芳雄 大橋和子 山本千鶴子 兼田幸子 中山芳治 小林伊佐子 辻 行子 白根清子 奥村法子 岡崎定夫 巻田 晃 菊池すみ子 永井哲男 反口伸幸 藤田千恵子 前田政雄 中村和子 吉條孝次 山本雅子 村瀬綾子 和泉五二 奥田真雄 今村 眞 佐田次男 ○西沢広二 ○岡田 昇 ◎湯浅次男 (計62名)

大峰・稲村ヶ岳
2月6日(日)～9日(日) 一泊2日
(8日 晴れ) 近鉄下市口駅13・00(集合・バス)洞川14・30—紀の国屋民宿八旅館14・40(自由散策・泊)
(9日 晴れ) 旅館7・30—稲村ヶ岳登山口7・40—法力峠9・00～10—山上辻稲村小屋広場11・00(昼食) 12・00—法力峠13・15～25—登山口14・20—旅館14・30—洞川温泉センター14・40(入浴・休憩) 15・40—洞川16・00(バス) 下市口駅17・30(解散)
「稲村ヶ岳へは大日キレットから先のガレ場が相当のため通行できない」との先行者の話で、山上辻までで引き返した。暖かすぎて樹氷はなかったが、展望よく大峰山系の白い峰々がクッキリと見えた。洞川温泉では日頃の疲れを解消した。
(参加者) 近藤 恭 前川 一 森川信之 荒井寛子 小山晴美 阿部邦彦 明神成行 井林寿恭子 奥田自雄 象森節子 山高多恵子 青木一雄 石田賢二 長尾裕美 高岡信男 近江秀子 安田文美江 日高史絵 奥村誠治 堅田美奈子 小西静雄 半藤和巳 城月満幸 前田幸子 森脇長義 岡田真介 秋田橋師 鈴木吉和 富岡敏子 市川智子 古田富子 岡崎なか乃 小嶋政子 光川二美子 ○山高義治 ◎村田智慶 (計32名)

日本コバ
(鈴鹿を歩く22)
2月9日(日) 晴れ
もみじ平9・10—笠松尾根9・50—日本コバ山頂部12・15(昼食) 13・00—遊歩道14・15—もみじ平14・35(解散)
リーダーの岩野氏が急用で参加できなかったが、サブの指揮のもと笠松尾根の急登と深雪をラッセルして山頂付近まで到着できた。春のような陽気のなか、途中の尾根から八草寺ダム湖の背後に広がる鈴鹿中部の大観を楽しんだ。
(参加者) 山形 明 大石清英 吉原 務 小林 稔 谷 久雄 森澤元博 森澤敏子 近藤英夫 三井紘一 山田晨三 大隅和洋 奥井孝生 高杉 博 豊田真理子 竹内利夫 高橋 宣 河辺牧男 寺井恒夫 川上友堅 池田喜彦 池田繁美 藤崎武男 ○小林 実 ◎山本久雄 (計24名)

会員募集

山想同人・峰

ありきたりの日常からとび出して、けもの道を探してみませんか。
ひとりひとりが精神的に解放されお互いの個性を認め合い、自由に山の中を歩き回ります。
やっと登りきった山頂に立つとみんな笑顔でうかれてきます。
このようになごやかな会ですが、本誌でおなじみの山形樹之さんもご一緒です。
さあ、みなさん!!
きょうから「峰」の会員になりましょう。
入会は随時、申し込み・お問い合せは左記へ。
〈連絡先・倉藤まで〉
(昼) 06(761)4350
(夜) 06(946)3396
〈事務局〉
〒559 大阪市住之江区南港中2の2の44の923 喜橋一郎方

鈴鹿・竜ヶ岳

（雪山に遊ぶ2）

2月11日(祝)　風雪と地吹雪

宇賀渓谷入口駐車場8・00－林道終点8・20－P2テラス9・00－金山10・00－クラ手前11・00（昼食）11・50－竜ヶ岳直下12・30－ホタカ谷源頭13・00－大日向14・00－宇賀渓谷入口15・00－駐車場15・30（解散）

厳冬の山は七変化だった。金山から風雪が強くなり、稜線手前で昼にした。クラを越えたところで吹雪が強くなり竜ヶ岳直下で引き返した。雪庇の尾根は時おり白の当たるくだり道。大日向からの美林の中で雪が鳴りまた楽なくりの吹雪になった。

（参加者）大石将美　藤村勝彦　小田妙子　本下信行　医井幸生　金原時男　永戸哲次　谷　久雄

◎岡井克治　（計9名）

比良・武奈ヶ岳

2月16日(日)　◎村田智俊

雨天のため中止しました。

湖北・伊吹山

2月23日(日)　晴れ

JR近江長岡駅8・20（集合・車）ゴンドラリフトのりば9・20～10・10（ゴンドラ）三合目10・20～10・45－五合目11・00－伊吹山12・40（昼食）13・45－五合目14・30－三合目15・00～15・10（ゴンドラ）ゴンドラリフトのりば15・20（解散）

ゴンドラ乗船までに長時間を要すなどスキー客の混雑に悩まされたが、終日青空に恵まれ、山頂の見事な雪景色と大展望に雪山の魅力を満喫し、冬の伊吹山を堪能した。

（参加者）金森節子　堅田美奈子　下村啓子　田辺弘子　南　宣子　徳田暢子　芦井宣子　呉比裕実　田中博子　福本芳雄　森川信之　西口夏雄　横井　徹　星加弘之　伊藤前男　小林　桂　村田智俊　狩野東彦　◎奥井幸生　（計20名）

金剛・北宇智から金剛山

2月23日(日)　晴れ

JR北宇智駅9・20（集合）9・30－登山口10・15～25－天ヶ滝10・50～55－山の平11・30－ピクニック広場12・10（昼食）13・10－展望台13・20－逆出岳13・40～45－国見城跡14・00～20－セト14・40－登山口バス停15・40（解散）

15・56（バス）河内長野駅16・26

晴れの暖かい一日、残雪を踏んで楽しく歩いた。頂上には樹氷の花も一部咲いていた。

（参加者）竹田芳英　岡山忠美子　岡田夏介　川路敏子　菊池すみ子　水村太郎　吉福　清　岡田千恵子　平畝英子　真田久子　千葉千枝子　近藤　恭　森本正雄　佐賀章一　中村静吾　船越利明　船越みよ子　城月満幸　青木一雄　堀　久子　布施清美　松井徳永　立川郷夫　山野　貴　朝田政雄　石丸宏太郎　石丸宏子　真田明子　森田幸子　横井泰子　○岡田　昇　◎奥村誠治　（計35名）

霊仙山西南尾根

（鈴鹿を歩く23）

2月23日(日)　晴れ

寺院広場8・30－落合9・20－汗ふき峠10・25－見晴台11・10－霊仙山南尾根12・10（昼食）12・50－霊仙山13・10－最高峰13・25－近江展望台14・20－笠取14・50－今畑登山口15・40（解散）

近年にない積雪で山全体が樹氷の花で輝いていた。新ルートから霊仙山南尾根・霊仙山・最高峰、そして雪庇の張り出した西南尾根

本部からのお知らせ

定価改定と年会費の値上げについて

今月号の第34号（97年初夏5・6月号）より本誌の定価を5000円（税込）に改定しました。それに伴い年会費を3000円（入会金500円はそのまま）に値上げします。

創刊号は64ページ・450円で発足しましたが、現在は96ページに増加しています。また紙資源率の引き上げなど諸般の事情もございますので、会員の皆様にはどうぞ御理解ご了承くださいませ。

今後継続の方は3000円、新入会の方は3500円（夫婦でご入会の方は4000円）となります。今号に挿入の新しい振替用紙をご使用くださるようお願い申し上げます。

平成9年4月

新ハイ関西（代表）村田智俊

からは雄大な眺望と樹氷の花にと大満足の思い出深い山行になった。

（参加者）大石将美　藤村勝彦　小林　桂　森澤元博　河合正彦　中川博史　尾野正弘　三井紘一　河辺政男　谷　久雄　吉田直二　池田隆一　今村　貞　近藤英夫　高杉　博　山田堅三　高村孫三郎　林眞寿生　成清　茂　豊田真理子　鈴木　崩　竹田利夫　高橋　宣　奥村一平　松木右文　馬場彌栄子　武村千鶴　池田彦逸　池田繁美　朝倉栄夫　小林　実　篠崎武男　◎宮野　明　（計23名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い旅代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6号分）を届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（送料共）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご明記ください。

尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2かたに一～二回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。

経験のある人で、やってみたいと思われる人は、当分本部（村田）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間の皆さんです。会員番号3181から3268まで

【標芳】　河内真美子
【長知】　青木周子　玉井鶴雄
中谷雄男
【三重】　伊東良治　小山　稔
木村吉秀　西口夏雄　林　八栄子
菊谷　清　永戸鉄治
【滋賀】　神山弥生　中川友昭
篠崎武男　田中真美　北浜靖朗
【京都】　須山義弘　重富和幸
王藤博子　湖正　京　東　美智子
三上勝行　平倉益子　平井佐代子
吉田雪子　緒方由子　亀田八重子
三浦孝治　三浦孝治　谷島美津代
望月　潔　柳本利雄　辻　克子
石田孝子　小沢良子　中坊智代
【大阪】　守本　至　島　勲子
東村松興　東野孫美　大野正夫
大野義男　田中秀麗　藤井健造
福島良博　福嶋和子　三竹政之
嶋津愛子　石井愛至　石井恵美子
青山孝子　宮田　稔　長尾美紀子
宝井孝介　宝井広美　小倉友子
永田和子　安田　透　安田良子
【奈良】　岡部宏子　利田久子
瓜阪利明　木村正弘　木村千代子
吉田順人　辻　博之　辻坂はるみ
堅田幹夫
【和歌山】　谷　一　吉成悦嗣
走久　智　神井孝和
【兵庫】　上野幸市　南　昌明
吉田茂夫　松本徳郎　井上恵理子
黒谷清文　坂本政和　長和紘一郎
甲斐市二　甲斐陣子　斎藤　隆
斎藤妙子　立花　鉄　古福ミチコ
吉谷朝男　吉谷淑子　（85名）

訂正とお詫び

33号（晴春）26ページ中段14行目の「滝川温泉」は「滝川温泉」が正しい。

33号（晴春）29ページ中段11行目「……飛び出た稜線を左に行けば山頂で、」は「……飛び出た稜線を右に行けば山頂で、」が正しい。

33号（晴春）43ページ上段8行目「……殺風景した」は「……殺風景した」が正しい。

33号（晴春）43ページ中段8行目「……未練を残されし……」は「……未練を残されし……」が正しい。

33号（晴春）88ページ三段6行目「大峰・白屋山」は「台高・白屋岳」が正しい。

（編集部）

毎号お求めになりたい人へ

前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。（偶数月の20日ごろ（隔月刊）の発売です。